

九州大学学生の北崎校区への
居住可能性に関する研究

2016年

九州大学大学院工学府

都市環境システム工学専攻

河津 憲嗣

鍛治 昌男

2016.3.8

木風口明孝


目次

目次.....	1
第1章 研究背景と目的.....	4
1-1 研究の背景.....	4
1-1-1 背景.....	4
1-1-2 北崎の概要.....	4
1-1-3 北崎における地域づくり活動の取り組み.....	6
1-1-4 北崎の人口に関する課題.....	7
1-1-5 北崎地域の特徴.....	22
1-2 研究の目的.....	23
1-3 既往研究.....	23
1-4 研究の構成.....	24
第2章 北崎の将来人口予測.....	26
2-1 予測方法.....	26
2-1-1 コーホート変化率法を用いた北崎校区の人口予測.....	26
2-1-2 将来人口推計に用いるデータ.....	27
2-2 予測結果.....	28
2-2-1 住民基本台帳のデータの整理.....	29
2-2-2 変化率の設定.....	29
2-2-3 北崎における5-79歳の将来人口予測.....	31
2-2-4 北崎における0-4歳の将来人口予測.....	31
2-2-5 北崎における80歳以上の将来人口予測.....	32
2-2-6 全人口の将来人口予測.....	32
2-3 考察.....	36
2-3-1 北崎の人口推移と高齢化率.....	36
2-3-2 北崎の小、中学校の統廃合の可能性.....	40
2-4 小結.....	44
第3章 調査方法.....	46
3-1 調査票の作成.....	46
3-1-1 質問方法の決定.....	46
3-1-2 北崎についての事前説明資料.....	46
3-1-3 質問項目の選定.....	49
3-2 本調査.....	53
3-2-1 調査対象者.....	53

3-2-2 標本数の決定	53
3-2-3 調査方法.....	53
3-3 調査結果の分析手法.....	53
 第 4 章 一次調査結果.....	54
4-1 回答者の属性	54
4-1-1 回答者の性別	54
4-1-2 回答者の学年.....	55
4-1-3 回答者の所属学部（学府）	56
4-2 回答者の嗜好性	57
4-2-1 アウトドア派かインドア派か.....	57
4-2-2 自然環境豊かなところで住むことへの興味	58
4-2-3 地域活動に参加することへの興味	59
4-2-4 住むエリアを選ぶ際に考慮する事	60
4-2-5 住まい探しの際に使う情報源.....	62
4-2-6 北崎の知名度	64
4-3 北崎の居住に対する意識	65
4-3-1 現在の北崎に住んでみたいか.....	65
4-3-2 北崎の何が魅力を感じるか	66
4-3-3 北崎に住む上で課題となる事項	68
4-3-4 居住形態の希望	70
4-3-5 糸島市が行うサービスがあった場合の居住可能性.....	71
4-3-6 北崎に住む上で課題となる事項に対する改善案	72
4-3-7 課題が改善された場合の北崎の居住可能性	75
4-3-8 北崎に住みたくない理由	76
 第 5 章 一次調査結果の分析	77
5-1 現状の北崎に住みたい学生の傾向	77
5-1-1 性別による傾向	77
5-1-2 学年による傾向.....	78
5-1-3 主要キャンパスによる傾向	79
5-1-4 アウトドア派かインドア派かによる傾向	80
5-1-5 自然環境が豊かなところで住む事への興味による傾向	81
5-1-6 地域活動への参加に対する興味による傾向	82
5-1-7 住むエリアを選ぶ際に考慮する項目による傾向	83
5-1-8 北崎を知っているか知らないかによる傾向	88
5-1-9 北崎の何に魅力を感じるかによる傾向	89
5-2 現在の北崎に住みたい学生の北崎への期待.....	90

5-3 現在の北崎に住みたくない学生が持つ課題と改善案	94
5-3-1 交通の改善	94
5-3-2 買い物の改善	95
5-3-3 その他の改善	97
5-3-4 現在の北崎の居住可能性を上げるために改善案に関する考察	97
5-4 小結	99
 第 6 章 二次調査結果	100
6-1 ヒアリング結果	100
6-2 結果の分析	105
6-3 小結	106
 第 7 章 考察	107
7-1 北崎の大学生人口比率を福岡市と同程度にするために必要な九大生の移住人数	107
7-2 北崎内の空き家数の将来予測	110
7-3 空き家問題に対する居住可能性があると考えられる九大生の影響	112
7-4 小結	112
 第 8 章 結論	113
8-1 結論	113
8-2 今後の課題	113
 謝辞	114

第1章 研究背景と目的

1-1 研究の背景

1-1-1 背景

我が国の人団は、2008年より減少傾向にある。人口問題研究所の統計によると、我が国の人団は2048年に1億人を下回るという¹⁾。

全国の人口減少が問題視されている一方で、地方の人口減少はより深刻に進行している。2014年9月に発足した第二次安倍改造内閣の政策の1つとして「地方創生」が掲げられ、これまでの東京一極集中型の社会から地方中心の社会への転換が試みられており、地方の人口流出への関心は高まりつつある。

福岡市は全国の政令指定都市の中でも、2010年から2015年の人口増加率と人口増加数が1位の都市である²⁾。しかしながら、福岡市内のどの地区でも人口が増えているというわけではない。

本研究の対象地である福岡市西区の北崎校区（以降は北崎と記載）は、福岡市に属しているものの、人口減少と少子高齢化を課題とした地区である。

1-1-2 北崎の概要

福岡市西区にある北崎地区は九大伊都キャンパスから車でおよそ15分の所にあり(図1-1)、海山などの自然環境が充実している農山漁村である(図1-2)。北崎は県内でも特に農業、漁業が盛んな地域である。

農業においてはスイカ、大根、花の栽培が特に盛んであり、福岡県内では生産量、生産高共に1位となっている。

漁業においては北崎地区には唐泊漁港、西浦漁港の2つの漁港が存在している。両漁協は福岡市漁業組合に属している。どちらもイワシ漁によるイリコ製造が盛んであったが、イワシの減少に伴い、イワシからタイ・カワハギの漁獲へとシフトしている。また唐泊漁港においては近年、牡蠣の養殖に力を入れている。福岡市農林水産局発行の福岡市農林水産統計書、福岡市水産業の概況から両漁港の従業員数、生産高を抽出した。これらの推移を表したグラフを図1-3、図1-4に示す。

唐泊漁港では、生産高においては昭和36年から昭和53年では増加傾向を示している。一方で昭和53年から平成24年では減少傾向を示している。昭和53年の生産高668,130,000円が最大生産高であり、昭和36年の約8倍、平成24年の3倍である。漁業就業者人数においても、昭和41年から平成26年では昭和41年の196人が最大値であり、常に減少傾向を示している。

西浦漁港では、生産高においては昭和36年から平成3年までは増加傾向を示している。一方で平成3年から平成26年においては減少傾向を示している。平成3年の生産高1,334,650,000円が最大生産高であり、昭和36年の約20倍、平成26年の約2.5倍である。漁業就業者人数においても、昭和39年から平成26年では、昭和49年の341人が最大値であり、昭和49年以前では増加傾向、昭和49年以降では減少傾向を示している。

どちらの漁港においても、生産高、漁業就業者数は共に減少傾向にあり、北崎地区の漁業産業は衰退傾向にあると考えられる。

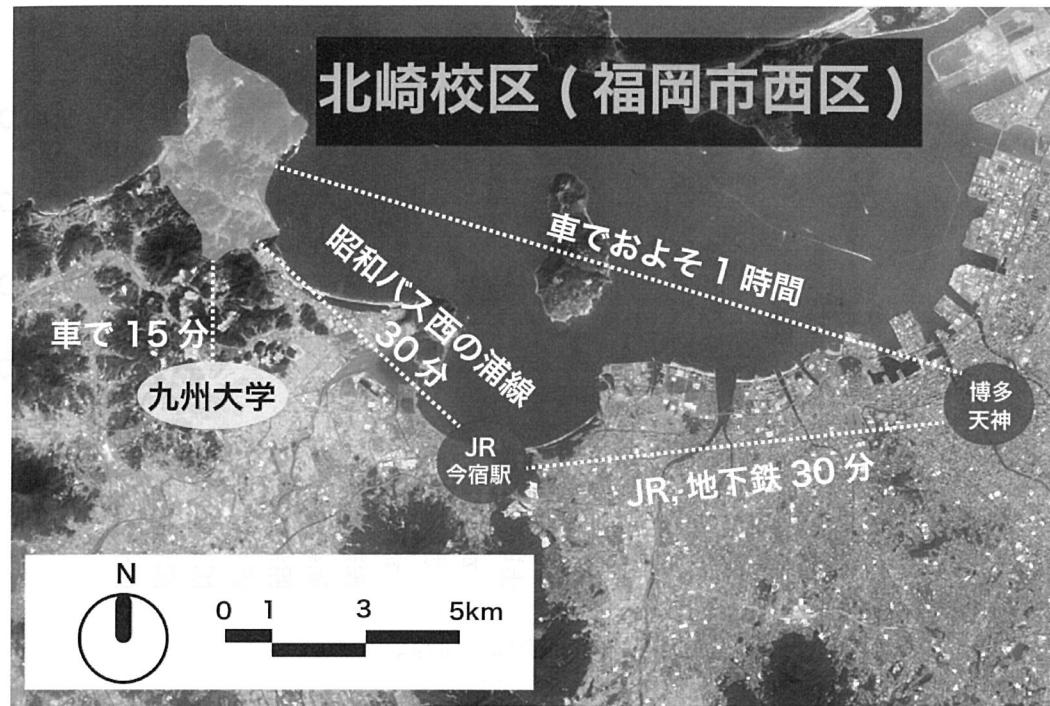


図 1-1 福岡市と北崎の位置を表した地図 (google map より作成)



図 1-2 北崎校区内の唐泊地区の鳥瞰図 (2006 年, 福岡市漁港課提供)

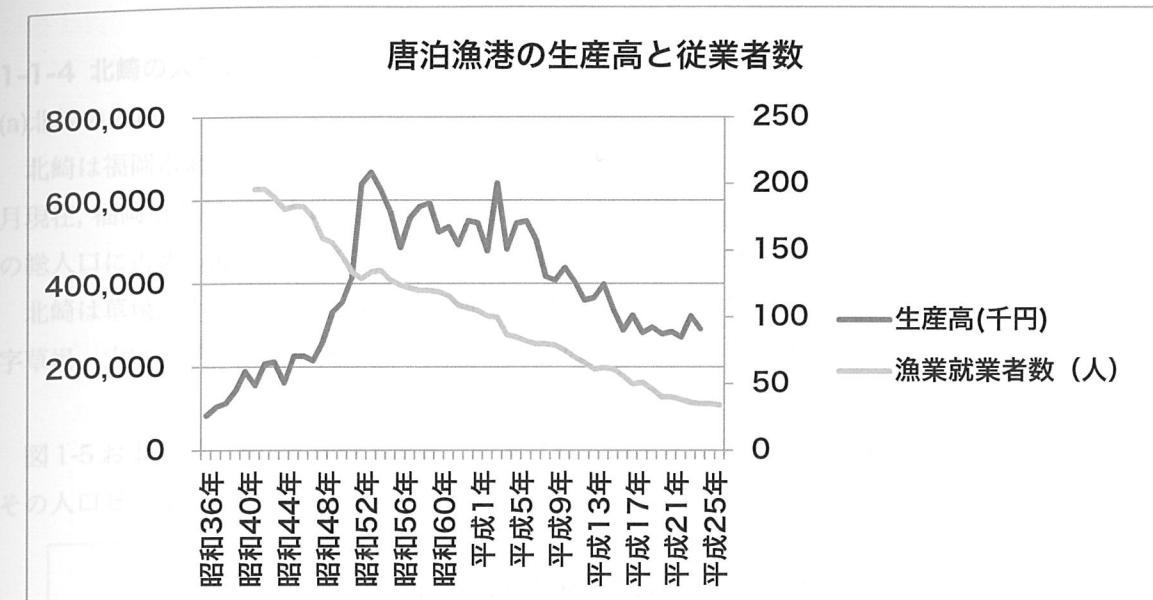


図 1-3 唐泊漁港の生産高と従業者数

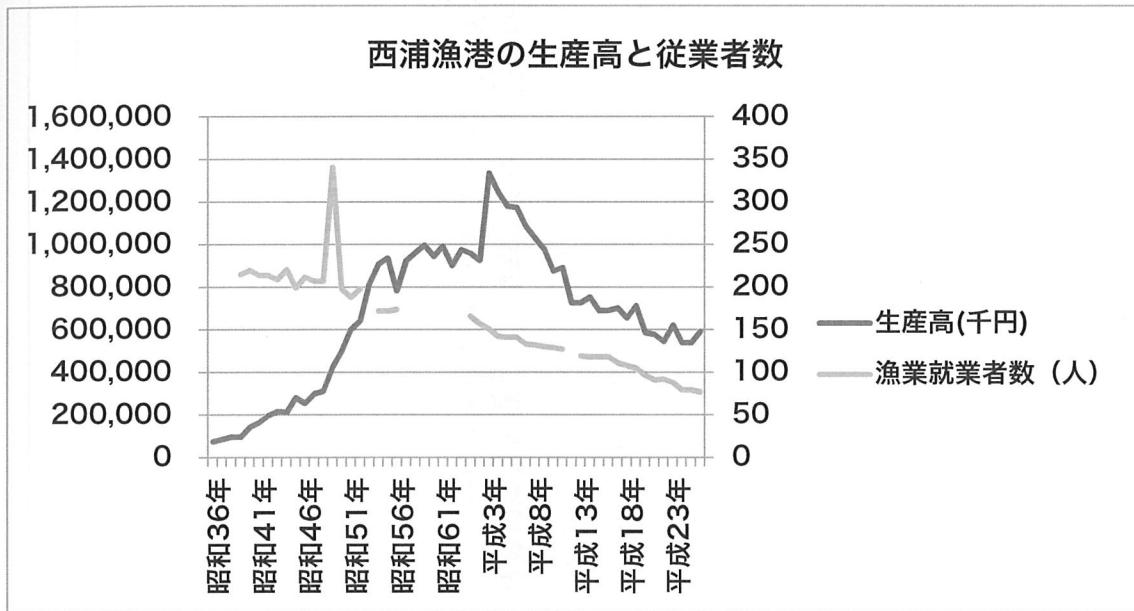


図 1-4 西浦漁港の生産高と従業者数

1-1-3 北崎における地域づくり活動の取り組み

北崎地区では一昨年から地元住民で構成される「北崎を考える会」と九州大学景観研究室とで地域活性化を目的としたまちづくり活動がはじまった。昨年度からは実験的に九大景観研の学生が北崎の唐泊地区において空き家を借りてシェアハウス生活をしている。このように北崎に住む九大生を増やすことが1つの目標となっている。なお、北崎内の空き家の有無とその状態は平成26年度に北崎自治協議会と福岡市が行った空き家調査によって明らかになっているが、現在は学生向けの住居を紹介しているような住居斡旋業者である生協、民間業者等は北崎の空き家を紹介していない。

本年度から北崎の地元住民と九大景観研は「夢を語る会」を立ち上げ、その分科会「シェアハウス活用部会」「国際交流部会」「名物づくり部会」で活動が行われている。

表1-1

1-1-4 北崎の人口に関する課題

(a)北崎の人口

北崎は福岡市北西部に位置する福岡市西区の1校区である。住民基本台帳によると、平成27年9月現在、福岡市西区の総人口は202,467人であり、本研究の対象地である北崎の総人口は2,462人(区の総人口に占める北崎の人口の割合は1.22%)、総世帯数は920世帯である。

北崎は草場、小田、畠中、宮浦、唐泊、西浦岡、西浦浜の7町内で構成され、また大字区分では大字草場、大字宮浦、大字小田、大字西浦の4つの大字で構成されている。

図1-5および表1-1は住民基本台帳に記載されている平成27年9月の北崎校区の各歳級人口およびその人口ピラミッドである。

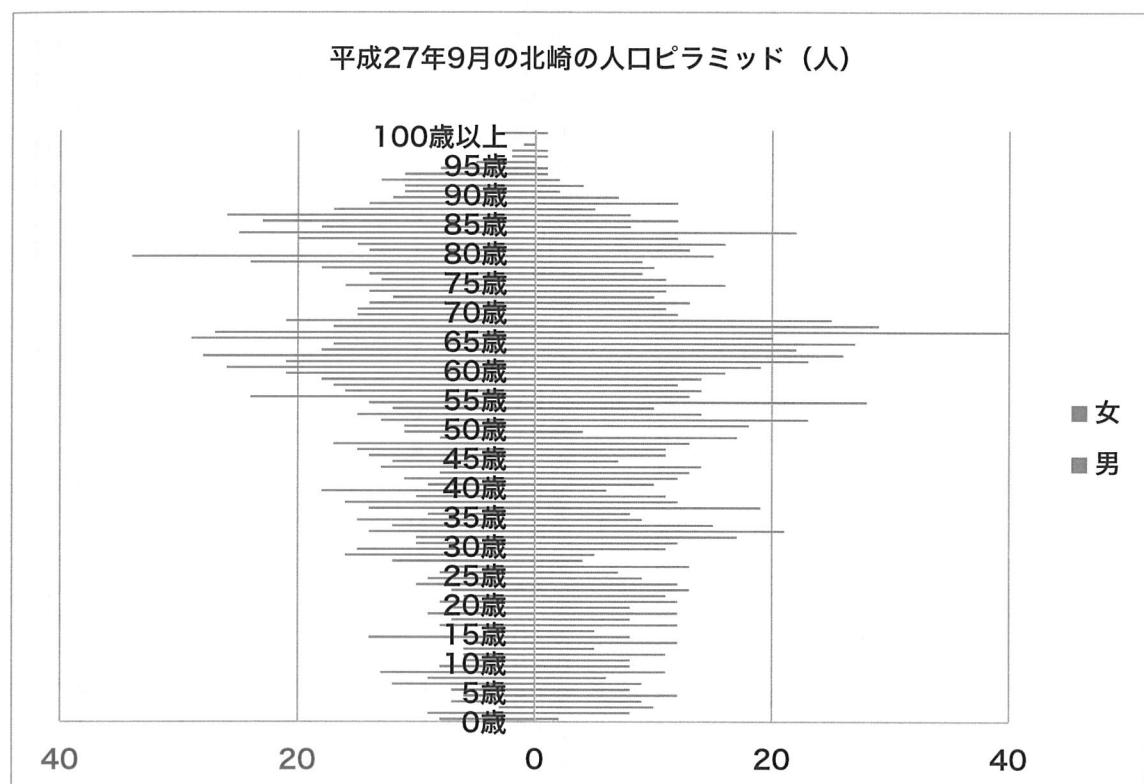


図1-5 平成27年9月の北崎校区の人口ピラミッド

(平成27年9月の住民基本台帳より作成)

表 1-1 平成 27 年 9 月の北崎校区の人口（住民基本台帳より作成）

	総数(人)	男(人)	女(人)				
総人口	2 462	1 159	1 303				
0歳	10	2	8	50歳	29	18	11
1歳	17	8	9	51歳	36	23	13
2歳	13	10	3	52歳	29	14	15
3歳	16	9	7	53歳	22	10	12
4歳	18	12	6	54歳	42	28	14
5歳	15	8	7	55歳	37	13	24
6歳	21	9	12	56歳	30	14	16
7歳	15	6	9	57歳	29	12	17
8歳	24	11	13	58歳	32	14	18
9歳	16	8	8	59歳	37	16	21
10歳	14	8	6	60歳	45	19	26
11歳	17	11	6	61歳	44	23	21
12歳	11	5	6	62歳	54	26	28
13歳	17	12	5	63歳	40	22	18
14歳	22	8	14	64歳	44	27	17
15歳	9	5	4	65歳	49	20	29
16歳	20	12	8	66歳	67	40	27
17歳	15	8	7	67歳	46	29	17
18歳	21	12	9	68歳	46	25	21
19歳	15	8	7	69歳	27	12	15
20歳	20	12	8	70歳	26	11	15
21歳	17	11	6	71歳	27	13	14
22歳	20	13	7	72歳	22	10	12
23歳	22	12	10	73歳	25	11	14
24歳	18	9	9	74歳	32	16	16
25歳	15	7	8	75歳	24	11	13
26歳	20	13	7	76歳	23	9	14
27歳	16	4	12	77歳	28	10	18
28歳	21	5	16	78歳	33	9	24
29歳	26	11	15	79歳	49	15	34
30歳	22	12	10	80歳	27	13	14
31歳	27	17	10	81歳	31	16	15
32歳	35	21	14	82歳	32	12	20
33歳	27	15	12	83歳	47	22	25
34歳	24	9	15	84歳	26	8	18
35歳	17	8	9	85歳	35	12	23
36歳	33	19	14	86歳	34	8	26
37歳	28	12	16	87歳	22	5	17
38歳	21	11	10	88歳	26	12	14
39歳	24	6	18	89歳	19	7	12
40歳	19	10	9	90歳	13	2	11
41歳	23	12	11	91歳	15	4	11
42歳	21	13	8	92歳	15	2	13
43歳	27	14	13	93歳	12	1	11
44歳	19	7	12	94歳	9	1	8
45歳	25	11	14	95歳	5	—	5
46歳	26	11	15	96歳	3	1	2
47歳	30	13	17	97歳	3	1	1
48歳	25	17	8	98歳	1	—	—
49歳	15	4	11	99歳	—	—	—
				100歳以上	4	1	3

(b)福岡市との人口推移の比較(昭和 36 年~平成 23 年)

福岡市の住民基本台帳を元に北崎および北崎各大字の昭和 36 年から平成 23 年までの人口推移グラフを作成した。作成したグラフを下図 1-6 に示す。昭和 36 年から平成 23 年までの約 50 年間では人口は昭和 36 年の 4,830 人を最大値に取り、平成 23 年まで減少し続けている。この約 50 年間では約 2400 人減少し、昭和 36 年時の人口の約半分にまで減少している。大字別に人口を見ても、全ての大字で昭和 36 年に最大値を取り、その後は減少傾向にある。

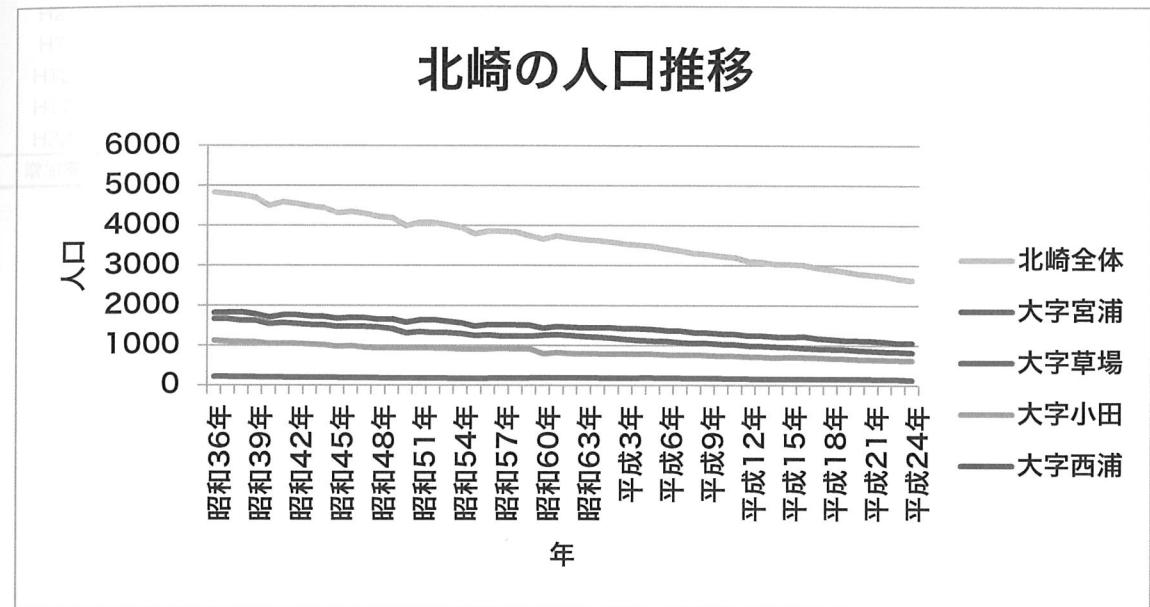


表 1-2 昭和 40 年から平成 22 年における福岡市と北崎の人口の比較

年	福岡市	北崎
S40	769,176	4,498
S45	871,717	4,313
S50	1,002,201	3,992
S55	1,088,588	3,796
S60	1,160,440	3,662
H2	1,237,062	3,580
H7	1,284,795	3,363
H12	1,341,470	3,104
H17	1,401,279	2,936
H22	1,463,743	2,730
増加率	0.9	-0.39

(c)現在の福岡市と北崎の人口構成の比較

表 1-3 は、平成 27 年 9 月の福岡市の人口と平成 27 年 9 月の北崎の人口を比較したものである。また各歳の人口比率から人口ピラミッドを作成した（図 1-7）。

福岡市の人口ピラミッドは都市型を表す星形の人口ピラミッドの形であり、40 歳前後にピークを持ち、かつ生産年齢人口の割合が多いことが見て取れる。また、裾が広がっていることから、出生数が増加している傾向にあることが読み取れる。

一方、北崎の人口ピラミッドを見ると、65 歳前後にピークを持つ壺形または逆三角形に近い形で、かつ第二のピークが 80 歳前後に見られる。裾野はやや狭まっており、出生数が減っていることが読み取れる。

福岡市は都市型の人口構成比であり生産年齢人口や子どもの数が多いにもかかわらず、北崎の人口構成は少子高齢化が顕著である。

仮に北崎の人口構成比を福岡市の人口構成比に近づけるとした場合、65 歳以上人口に不足はないが、0-14 歳人口は計 97 人、15-64 歳人口は計 303 人である。各歳当たり 6,7 人不足していることになる。（表 1-4）

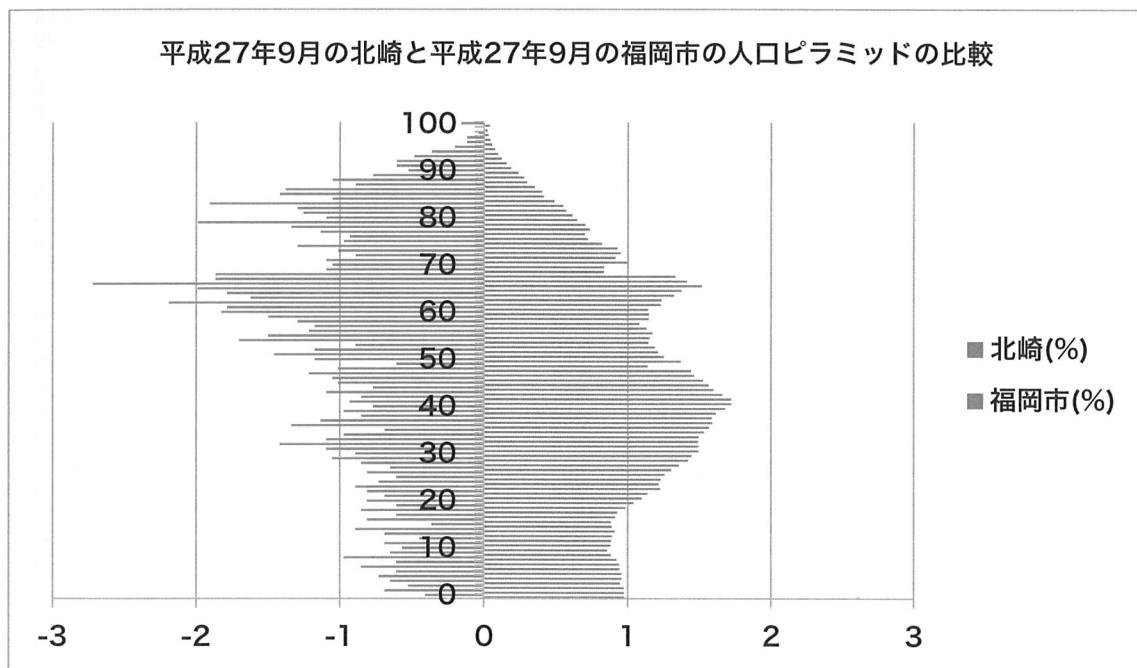


図 1-7 平成 27 年 9 月の北崎と平成 27 年 9 月の福岡市の人口ピラミッドの比較

表 1-3 平成 27 年 9 月における福岡市と北崎の人口と各歳の人口比率

福岡市(人)	北崎(人)	福岡市(%)	北崎(%)	50歳	20 100	29	1.4%	1.2%
0歳	14 374	10	1.0%	0.4%	51歳	18 359	36	1.3% 1.5%
1歳	14 316	17	1.0%	0.7%	52歳	17 763	29	1.2% 1.2%
2歳	14 298	13	1.0%	0.5%	53歳	17 446	22	1.2% 0.9%
3歳	13 894	16	0.9%	0.6%	54歳	16 802	42	1.1% 1.7%
4歳	14 053	18	1.0%	0.7%	55歳	16 924	37	1.2% 1.5%
5歳	14 054	15	1.0%	0.6%	56歳	17 227	30	1.2% 1.2%
6歳	13 869	21	0.9%	0.9%	57歳	16 596	29	1.1% 1.2%
7歳	13 837	15	0.9%	0.6%	58歳	15 878	32	1.1% 1.3%
8歳	13 578	24	0.9%	1.0%	59歳	16 813	37	1.1% 1.5%
9歳	12 979	16	0.9%	0.6%	60歳	16 841	45	1.1% 1.8%
10歳	12 578	14	0.9%	0.6%	61歳	16 746	44	1.1% 1.8%
11歳	12 965	17	0.9%	0.7%	62歳	18 066	54	1.2% 2.2%
12歳	13 019	11	0.9%	0.4%	63歳	18 130	40	1.2% 1.6%
13歳	13 128	17	0.9%	0.7%	64歳	19 413	44	1.3% 1.8%
14歳	13 404	22	0.9%	0.9%	65歳	20 165	49	1.4% 2.0%
15歳	13 096	9	0.9%	0.4%	66歳	22 283	67	1.5% 2.7%
16歳	12 983	20	0.9%	0.8%	67歳	20 721	46	1.4% 1.9%
17歳	13 408	15	0.9%	0.6%	68歳	19 558	46	1.3% 1.9%
18歳	13 646	21	0.9%	0.9%	69歳	12 219	27	0.8% 1.1%
19歳	14 456	15	1.0%	0.6%	70歳	12 250	26	0.8% 1.1%
20歳	15 282	20	1.0%	0.8%	71歳	14 663	27	1.0% 1.1%
21歳	16 124	17	1.1%	0.7%	72歳	13 447	22	0.9% 0.9%
22歳	16 721	20	1.1%	0.8%	73歳	13 956	25	1.0% 1.0%
23歳	18 018	22	1.2%	0.9%	74歳	13 646	32	0.9% 1.3%
24歳	17 831	18	1.2%	0.7%	75歳	12 033	24	0.8% 1.0%
25歳	18 048	15	1.2%	0.6%	76歳	10 621	23	0.7% 0.9%
26歳	18 474	20	1.3%	0.8%	77歳	10 307	28	0.7% 1.1%
27歳	19 165	16	1.3%	0.6%	78歳	10 824	33	0.7% 1.3%
28歳	19 921	21	1.4%	0.9%	79歳	10 369	49	0.7% 2.0%
29歳	20 847	26	1.4%	1.1%	80歳	9 522	27	0.6% 1.1%
30歳	21 220	22	1.4%	0.9%	81歳	9 000	31	0.6% 1.3%
31歳	21 956	27	1.5%	1.1%	82歳	8 387	32	0.6% 1.3%
32歳	21 940	35	1.5%	1.4%	83歳	8 091	47	0.6% 1.9%
33歳	21 869	27	1.5%	1.1%	84歳	7 174	26	0.5% 1.1%
34歳	21 943	24	1.5%	1.0%	85歳	6 105	35	0.4% 1.4%
35歳	22 510	17	1.5%	0.7%	86歳	5 925	34	0.4% 1.4%
36歳	22 988	33	1.6%	1.3%	87歳	5 179	22	0.4% 0.9%
37歳	23 320	28	1.6%	1.1%	88歳	4 373	26	0.3% 1.1%
38歳	23 283	21	1.6%	0.9%	89歳	4 090	19	0.3% 0.8%
39歳	23 669	24	1.6%	1.0%	90歳	3 506	13	0.2% 0.5%
40歳	24 668	19	1.7%	0.8%	91歳	2 747	15	0.2% 0.6%
41歳	25 293	23	1.7%	0.9%	92歳	2 284	15	0.2% 0.6%
42歳	25 285	21	1.7%	0.9%	93歳	1 796	12	0.1% 0.5%
43歳	24 355	27	1.7%	1.1%	94歳	1 430	9	0.1% 0.4%
44歳	23 450	19	1.6%	0.8%	95歳	1 118	5	0.1% 0.2%
45歳	22 962	25	1.6%	1.0%	96歳	768	3	0.1% 0.1%
46歳	22 387	26	1.5%	1.1%	97歳	600	3	0.0% 0.1%
47歳	21 482	30	1.5%	1.2%	98歳	432	1	0.0% 0.0%
48歳	21 147	25	1.4%	1.0%	99歳	324	0	0.0% 0.0%
49歳	16 723	15	1.1%	0.6%	100歳	585	4	0.0% 0.2%
				総計	1 468 418	2 462	100.0%	100.0%

表 1-4 福岡市の人口構成比と北崎の人口構成比の差

年齢	割合差(%)	不足している人 数(人)	年齢	割合差 (%)	不足している人数 (人)
0歳	0.57	14	50歳	0.19	5
1歳	0.28	7	51歳	-0.21	-5
2歳	0.45	11	52歳	0.03	1
3歳	0.30	7	53歳	0.29	7
4歳	0.23	6	54歳	-0.56	-14
5歳	0.35	9	55歳	-0.35	-9
6歳	0.09	2	56歳	-0.05	-1
7歳	0.33	8	57歳	-0.05	-1
8歳	-0.05	-1	58歳	-0.22	-5
9歳	0.23	6	59歳	-0.36	-9
10歳	0.29	7	60歳	-0.68	-17
11歳	0.19	5	61歳	-0.65	-16
12歳	0.44	11	62歳	-0.96	-24
13歳	0.20	5	63歳	-0.39	-10
14歳	0.02	0	64歳	-0.47	-11
15歳	0.53	13	65歳	-0.62	-15
16歳	0.07	2	66歳	-1.20	-30
17歳	0.30	7	67歳	-0.46	-11
18歳	0.08	2	68歳	-0.54	-13
19歳	0.38	9	69歳	-0.26	-7
20歳	0.23	6	70歳	-0.22	-5
21歳	0.41	10	71歳	-0.10	-2
22歳	0.33	8	72歳	0.02	1
23歳	0.33	8	73歳	-0.07	-2
24歳	0.48	12	74歳	-0.37	-9
25歳	0.62	15	75歳	-0.16	-4
26歳	0.45	11	76歳	-0.21	-5
27歳	0.66	16	77歳	-0.44	-11
28歳	0.50	12	78歳	-0.60	-15
29歳	0.36	9	79歳	-1.28	-32
30歳	0.55	14	80歳	-0.45	-11
31歳	0.40	10	81歳	-0.65	-16
32歳	0.07	2	82歳	-0.73	-18
33歳	0.39	10	83歳	-1.36	-33
34歳	0.52	13	84歳	-0.57	-14
35歳	0.84	21	85歳	-1.01	-25
36歳	0.23	6	86歳	-0.98	-24
37歳	0.45	11	87歳	-0.54	-13
38歳	0.73	18	88歳	-0.76	-19
39歳	0.64	16	89歳	-0.49	-12
40歳	0.91	22	90歳	-0.29	-7
41歳	0.79	19	91歳	-0.42	-10
42歳	0.87	21	92歳	-0.45	-11
43歳	0.56	14	93歳	-0.37	-9
44歳	0.83	20	94歳	-0.27	-7
45歳	0.55	13	95歳	-0.13	-3
46歳	0.47	12	96歳	-0.07	-2
47歳	0.24	6	97歳	-0.08	-2
48歳	0.42	10	98歳	-0.01	0
49歳	0.53	13	99歳	0.02	1
100歳以上		-0.12		-3	
年齢 割合差(%) 不足人数 (人)					
0-14歳 3.92 97					
15-64歳 12.29 303					
65歳以上 -16.21 -399					

(d) 現在の全国と北崎の人口構成の比較

表 1-5 は平成 27 年の北崎の人口および各歳人口割合と平成 26 年の全国の人口および各歳人口割合を比較したものである。また各歳の人口比率から人口ピラミッドを作成した（図 1-8）。

なお平成 28 年 1 月 13 日現在、統計局が公表している全国の各歳級人口の最新データは平成 26 年のデータであるが、北崎と 1 年の相違があるが読み取れる傾向に大きな差がないと判断したためこれを利用した。

全国の人口ピラミッドは人口の減少を表すつぼ型の人口ピラミッドの形であり、65 歳前後と 45 歳前後にピークを持つことが見て取れる。また、裾野が狭まっていることから、出生数は減少傾向にあることが読み取れる。

一方、北崎の人口ピラミッドを見ると、65 歳前後にピークを持つ壺形または逆三角形に近い形で、かつ第二のピークが 80 歳前後に見られる。裾野はやや狭まっており、出生数が減っていることが読み取れる。

全国と北崎の人口ピラミッドを比較すると、2 つのピーク点は北崎の方が高年齢層に存在することが読み取れる。また人口割合についても北崎は全国に比べ高年齢層の割合が高く若年層の割合が少ないことが読み取れる。

これらことから、北崎は全国と比較して少子高齢化が進行していると言える。

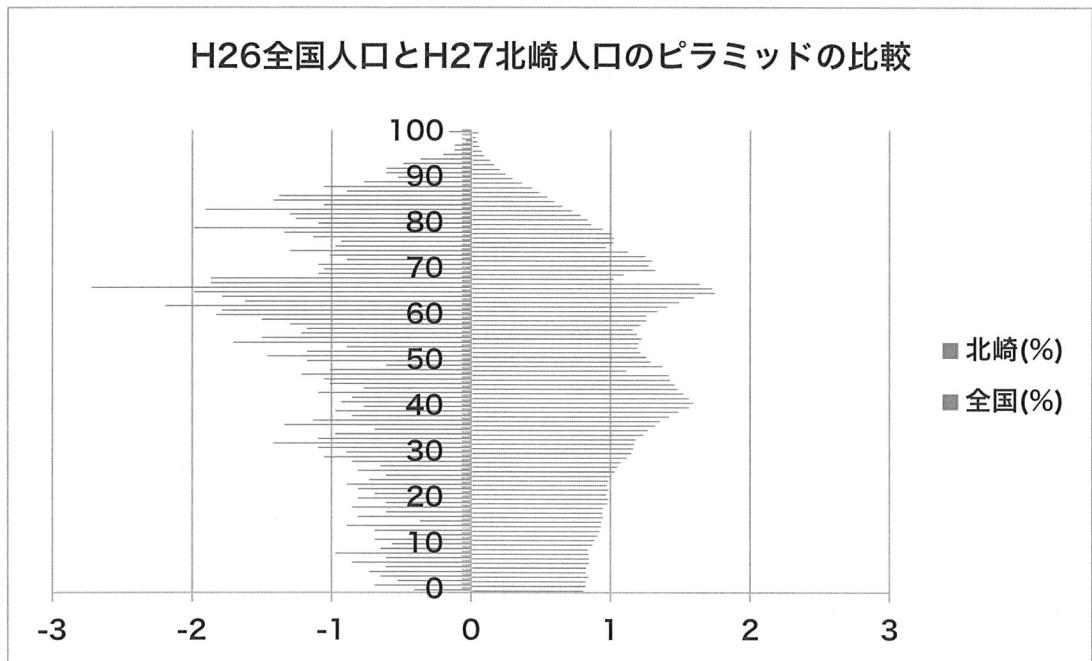


図 1-8 平成 27 年 9 月の北崎と平成 26 年 10 月の全国の人口ピラミッドの比較

表 1-5 平成 26 年 10 月の全国各歳級人口と平成 27 年 9 月の北崎の各歳級人口の比較

年齢	全国(人)	北崎(人)	全国(%)	北崎(%)	年齢	全国(人)	北崎(人)	全国(%)	北崎(%)
0歳	1 020 000	10	0.8%	0.4%	50歳	1 629 000	29	1.3%	1.2%
1歳	1 041 000	17	0.8%	0.7%	51歳	1 589 000	36	1.3%	1.5%
2歳	1 042 000	13	0.8%	0.5%	52歳	1 537 000	29	1.2%	1.2%
3歳	1 067 000	16	0.8%	0.6%	53歳	1 512 000	22	1.2%	0.9%
4歳	1 044 000	18	0.8%	0.7%	54歳	1 523 000	42	1.2%	1.7%
5歳	1 044 000	15	0.8%	0.6%	55歳	1 549 000	37	1.2%	1.5%
6歳	1 073 000	21	0.8%	0.9%	56歳	1 508 000	30	1.2%	1.2%
7歳	1 069 000	15	0.8%	0.6%	57歳	1 466 000	29	1.2%	1.2%
8歳	1 062 000	24	0.8%	1.0%	58歳	1 539 000	32	1.2%	1.3%
9歳	1 059 000	16	0.8%	0.6%	59歳	1 591 000	37	1.3%	1.5%
10歳	1 100 000	14	0.9%	0.6%	60歳	1 592 000	45	1.3%	1.8%
11歳	1 119 000	17	0.9%	0.7%	61歳	1 691 000	44	1.3%	1.8%
12歳	1 150 000	11	0.9%	0.4%	62歳	1 782 000	54	1.4%	2.2%
13歳	1 166 000	17	0.9%	0.7%	63歳	1 887 000	40	1.5%	1.6%
14歳	1 178 000	22	0.9%	0.9%	64歳	2 027 000	44	1.6%	1.8%
15歳	1 180 000	9	0.9%	0.4%	65歳	2 214 000	49	1.7%	2.0%
16歳	1 198 000	20	0.9%	0.8%	66歳	2 191 000	67	1.7%	2.7%
17歳	1 193 000	15	0.9%	0.6%	67歳	2 076 000	46	1.6%	1.9%
18歳	1 196 000	21	0.9%	0.9%	68歳	1 293 000	46	1.0%	1.9%
19歳	1 238 000	15	1.0%	0.6%	69歳	1 381 000	27	1.1%	1.1%
20歳	1 248 000	20	1.0%	0.8%	70歳	1 671 000	26	1.3%	1.1%
21歳	1 227 000	17	1.0%	0.7%	71歳	1 610 000	27	1.3%	1.1%
22歳	1 247 000	20	1.0%	0.8%	72歳	1 641 000	22	1.3%	0.9%
23歳	1 233 000	22	1.0%	0.9%	73歳	1 583 000	25	1.2%	1.0%
24歳	1 248 000	18	1.0%	0.7%	74歳	1 423 000	32	1.1%	1.3%
25歳	1 272 000	15	1.0%	0.6%	75歳	1 223 000	24	1.0%	1.0%
26歳	1 303 000	20	1.0%	0.8%	76歳	1 287 000	23	1.0%	0.9%
27歳	1 332 000	16	1.0%	0.6%	77歳	1 298 000	28	1.0%	1.1%
28歳	1 358 000	21	1.1%	0.9%	78歳	1 273 000	33	1.0%	1.3%
29歳	1 412 000	26	1.1%	1.1%	79歳	1 188 000	49	0.9%	2.0%
30歳	1 456 000	22	1.1%	0.9%	80歳	1 089 000	27	0.9%	1.1%
31歳	1 473 000	27	1.2%	1.1%	81歳	1 055 000	31	0.8%	1.3%
32歳	1 478 000	35	1.2%	1.4%	82歳	990 000	32	0.8%	1.3%
33歳	1 496 000	27	1.2%	1.1%	83歳	911 000	47	0.7%	1.9%
34歳	1 563 000	24	1.2%	1.0%	84歳	823 000	26	0.6%	1.1%
35歳	1 603 000	17	1.3%	0.7%	85歳	755 000	35	0.6%	1.4%
36歳	1 672 000	33	1.3%	1.3%	86歳	685 000	34	0.5%	1.4%
37歳	1 714 000	28	1.3%	1.1%	87歳	614 000	22	0.5%	0.9%
38歳	1 799 000	21	1.4%	0.9%	88歳	551 000	26	0.4%	1.1%
39歳	1 882 000	24	1.5%	1.0%	89歳	458 000	19	0.4%	0.8%
40歳	1 985 000	19	1.6%	0.8%	90歳	372 000	13	0.3%	0.5%
41歳	2 020 000	23	1.6%	0.9%	91歳	307 000	15	0.2%	0.6%
42歳	1 981 000	21	1.6%	0.9%	92歳	253 000	15	0.2%	0.5%
43歳	1 931 000	27	1.5%	1.1%	93歳	203 000	12	0.2%	0.5%
44歳	1 876 000	19	1.5%	0.8%	94歳	170 000	9	0.1%	0.4%
45歳	1 848 000	25	1.5%	1.0%	95歳	110 000	5	0.1%	0.2%
46歳	1 809 000	26	1.4%	1.1%	96歳	89 000	3	0.1%	0.1%
47歳	1 801 000	30	1.4%	1.2%	97歳	68 000	3	0.1%	0.1%
48歳	1 409 000	25	1.1%	1.0%	98歳	52 000	1	0.0%	0.0%
49歳	1 742 000	15	1.4%	0.6%	99歳	32 000	0	0.0%	0.0%
					100歳以上	60 000	4	0.0%	0.2%
					総計	127 078 000	2 462	100%	100%

(e)全国と地方の人口構成の比較（秋田県と佐賀県を例として）

表1-6は、平成26年10月の全国の人口および各歳級人口割合と地方型の人口構成の一例として平成27年9月の秋田県の人口および各歳級人口割合を比較したものである。また各歳の人口比率から人口ピラミッドを作成した（図1-9）。

全国の人口ピラミッドから読み取れることは、前項で述べているので割愛する。

秋田県の人口ピラミッドを全国と比較すると、

- ・秋田県の人口ピラミッドの裾野の勾配は全国よりも急である。
- ・25歳前後の人口比率が全国と比較して低い
- ・55歳以上の人口割合が全国に比べて多い

ということが読み取れる。

のことから、秋田県は全国と比べて少子高齢化が進んでおり、25歳前後の若年層は県外への流出が多いことが分かる。

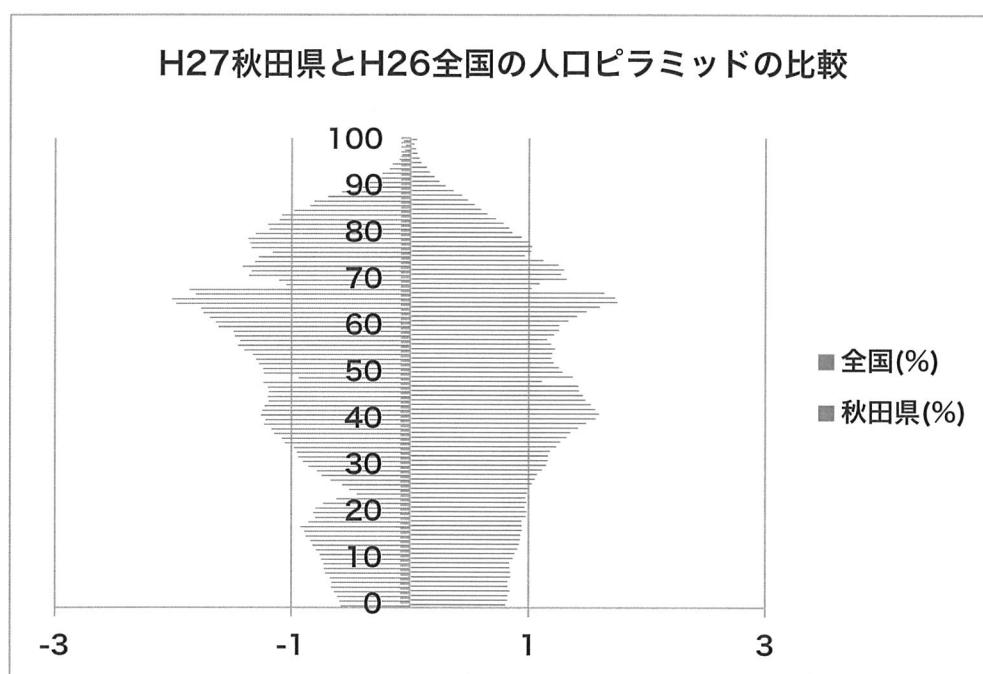


図1-9 平成26年10月の全国と平成27年9月の秋田県の人口ピラミッドの比較

表 1-6 平成 26 年 10 月の全国と平成 27 年 9 月の秋田県の各歳級人口の比較

年齢	全国(人)	秋田県(人)	全国(%)	秋田県(%)	50歳	1629000	12656	1.3%	1.2%
0歳	1020000	5979	0.8%	0.6%	51歳	1589000	12752	1.3%	1.2%
1歳	1041000	6090	0.8%	0.6%	52歳	1537000	13074	1.2%	1.3%
2歳	1042000	6291	0.8%	0.6%	53歳	1512000	13322	1.2%	1.3%
3歳	1067000	6576	0.8%	0.6%	54歳	1523000	13629	1.2%	1.3%
4歳	1044000	6848	0.8%	0.7%	55歳	1549000	14359	1.2%	1.4%
5歳	1044000	6786	0.8%	0.7%	56歳	1508000	14889	1.2%	1.5%
6歳	1073000	6922	0.8%	0.7%	57歳	1466000	14699	1.2%	1.4%
7歳	1069000	7340	0.8%	0.7%	58歳	1539000	15184	1.2%	1.5%
8歳	1062000	7446	0.8%	0.7%	59歳	1591000	15281	1.3%	1.5%
9歳	1059000	7477	0.8%	0.7%	60歳	1592000	16568	1.3%	1.6%
10歳	1100000	7694	0.9%	0.8%	61歳	1691000	16816	1.3%	1.6%
11歳	1119000	7815	0.9%	0.8%	62歳	1782000	17327	1.4%	1.7%
12歳	1150000	8145	0.9%	0.8%	63歳	1887000	17904	1.5%	1.8%
13歳	1166000	8414	0.9%	0.8%	64歳	2027000	18087	1.6%	1.8%
14歳	1178000	8603	0.9%	0.8%	65歳	2214000	20253	1.7%	2.0%
15歳	1180000	9023	0.9%	0.9%	66歳	2191000	20587	1.7%	2.0%
16歳	1198000	9136	0.9%	0.9%	67歳	2076000	18524	1.6%	1.8%
17歳	1193000	9499	0.9%	0.9%	68歳	1293000	19075	1.0%	1.9%
18歳	1196000	8790	0.9%	0.9%	69歳	1381000	10753	1.1%	1.1%
19歳	1238000	8193	1.0%	0.8%	70歳	1671000	11368	1.3%	1.1%
20歳	1248000	8357	1.0%	0.8%	71歳	1610000	13946	1.3%	1.4%
21歳	1227000	8176	1.0%	0.8%	72歳	1641000	13720	1.3%	1.3%
22歳	1247000	7527	1.0%	0.7%	73歳	1583000	14503	1.2%	1.4%
23歳	1233000	6363	1.0%	0.6%	74歳	1423000	13426	1.1%	1.3%
24歳	1248000	4631	1.0%	0.5%	75歳	1223000	13094	1.0%	1.3%
25歳	1272000	5277	1.0%	0.5%	76歳	1287000	11918	1.0%	1.2%
26歳	1303000	5883	1.0%	0.6%	77歳	1298000	13732	1.0%	1.3%
27歳	1332000	6889	1.0%	0.7%	78歳	1273000	13866	1.0%	1.4%
28歳	1358000	7656	1.1%	0.7%	79歳	1188000	14026	0.9%	1.4%
29歳	1412000	8049	1.1%	0.8%	80歳	1089000	13366	0.9%	1.3%
30歳	1456000	8778	1.1%	0.9%	81歳	1055000	12226	0.8%	1.2%
31歳	1473000	9269	1.2%	0.9%	82歳	990000	12344	0.8%	1.2%
32歳	1478000	9709	1.2%	1.0%	83歳	911000	11319	0.7%	1.1%
33歳	1496000	9814	1.2%	1.0%	84歳	823000	11119	0.6%	1.1%
34歳	1563000	10042	1.2%	1.0%	85歳	755000	10093	0.6%	1.0%
35歳	1603000	10825	1.3%	1.1%	86歳	685000	8673	0.5%	0.8%
36歳	1672000	11085	1.3%	1.1%	87歳	614000	8311	0.5%	0.8%
37歳	1714000	11760	1.3%	1.2%	88歳	551000	7158	0.4%	0.7%
38歳	1799000	12007	1.4%	1.2%	89歳	458000	5957	0.4%	0.6%
39歳	1882000	12647	1.5%	1.2%	90歳	372000	5138	0.3%	0.5%
40歳	1985000	12532	1.6%	1.2%	91歳	307000	3945	0.2%	0.4%
41歳	2020000	12917	1.6%	1.3%	92歳	253000	3037	0.2%	0.3%
42歳	1981000	12786	1.6%	1.3%	93歳	203000	2472	0.2%	0.2%
43歳	1931000	12612	1.5%	1.2%	94歳	170000	1865	0.1%	0.2%
44歳	1876000	12231	1.5%	1.2%	95歳	110000	1587	0.1%	0.2%
45歳	1848000	12313	1.5%	1.2%	96歳	89000	982	0.1%	0.1%
46歳	1809000	12215	1.4%	1.2%	97歳	68000	764	0.1%	0.1%
47歳	1801000	12287	1.4%	1.2%	98歳	52000	491	0.0%	0.0%
48歳	1409000	12700	1.1%	1.2%	99歳	32000	437	0.0%	0.0%
49歳	1742000	9662	1.4%	0.9%	100歳以上	60000	610	0.0%	0.1%
					総計	127078000	1021298	100.0%	100.0%

さらに、地方型の人口構成の一例として表1-7は平成26年9月の佐賀県の人口および各歳級人口割合と平成26年10月の全国の人口および各歳級人口割合を比較したものである。図1-10はその人口ピラミッドである。

佐賀県の人口ピラミッドを全国と比較すると、

- ・佐賀県の人口ピラミッドの裾野の勾配は全国よりも急である。
- ・0歳から21歳までの人口割合は全国と比較して大きい
- ・25歳前後の人口比率が全国と比較して低い
- ・65歳以上人口の比率は全国と似ている。

ということが読み取れる。

のことから、佐賀県は全国と比べて少子化が進んでいるが、高齢者の割合は全国平均と同程度であると言える。また25歳前後の若年層は県外への流出が多いことが分かる。

秋田県および佐賀県の人口構成を地方型の人口構成の例として取り上げ、全国の人口構成と比較した。この結果、特徴としては以下の2点が考えられる。

1. 地方型の人口ピラミッドは裾野が狭い、つまり少子化が進んでいる。
2. 地方型の人口ピラミッドは25歳前後に窪みがある、つまり就職等による県外への流出がある。

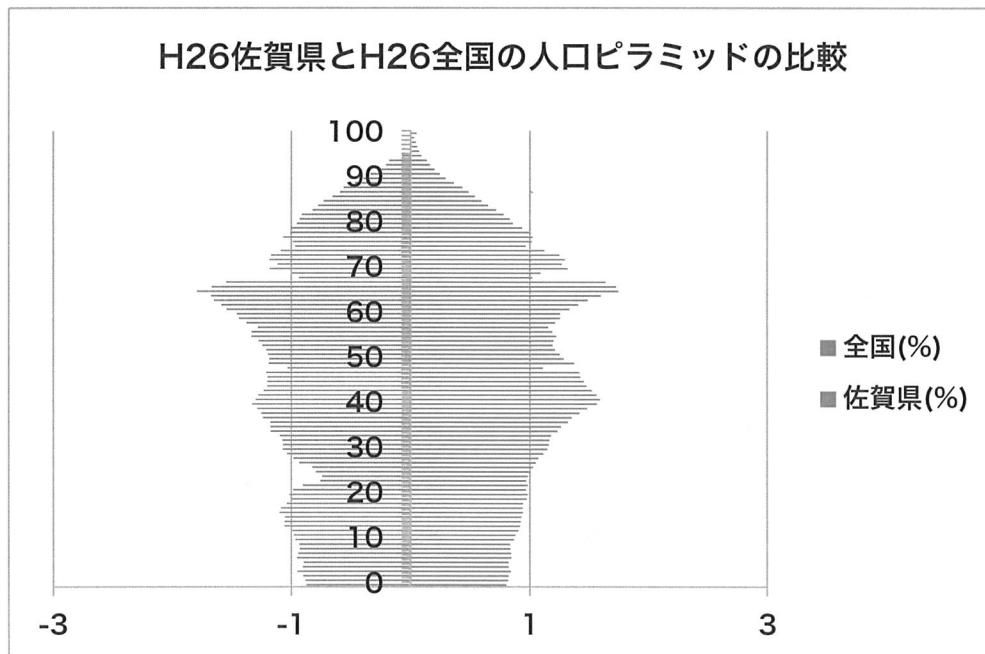


図1-10 平成26年10月の全国と平成26年9月の佐賀県の人口ピラミッドの比較

表 1-7 平成 26 年の佐賀県と全国の人口構成の比較

	全国(人)	佐賀県(人)	全国(%)	佐賀県(%)		50歳	1 629 000	9,848	1.3%	1.2%
0歳	1 020 000	7,280	0.8%	0.9%		51歳	1 589 000	9,929	1.3%	1.2%
1歳	1 041 000	7,327	0.8%	0.9%		52歳	1 537 000	10,066	1.2%	1.2%
2歳	1 042 000	7,488	0.8%	0.9%		53歳	1 512 000	10,320	1.2%	1.2%
3歳	1 067 000	7,890	0.8%	1.0%		54歳	1 523 000	10,610	1.2%	1.3%
4歳	1 044 000	7,521	0.8%	0.9%		55歳	1 549 000	11,103	1.2%	1.3%
5歳	1 044 000	7,455	0.8%	0.9%		56歳	1 508 000	11,084	1.2%	1.3%
6歳	1 073 000	7,928	0.8%	1.0%		57歳	1 466 000	10,653	1.2%	1.3%
7歳	1 069 000	7,829	0.8%	0.9%		58歳	1 539 000	11,448	1.2%	1.4%
8歳	1 062 000	7,708	0.8%	0.9%		59歳	1 591 000	11,961	1.3%	1.4%
9歳	1 059 000	7,771	0.8%	0.9%		60歳	1 592 000	12,126	1.3%	1.5%
10歳	1 100 000	8,037	0.9%	1.0%		61歳	1 691 000	12,842	1.3%	1.5%
11歳	1 119 000	8,132	0.9%	1.0%		62歳	1 782 000	13,183	1.4%	1.6%
12歳	1 150 000	8,335	0.9%	1.0%		63歳	1 887 000	13,709	1.5%	1.7%
13歳	1 166 000	8,807	0.9%	1.1%		64歳	2 027 000	13,916	1.6%	1.7%
14歳	1 178 000	8,793	0.9%	1.1%		65歳	2 214 000	14,879	1.7%	1.8%
15歳	1 180 000	8,771	0.9%	1.1%		66歳	2 191 000	13,853	1.7%	1.7%
16歳	1 198 000	9,137	0.9%	1.1%		67歳	2 076 000	12,859	1.6%	1.6%
17歳	1 193 000	9,046	0.9%	1.1%		68歳	1 293 000	7,785	1.0%	0.9%
18歳	1 196 000	8,635	0.9%	1.0%		69歳	1 381 000	8,291	1.1%	1.0%
19歳	1 238 000	8,317	1.0%	1.0%		70歳	1 671 000	9,827	1.3%	1.2%
20歳	1 248 000	8,458	1.0%	1.0%		71歳	1 610 000	9,286	1.3%	1.1%
21歳	1 227 000	8,197	1.0%	1.0%		72歳	1 641 000	9,845	1.3%	1.2%
22歳	1 247 000	7,507	1.0%	0.9%		73歳	1 583 000	9,734	1.2%	1.2%
23歳	1 233 000	6,307	1.0%	0.8%		74歳	1 423 000	9,065	1.1%	1.1%
24歳	1 248 000	6,183	1.0%	0.7%		75歳	1 223 000	8,058	1.0%	1.0%
25歳	1 272 000	6,613	1.0%	0.8%		76歳	1 287 000	8,205	1.0%	1.0%
26歳	1 303 000	6,861	1.0%	0.8%		77歳	1 298 000	8,894	1.0%	1.1%
27歳	1 332 000	7,763	1.0%	0.9%		78歳	1 273 000	8,401	1.0%	1.0%
28歳	1 358 000	8,168	1.1%	1.0%		79歳	1 188 000	8,371	0.9%	1.0%
29歳	1 412 000	8,600	1.1%	1.0%		80歳	1 089 000	7,945	0.9%	1.0%
30歳	1 456 000	8,923	1.1%	1.1%		81歳	1 055 000	7,747	0.8%	0.9%
31歳	1 473 000	8,895	1.2%	1.1%		82歳	990 000	7,575	0.8%	0.9%
32歳	1 478 000	8,943	1.2%	1.1%		83歳	911 000	6,859	0.7%	0.8%
33歳	1 496 000	9,126	1.2%	1.1%		84歳	823 000	6,459	0.6%	0.8%
34歳	1 563 000	9,756	1.2%	1.2%		85歳	755 000	6,085	0.6%	0.7%
35歳	1 603 000	9,773	1.3%	1.2%		86歳	685 000	5,460	0.5%	0.7%
36歳	1 672 000	9,774	1.3%	1.2%		87歳	614 000	4,940	0.5%	0.6%
37歳	1 714 000	10,304	1.3%	1.2%		88歳	551 000	4,692	0.4%	0.6%
38歳	1 799 000	10,411	1.4%	1.3%		89歳	458 000	3,922	0.4%	0.5%
39歳	1 882 000	10,684	1.5%	1.3%		90歳	372 000	3,307	0.3%	0.4%
40歳	1 985 000	11,045	1.6%	1.3%		91歳	307 000	2,832	0.2%	0.3%
41歳	2 020 000	10,806	1.6%	1.3%		92歳	253 000	2,148	0.2%	0.3%
42歳	1 981 000	10,632	1.6%	1.3%		93歳	203 000	1,747	0.2%	0.2%
43歳	1 931 000	10,245	1.5%	1.2%		94歳	170 000	1,536	0.1%	0.2%
44歳	1 876 000	10,007	1.5%	1.2%		95歳	110 000	634	0.1%	0.1%
45歳	1 848 000	9,988	1.5%	1.2%		96歳	89 000	-	0.1%	0.0%
46歳	1 809 000	9,978	1.4%	1.2%		97歳	68 000	-	0.1%	0.0%
47歳	1 801 000	10,070	1.4%	1.2%		98歳	52 000	-	0.0%	0.0%
48歳	1 409 000	8,593	1.1%	1.0%		99歳	32 000	-	0.0%	0.0%
49歳	1 742 000	9,893	1.4%	1.2%	100歳以上	60 000	-	0.0%	0.0%	
					総計	127 078 000	828 749	100.0%	100.0%	

(f) 北崎と地方型の人口構成の比較（秋田県を一例に）

次に、平成 27 年 9 月の秋田県と北崎の人口ピラミッドを比較する。

表 1-8 は秋田県の人口および各歳級人口割合と北崎の人口及び各歳級人口割合を比較したものである。また、図 1-11 は秋田県と北崎の人口ピラミッドを比較したものである。

2 つの人口ピラミッドを比較すると、形状が似ていることが分かる。なお秋田県で見られる 25 歳前後の窪みは北崎では顕著に現れていない。

形状が似ていることから、北崎の人口構成は概ね地方型に近いと判断される。

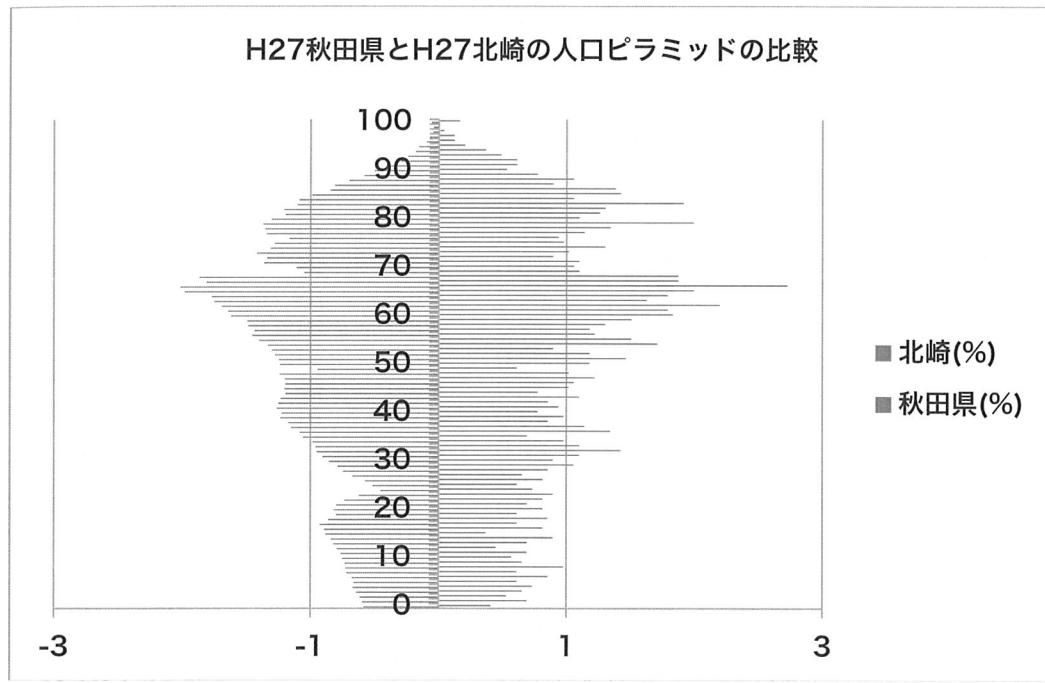


図 1-11 平成 26 年 10 月の全国と平成 26 年 9 月の佐賀県の人口ピラミッドの比較

表1-8 平成27年9月の秋田県と北崎の人口構成の比較

年齢	秋田県(人)	北崎(人)	秋田県(%)	北崎(%)	年齢	秋田県(人)	北崎(人)	秋田県(%)	北崎(%)
0歳	5,979	10	0.6%	0.4%	50歳	12,656	29	1.2%	1.2%
1歳	6,090	17	0.6%	0.7%	51歳	12,752	36	1.2%	1.5%
2歳	6,291	13	0.6%	0.5%	52歳	13,074	29	1.3%	1.2%
3歳	6,576	16	0.6%	0.6%	53歳	13,322	22	1.3%	0.9%
4歳	6,848	18	0.7%	0.7%	54歳	13,629	42	1.3%	1.7%
5歳	6,786	15	0.7%	0.6%	55歳	14,359	37	1.4%	1.5%
6歳	6,922	21	0.7%	0.9%	56歳	14,889	30	1.5%	1.2%
7歳	7,340	15	0.7%	0.6%	57歳	14,699	29	1.4%	1.2%
8歳	7,446	24	0.7%	1.0%	58歳	15,184	32	1.5%	1.3%
9歳	7,477	16	0.7%	0.6%	59歳	15,281	37	1.5%	1.5%
10歳	7,694	14	0.8%	0.6%	60歳	16,568	45	1.6%	1.8%
11歳	7,815	17	0.8%	0.7%	61歳	16,816	44	1.6%	1.8%
12歳	8,145	11	0.8%	0.4%	62歳	17,327	54	1.7%	2.2%
13歳	8,414	17	0.8%	0.7%	63歳	17,904	40	1.8%	1.6%
14歳	8,603	22	0.8%	0.9%	64歳	18,087	44	1.8%	1.8%
15歳	9,023	9	0.9%	0.4%	65歳	20,253	49	2.0%	2.0%
16歳	9,136	20	0.9%	0.8%	66歳	20,587	67	2.0%	2.7%
17歳	9,499	15	0.9%	0.6%	67歳	18,524	46	1.8%	1.9%
18歳	8,790	21	0.9%	0.9%	68歳	19,075	46	1.9%	1.9%
19歳	8,193	15	0.8%	0.6%	69歳	10,753	27	1.1%	1.1%
20歳	8,357	20	0.8%	0.8%	70歳	11,368	26	1.1%	1.1%
21歳	8,176	17	0.8%	0.7%	71歳	13,946	27	1.4%	1.1%
22歳	7,527	20	0.7%	0.8%	72歳	13,720	22	1.3%	0.9%
23歳	6,363	22	0.6%	0.9%	73歳	14,503	25	1.4%	1.0%
24歳	4,631	18	0.5%	0.7%	74歳	13,426	32	1.3%	1.3%
25歳	5,277	15	0.5%	0.6%	75歳	13,094	24	1.3%	1.0%
26歳	5,883	20	0.6%	0.8%	76歳	11,918	23	1.2%	0.9%
27歳	6,889	16	0.7%	0.6%	77歳	13,732	28	1.3%	1.1%
28歳	7,656	21	0.7%	0.9%	78歳	13,866	33	1.4%	1.3%
29歳	8,049	26	0.8%	1.1%	79歳	14,026	49	1.4%	2.0%
30歳	8,778	22	0.9%	0.9%	80歳	13,366	27	1.3%	1.1%
31歳	9,269	27	0.9%	1.1%	81歳	12,226	31	1.2%	1.3%
32歳	9,709	35	1.0%	1.4%	82歳	12,344	32	1.2%	1.3%
33歳	9,814	27	1.0%	1.1%	83歳	11,319	47	1.1%	1.9%
34歳	10,042	24	1.0%	1.0%	84歳	11,119	26	1.1%	1.1%
35歳	10,825	17	1.1%	0.7%	85歳	10,093	35	1.0%	1.4%
36歳	11,085	33	1.1%	1.3%	86歳	8,673	34	0.8%	1.4%
37歳	11,760	28	1.2%	1.1%	87歳	8,311	22	0.8%	0.9%
38歳	12,007	21	1.2%	0.9%	88歳	7,158	26	0.7%	1.1%
39歳	12,647	24	1.2%	1.0%	89歳	5,957	19	0.6%	0.8%
40歳	12,532	19	1.2%	0.8%	90歳	5,138	13	0.5%	0.5%
41歳	12,917	23	1.3%	0.9%	91歳	3,945	15	0.4%	0.6%
42歳	12,786	21	1.3%	0.9%	92歳	3,037	15	0.3%	0.6%
43歳	12,612	27	1.2%	1.1%	93歳	2,472	12	0.2%	0.5%
44歳	12,231	19	1.2%	0.8%	94歳	1,865	9	0.2%	0.4%
45歳	12,313	25	1.2%	1.0%	95歳	1,587	5	0.2%	0.2%
46歳	12,215	26	1.2%	1.1%	96歳	982	3	0.1%	0.1%
47歳	12,287	30	1.2%	1.2%	97歳	764	3	0.1%	0.1%
48歳	12,700	25	1.2%	1.0%	98歳	491	1	0.0%	0.0%
49歳	9,662	15	0.9%	0.6%	99歳	437	0	0.0%	0.0%
					100歳以上	610	4	0.1%	0.2%
					総計	1 021 298	2 462	100.0%	100.0%

1-1-5 北崎地域の特徴

前項で述べたように、福岡市全体では人口が増加しているにもかかわらず、北崎地域の人口は減少しつつある。我が国の方では都市部と比較して人口減少及び高齢化が進んでいる。1-1-4で全国と地方の人口ピラミッドを比較して確認された様に、農山漁村である北崎地域も地方と同じ問題を抱えている。

しかし、北崎地域は3点特徴がある。

1つ目は、政令指定都市である福岡市に属し、博多や天神などの都市部に近いということである。

北崎校区宮浦から天神までは、車を利用すると1時間以内で到着する。

2つ目は、大学が近いということである。九州大学は2005年より糸島へのキャンパス移転を開始し、現在は全学教育過程、工学部、理学部が伊都キャンパスに設置されている。また今後、医学系や芸術工学系を除き、他の学部も伊都キャンパスに移転される。

3つ目は、年間500万人の観光客が訪れる糸島に位置することである。

さらに、2014年10月には、福岡市の市街化調整区域における既存住宅の賃貸化が可能となった³⁾ことから、新たな移住者の北崎への移住を推進しやすくなった。

1-2 研究の目的

北崎は日本の他の地方と同様に人口減少・少子高齢化を課題を持つ地域である。しかしながら都市に近く、大学に近いという条件は特殊な例である。

そこで、本研究は大学に近い地域という条件に着目する。

大学生または大学院生が北崎に住む事で、北崎の19-24歳人口を増やす事ができ、人口の増加による賑わいの創出や需要の増加による公共交通機関の整備や生活利便施設の整備の推進に期待できる。

現在、九大伊都キャンパスに通う学生の多くはキャンパスから約4km南東の周船寺、九大学研都市駅周辺で生活を送っている⁴⁾。しかし、それらの学生の中にどのくらいの学生が北崎暮らしに興味を持っているのか、またそのような学生はどのような人物像なのかは明らかになっていない。

このような情報を得る事は今後北崎内に住む九大生を増やすまでの基礎調査となり、今後の北崎のまちづくり活動につながるものと考えられる。

そこで本研究では大学が近いという条件を持つ北崎における九大生の居住の可能性を明らかにする事を目的とする。

1-3 既往研究

本研究の位置づけは、郊外型キャンパスが近くにある地域の視点から、大学生が地域に居住する事を対象としているが、これに相当する既往の研究は存在しない。

1-4 研究の構成

図 1-12 に本研究の構成を示す。まず本研究の位置づけを示し（1 章）、次に対象地である北崎地域の将来人口予測を行うことで人口構成の変化とその結果起こりうる問題を明らかにする（2 章）。北崎の課題解決のための手法の 1 つとして九大生の移住を提案するが、現在九大生の北崎への居住可能性は明らかになっていない。そのためにアンケート調査により九大生の居住可能性を明らかにする（3, 4, 5 章）。またその居住可能性を持つ学生の傾向を把握する（3, 4, 5, 6 章）。

そして、得られた結果から九大生の居住可能性と北崎の問題を考察し（7 章）、最後に研究で得られた知見を示す（8 章）。

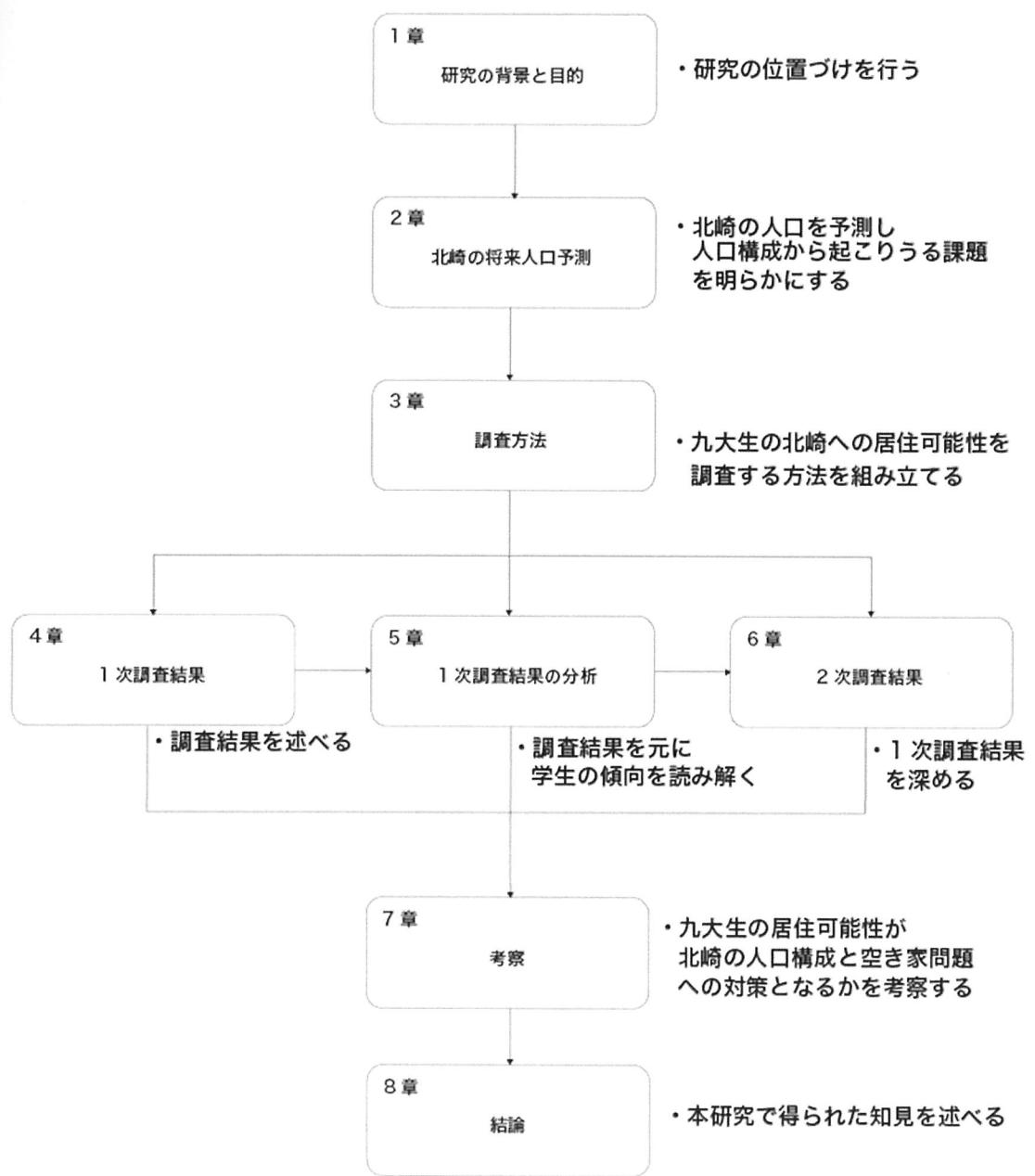


図 1-12 本研究のフロー

参考資料

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口 平成 24 年 3 月 30 日報告書
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/con2h.html>
- 2) 福岡市公式 HP Fukuoka Facts
<http://facts.city.fukuoka.lg.jp/data/no1/>
- 3) 福岡市住宅都市局都市づくり推進部地域計画課, 「市街化調整区域で”住”むこと」, 2015
- 4) 九州大学新キャンパス計画専門委員会, 伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果, 2015

第2章

北崎の将来人口予測

第2章 北崎の将来人口予測

本章では、将来北崎の人口がどのように推移していくのかを把握する。

福岡市役所総務局統計調査課によると、学区毎の将来人口予測は行われていない。

そこで、厚生労働省の地域行動計画策定の手引きで紹介されているコーホート変化率法を用いて、北崎地区の将来人口予測を行った。

ことから、

2-1 予測方法

北崎校区

2-1-1 コーホート変化率法を用いた北崎校区の人口予測

将来人口推計に用いられる手法として、コーホート変化率法とコーホート要因法が存在する。

厚生労働省はこの2種類の手法について下記の様に説明している。¹⁾

ア コーホート変化率法

「コーホート変化率法」とは、各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法である。

今回のように推計するものが比較的近い将来の人口であり、変化率の算出基礎となる近い過去に特殊な人口変動がなく、また推計対象となる近い将来にも特殊な人口変動が予想されない場合は、比較的簡便なこの方法を用いることができる。

イ コーホート要因法

「コーホート要因法」とは、各コーホートについて、「自然増減」(出生と死亡)及び「純移動」(転出入)という二つの「人口変動要因」それぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法である。

推計の基礎となる過去の実績人口に特殊な変動があったか、推計対象期間内の将来人口に特殊な変動が予想されるため、過去の実績に基づく変化率が将来人口の推計に適さないと思われる場合、この方法を用いることが推奨される。

今回の推計では、今後北崎地区に大きな変化がない場合の人口の推移を求める目的とするため、コーホート変化率法による将来人口推計を採用した。

2-1-2 将来人口推計に用いるデータ

コーポート変化率法による将来人口推計に用いる人口データには、国勢調査のデータと住民基本台帳のデータがある。

国勢調査のデータと住民基本台帳のデータを入手し比較した結果、国勢調査での北崎校区の調査結果のデータが1995年以降からであったのに対し、住民基本台帳のデータは1986年より存在していたことから、これまでの北崎校区の人口変動を詳細に把握する為、住民基本台帳のデータを採用した。

北崎校区は、2009年まで北崎校区および北崎小西浦分校の2校区で構成されていた。現在はその2校区が合併し、1つの北崎校区となっている。そのため住民基本台帳のデータの内1986年から2015年までの北崎校区および2009年以前の北崎小西浦分校の男女別5歳階級別人口データの内、1990年以降の5年毎のデータを使用して、2009年以前の北崎小西浦分校の人口は北崎校区に合算した。

2-2 予測結果

コーポート変化率法による将来人口予測の算出のフローチャートを図 2-1 に示す。

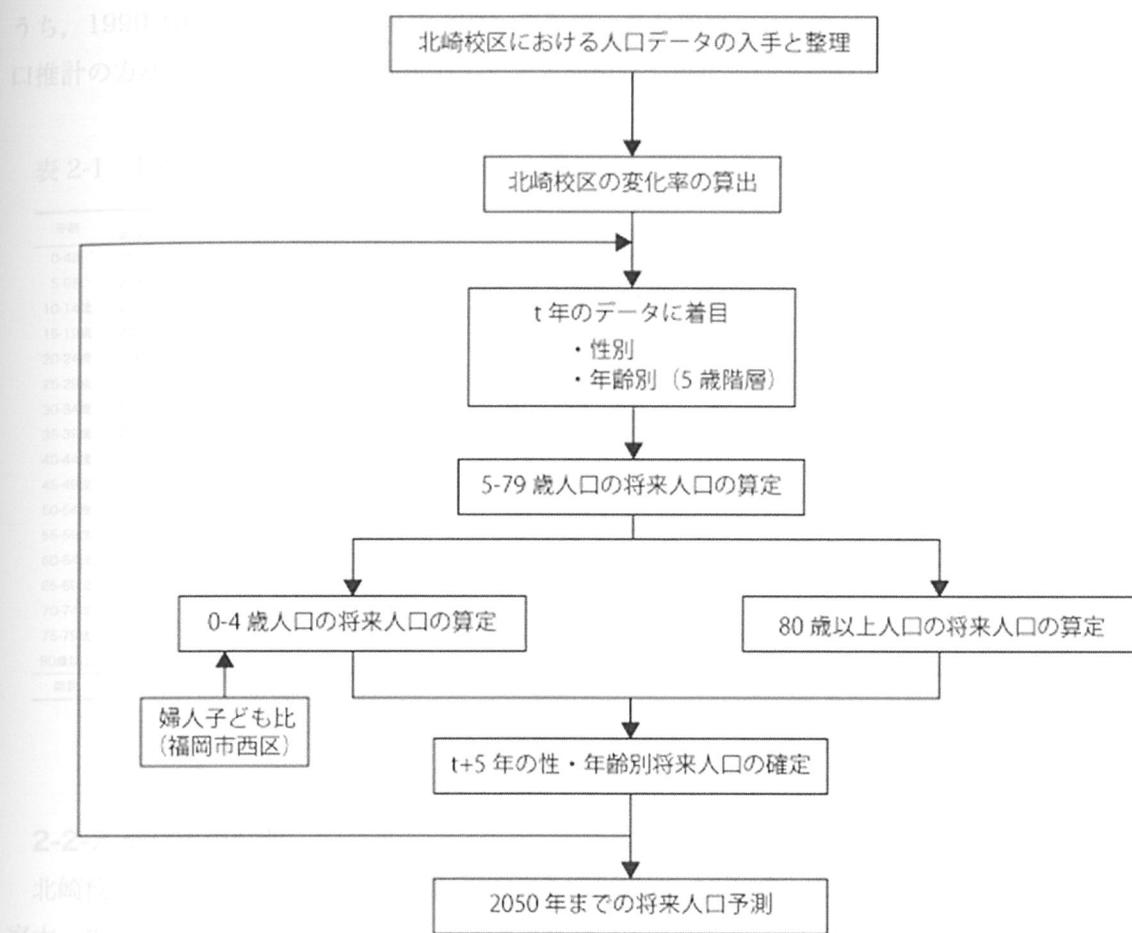


図 2-1 北崎の将来人口予測のフロー

2-2-1 住民基本台帳のデータの整理

1986 年以降の住民基本台帳の北崎校区（北崎小西浦分校を含む）の男女別 5 歳階級別人口データのうち、1990,1995,2000,2005,2010,2015 年のデータを抽出した（表 2-1）。これは、5 歳階級別の人口推計の方法を利用する際、5 年毎のデータを利用して算定を行うためである。

表 2-1 1990-2015 年の北崎の住民基本台帳の男女別 5 歳階級別人口

年齢	1990			1995			2000			2005			2010			2015		
	総数	男	女															
0-4歳	182	87	95	115	67	48	80	43	37	91	51	40	101	48	53	74	41	33
5-9歳	227	111	116	186	88	98	120	69	51	94	50	44	88	46	42	91	42	49
10-14歳	246	133	113	227	115	112	194	95	99	127	72	55	87	50	37	81	44	37
15-19歳	208	97	111	230	124	106	223	116	107	182	85	97	112	63	49	80	45	35
20-24歳	210	89	121	167	79	88	188	96	92	202	99	103	152	69	83	97	57	40
25-29歳	224	124	100	181	76	105	133	65	68	148	71	77	157	87	70	98	40	58
30-34歳	198	94	104	178	98	80	135	58	77	113	61	52	126	62	64	135	74	61
35-39歳	247	131	116	190	89	101	173	94	79	143	64	79	114	57	57	123	56	67
40-44歳	261	132	129	248	132	116	178	79	99	167	95	72	130	58	72	109	56	53
45-49歳	181	93	88	249	130	119	246	132	114	182	84	98	169	98	71	121	56	65
50-54歳	221	92	129	171	87	84	248	132	116	238	129	109	173	73	100	158	93	65
55-59歳	268	139	129	216	87	129	163	84	79	243	129	114	238	124	114	165	69	96
60-64歳	283	137	146	252	130	122	203	82	121	153	76	77	247	132	115	227	117	110
65-69歳	224	91	133	270	124	146	233	116	117	190	71	119	143	70	73	235	126	109
70-74歳	131	48	83	208	77	131	245	109	136	214	104	110	175	63	112	132	61	71
75-79歳	123	46	77	112	44	68	174	61	113	214	90	124	186	84	102	157	54	103
80歳以上	146	41	105	163	45	118	168	55	113	235	68	167	312	96	216	379	128	251
総数	3580	1685	1895	3363	1592	1771	3104	1486	1618	2936	1399	1537	2710	1280	1430	2462	1159	1303

2-2-2 変化率の設定

北崎校区の将来人口予測を行う際に使用する変化率は、1990 年以降の北崎校区の人口変動から変化率大・中・小の 3 値を決めて設定した。表 2-2 は 1990 年以降 5 年毎のコーホート変化率を示している。この値から、将来人口推計に用いる 3 つの変化率を次のように設定した。

- ・変化率小：1990 年から 2015 年までの 5 年毎の各 5 歳階級別コーホート変化率において、最も人口減少が少なくなる変化率を各 5 歳階級別年齢にそれぞれ適用した。
- ・変化率中：1990 年から 2015 年までの 5 年毎の各 5 歳階級別コーホート変化率の平均値を適用した。
- ・変化率大：1990 年から 2015 年までの 5 年毎の各 5 歳階級別コーホート変化率において、最も人口減少が大きくなる変化率を各 5 歳階級別年齢にそれぞれ適用した。

表 2-3 は 3 パターンの変化率の値を示している。それら 3 つの値を北崎校区のコーホート変化率として今後 30 年の北崎校区の将来人口予測を上記の変化率毎に 3 パターン求めた。

表2-2 1990年以降5年毎のコホート変化率

年齢	1990-1995		1995-2000		2000-2005		2005-2010		2010-2015	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0-4歳 5-9歳	1.011	1.032	1.030	1.063	1.163	1.189	0.902	1.050	0.875	0.925
5-9歳 10-14歳	1.036	0.966	1.080	1.010	1.043	1.078	1.000	0.841	0.957	0.881
10-14歳 15-19歳	0.932	0.938	1.009	0.955	0.895	0.980	0.875	0.891	0.900	0.946
15-19歳 20-24歳	0.814	0.793	0.774	0.868	0.853	0.963	0.812	0.856	0.905	0.816
20-24歳 25-29歳	0.854	0.868	0.823	0.773	0.740	0.837	0.879	0.680	0.580	0.699
25-29歳 30-34歳	0.790	0.800	0.763	0.733	0.938	0.765	0.873	0.831	0.851	0.871
30-34歳 35-39歳	0.947	0.971	0.959	0.988	1.103	1.026	0.934	1.096	0.903	1.047
35-39歳 40-44歳	1.008	1.000	0.888	0.980	1.011	0.911	0.906	0.911	0.982	0.930
40-44歳 45-49歳	0.985	0.922	1.000	0.983	1.063	0.990	1.032	0.986	0.966	0.903
45-49歳 50-54歳	0.935	0.955	1.015	0.975	0.977	0.956	0.869	1.020	0.949	0.915
50-54歳 55-59歳	0.946	1.000	0.966	0.940	0.977	0.983	0.961	1.046	0.945	0.960
55-59歳 60-64歳	0.935	0.946	0.943	0.938	0.905	0.975	1.023	1.009	0.944	0.965
60-64歳 65-69歳	0.905	1.000	0.892	0.959	0.866	0.983	0.921	0.948	0.955	0.948
65-69歳 70-74歳	0.846	0.985	0.879	0.932	0.897	0.940	0.887	0.941	0.871	0.973
70-74歳 75-80歳	0.917	0.819	0.792	0.863	0.826	0.912	0.808	0.927	0.857	0.920

表2-3 1990年以降のコホート変化率より定めた変化率小・中・大

年齢	変化率小		変化率中		変化率大	
	男	女	男	女	男	女
0-4歳 5-9歳	1.163	1.189	0.996	1.052	0.875	0.925
5-9歳 10-14歳	1.080	1.078	1.023	0.955	0.957	0.841
10-14歳 15-19歳	1.009	0.980	0.922	0.942	0.875	0.891
15-19歳 20-24歳	0.905	0.963	0.832	0.859	0.774	0.793
20-24歳 25-29歳	0.879	0.868	0.775	0.771	0.580	0.680
25-29歳 30-34歳	0.938	0.871	0.843	0.800	0.763	0.733
30-34歳 35-39歳	1.103	1.096	0.969	1.026	0.903	0.971
35-39歳 40-44歳	1.011	1.000	0.959	0.947	0.888	0.911
40-44歳 45-49歳	1.063	0.990	1.009	0.957	0.966	0.903
45-49歳 50-54歳	1.015	1.020	0.949	0.964	0.869	0.915
50-54歳 55-59歳	0.977	1.046	0.959	0.986	0.945	0.940
55-59歳 60-64歳	1.023	1.009	0.950	0.966	0.905	0.938
60-64歳 65-69歳	0.955	1.000	0.908	0.968	0.866	0.948
65-69歳 70-74歳	0.897	0.985	0.876	0.954	0.846	0.932
70-74歳 75-80歳	0.917	0.927	0.840	0.888	0.792	0.819

2-2-3 北崎における 5-79 歳の将来人口予測

t 年の $n-(n+4)$ 歳人口から $(t+5)$ 年後の $(n+5)-(n+9)$ 歳人口を求めた。

計算は次の式で行った。

$$\boxed{(t+5) \text{ 年} \\ (n+5)-(n+9) \text{ 歳 男性(女性) 人口}} = \boxed{t \text{ 年} \\ n-(n+4) \text{ 歳 男性(女性) 人口}} \times \boxed{n-(n+4) \text{ 歳から } (n+5)-(n+9) \text{ 歳への} \\ \text{男子(女子) コーホート変化率(小, 中, 大)}}$$

2-2-4 北崎における 0-4 歳の将来人口予測

$(t+5)$ 年後の 0-4 歳人口の予測は、コーホート変化率を用いて算出することができない。そのため、婦人子ども比を用いた計算によって推計を行った。

計算は次の式で行った。

$$\boxed{(t+5) \text{ 年} \\ 0-4 \text{ 歳 男性(女性) 人口}} = \boxed{(t+5) \text{ 年} \\ 25 \text{ 歳} - 34 \text{ 歳 女性人口}} \times \boxed{\text{男子(女子) 婦人子ども比}}$$

婦人子ども比は以下の計算式で表される。

$$\boxed{\text{男子(女子) 婦人子ども比}} = \frac{\boxed{t \text{ 年} \\ 0-4 \text{ 歳 男子(女子) 人口}}}{\boxed{t \text{ 年} \\ 25-34 \text{ 歳 女性人口}}}$$

ここで、婦人子ども比は人口規模が少ない地域では婦人子ども比の誤差が大きくなる可能性があるため、1995-2010 年の福岡市西区の婦人子ども比の平均値を用いた（表 2-4）。

表 2-4 福岡市西区の婦人子ども比と北崎の将来人口推計に用いる婦人子ども比

西暦	男児比	女児比
1995	0.371	0.356
2000	0.334	0.328
2005	0.338	0.321
2010	0.391	0.371
平均値	0.359	0.344

2-2-5 北崎における 80 歳以上の将来人口予測

80 歳以上の将来人口予測は、以下の計算式を用いた。

$$\frac{(t+5) \text{ 年} \quad 80 \text{ 歳以上 男子 (女子) 人口}{(t-5) \text{ 年} \quad 75 \text{ 歳以上 男子 (女子) 人口}} = \frac{t \text{ 年} \quad 75 \text{ 歳以上 男子 (女子) 人口}{t \text{ 年} \quad 80 \text{ 歳以上 男子 (女子) 人口}}$$

2-2-6 全人口の将来人口予測

3-1~3-3 の計算より、(t+5)年のすべての 5 歳階級別の年齢において将来人口が予測された。同様の計算を (t+10) 年以降も行い、2050 年までの将来人口予測を行った。

次頁に変化率小、変化率中、変化率大を用いた北崎の将来人口予測の結果を示す。

変化率小は表 2-5、表 2-6、図 2-2 のとおりである。

変化率中は表 2-7、表 2-8、図 2-3 のとおりである。

変化率大は表 2-9、表 2-10、図 2-4 のとおりである。

2-5 北崎の5歳階級別将来人口予測（変化率小）

年齢群	1990				1995				2000				2005				2010				2015				2020 ここから推計値				2025				2030				2035				2040				2045				2050	
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男																					
0-4歳	182	87	95	115	67	48	80	43	37	91	51	40	101	48	53	74	41	33	60	31	29	42	21	20	39	20	19	49	25	24	51	26	25	43	22	21	34	17	17	17										
5-9歳	227	111	116	186	88	98	120	69	51	94	50	44	88	46	42	91	42	49	87	48	39	70	36	35	49	25	24	23	28	28	60	30	30	50	25	25	25													
10-14歳	246	133	113	227	115	112	194	95	99	127	72	55	87	50	37	81	44	37	98	45	53	94	51	42	76	38	38	53	27	26	25	62	31	31	64	33	32	32												
15-19歳	208	97	111	230	124	106	223	116	107	182	85	97	112	63	49	80	45	35	81	44	36	98	46	52	93	52	41	76	39	37	53	27	26	49	25	24	62	32	30											
20-24歳	210	89	121	167	79	88	188	96	92	202	99	103	152	69	83	97	57	40	74	41	34	75	40	35	91	41	50	87	47	40	71	35	35	49	24	25	46	23	23											
25-29歳	224	124	100	181	76	105	133	65	68	148	71	77	157	87	70	98	40	58	85	50	35	65	36	35	66	35	30	80	36	43	76	41	35	62	31	31	43	21	21											
30-34歳	198	94	104	178	98	80	135	58	77	113	61	52	126	62	64	135	74	61	88	38	51	77	47	30	59	34	25	26	72	34	38	69	39	30	56	29	27													
35-39歳	247	131	116	190	89	101	173	94	79	143	64	79	114	57	57	123	56	67	149	82	67	97	41	55	85	52	33	65	37	29	79	38	41	76	43	33														
40-44歳	261	132	129	248	132	116	178	79	99	167	95	72	130	58	72	109	56	53	124	57	67	149	83	67	97	42	55	86	52	33	65	37	28	79	38	41														
45-49歳	181	93	88	249	130	119	246	132	114	182	84	98	169	98	71	121	56	65	112	60	52	127	60	66	154	88	66	99	45	55	89	56	33	67	40	28	68	39	29											
50-54歳	221	92	129	171	87	84	248	132	116	238	129	109	173	73	100	158	93	65	123	57	66	114	60	54	129	61	68	157	89	68	101	45	56	90	57	33	69	40	28											
55-59歳	268	139	129	216	87	129	163	84	79	243	129	114	238	124	114	165	69	96	159	91	68	125	56	69	115	59	56	130	60	71	158	87	71	103	44	59	90	55	35											
60-64歳	283	137	146	252	130	122	203	82	121	153	76	77	247	132	115	227	117	110	167	71	97	162	93	69	127	57	70	117	60	56	133	61	71	160	89	71	104	45	59											
65-69歳	224	91	133	270	124	146	233	116	117	190	71	119	143	70	73	235	126	109	222	112	110	164	67	97	157	89	69	124	54	70	114	58	56	130	58	71	156	85	71											
70-74歳	131	48	83	208	77	131	245	109	136	214	104	110	175	63	112	132	61	71	220	113	107	208	100	108	156	60	95	147	80	68	118	49	69	107	52	56	123	52	70											
75-79歳	123	46	77	112	44	68	174	61	113	214	90	124	186	84	102	157	54	103	122	56	66	203	104	100	192	92	100	144	55	88	136	73	63	109	45	64	99	47	52											
80歳以上	146	41	105	163	45	118	168	55	113	235	68	167	312	96	216	251	128	251	379	129	279	404	132	273	461	167	294	495	184	311	486	170	315	471	173	298	441	155	286											
総計	3580	1685	1895	3363	1592	1771	3104	1486	1618	2936	1399	1537	2710	1280	1430	2462	1159	1303	2379	1122	1257	2274	1073	1201	2147	1012	1135	2014	947	1067	1893	890	1003	1776	835	942	1660	781	879											

2-6 北崎の3階級別将来人口予測（変化率小）

年齢群	1990				1995				2000				2005				2010				2015				2020 ここから推計値				2025				2030				2035				2040				2045				2050	
総数	男	女																																																

<tbl_r cells="46" ix="3" maxcspan="1" max

表2-7 北崎の5歳階級別将来人口予測（変化率中）

年齢	1990			1995			2000			2005			2010			2015			2020			2025			2030			2035			2040			2045					
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女																					
0-4歳	182	87	95	115	67	48	80	43	37	91	51	40	101	48	53	74	41	33	54	28	27	34	17	16	29	15	14	34	17	16	31	16	15	23	12	11	17	8	8
5-9歳	227	111	116	186	88	98	120	69	51	94	50	44	88	46	42	91	42	49	76	41	35	56	28	28	34	17	17	30	15	15	34	17	17	32	16	16	24	12	12
10-14歳	246	133	113	227	115	112	194	95	99	127	72	55	87	50	37	81	44	37	90	43	47	75	42	33	55	28	27	34	18	17	30	15	14	34	17	16	31	16	15
15-19歳	208	97	111	230	124	106	223	116	107	182	85	97	112	63	49	80	45	35	75	41	35	84	40	44	70	39	31	51	26	25	32	16	16	28	14	14	32	16	16
20-24歳	210	89	121	167	79	88	188	96	92	202	99	103	152	69	83	97	57	40	67	37	30	64	34	30	71	33	38	59	32	27	43	22	22	27	13	13	23	12	12
25-29歳	224	124	100	181	76	105	133	65	68	148	71	77	157	87	70	98	40	58	75	44	31	52	29	23	49	26	23	55	26	29	46	25	21	33	17	17	21	10	10
30-34歳	198	94	104	178	98	80	135	58	77	113	61	52	126	62	64	135	74	61	80	34	46	62	37	25	43	24	19	41	22	18	45	22	23	37	21	17	27	14	13
35-39歳	247	131	116	190	89	101	173	94	79	143	64	79	114	57	57	123	56	67	134	72	63	80	33	48	61	36	25	43	24	19	40	21	19	45	21	24	37	20	17
40-44歳	261	132	129	248	132	116	178	79	99	167	95	72	130	58	72	109	56	53	117	54	63	128	69	59	76	31	45	59	35	24	41	23	18	38	20	18	43	20	23
45-49歳	181	93	88	249	130	119	246	132	114	182	84	98	169	98	71	121	56	65	107	57	51	115	54	61	126	69	57	75	32	43	58	35	23	40	23	17	38	21	17
50-54歳	221	92	129	171	87	84	248	132	116	238	129	109	173	73	100	158	93	65	116	53	63	103	54	49	110	51	59	121	66	55	72	30	42	55	33	22	38	22	17
55-59歳	268	139	129	216	87	129	163	84	79	243	129	114	238	124	114	165	69	96	153	89	64	113	51	62	100	51	48	107	49	58	117	63	54	70	29	41	54	32	22
60-64歳	283	137	146	252	130	122	203	82	121	153	76	77	247	132	115	227	117	110	158	66	93	147	85	62	108	48	60	95	49	47	103	47	56	112	60	52	67	27	40
65-69歳	224	91	133	270	124	146	233	116	117	190	71	119	143	70	73	235	126	109	213	106	106	149	59	90	137	77	60	102	44	58	89	44	45	96	43	54	105	54	50
70-74歳	131	48	83	208	77	131	245	109	136	214	104	110	175	63	112	132	61	71	214	110	104	195	93	102	138	52	86	125	67	57	94	39	55	82	39	43	89	37	51
75-79歳	123	46	77	112	44	68	174	61	113	214	90	124	186	84	102	157	54	103	114	51	63	185	93	92	168	78	90	120	44	76	107	57	51	81	32	49	71	33	38
80歳以上	146	41	105	163	45	118	168	55	113	235	68	167	312	96	216	379	128	251	409	129	279	399	128	270	444	157	286	465	167	297	445	150	295	420	147	273	381	128	254
総数	3580	1685	1895	3363	1592	1771	3104	1486	1618	2936	1399	1537	2710	1280	1430	2462	1159	1303	2254	1055	1199	2038	945	1094	1820	835	985	1613	732	881	1426	641	785	1254	557	697	1097	483	615

表2-8 北崎の3階級別将来人口予測（変化率中）

年齢群	1990			1995			2000			2005			2010			2015			2020 ここから推計値
-----	------	--	--	------	--	--	------	--	--	------	--	--	------	--	--	------	--	--	-----------------

2-9 北崎の5歳階級別将来人口予測（変化率大）

年齢	1990			1995			2000			2005			2010			2015			2020			2025			2030			2035			2040			2045			2050		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女																		
0-4歳	182	87	95	115	67	48	80	43	37	91	51	40	101	48	53	74	41	33	49	25	24	27	14	13	22	11	11	23	12	11	19	10	9	13	6	6	8	4	4
5-9歳	227	111	116	186	88	98	120	69	51	94	50	44	88	46	42	49	66	36	31	44	22	22	25	12	12	20	10	10	21	10	10	17	8	9	11	6	6		
10-14歳	246	133	113	227	115	112	194	95	99	127	72	55	87	50	37	81	44	37	40	41	60	34	26	40	21	19	22	12	10	18	9	8	19	10	9	15	8	7	
15-19歳	208	97	111	230	124	106	223	116	107	182	85	97	112	63	49	80	45	35	71	39	33	72	35	37	53	30	23	35	18	17	19	10	9	16	8	8	16	9	8
20-24歳	210	89	121	167	79	88	188	96	92	202	99	103	152	69	83	97	57	40	63	35	28	56	30	26	56	27	29	41	23	18	27	14	13	15	8	7	12	6	6
25-29歳	224	124	100	181	76	105	133	65	68	148	71	77	157	87	70	98	40	58	60	33	27	39	20	19	35	17	18	36	16	20	26	13	12	17	8	9	10	5	5
30-34歳	198	94	104	178	98	80	135	58	77	113	61	52	126	62	64	135	74	61	73	31	43	45	25	20	29	15	14	26	13	13	27	12	15	19	10	9	13	6	7
35-39歳	247	131	116	190	89	101	173	94	79	143	64	79	114	57	57	123	56	67	126	67	59	69	28	41	42	23	19	27	14	13	25	11	14	18	9	9			
40-44歳	261	132	129	248	132	116	178	79	99	167	95	72	130	58	72	109	56	53	111	50	61	113	59	54	62	24	38	38	20	18	25	12	12	22	11	12	20	10	10
45-49歳	181	93	88	249	130	119	246	132	114	182	84	98	169	98	71	121	56	65	102	54	48	103	48	55	106	57	49	58	24	34	35	20	16	23	12	11	21	10	10
50-54歳	221	92	129	171	87	84	248	132	116	238	129	109	173	73	100	158	93	65	108	49	60	91	47	44	92	42	50	94	50	45	52	21	31	32	17	15	20	10	10
55-59歳	268	139	129	216	87	129	163	84	79	243	129	114	238	124	114	165	69	96	149	88	61	102	46	56	86	44	41	87	39	47	89	47	42	49	19	29	30	16	14
60-64歳	283	137	146	252	130	122	203	82	121	153	76	77	247	132	115	227	117	110	152	62	90	137	80	57	94	42	52	79	40	39	80	36	45	82	43	39	45	18	27
65-69歳	224	91	133	270	124	146	233	116	117	190	71	119	143	70	73	235	126	109	206	101	104	139	54	85	123	69	54	86	36	50	71	35	37	73	31	42	74	37	37
70-74歳	131	48	83	208	77	131	245	109	136	214	104	110	175	63	112	132	61	71	208	107	102	183	86	97	125	46	80	109	58	51	77	30	46	64	29	34	65	26	39
75-79歳	123	46	77	112	44	68	174	61	113	214	90	124	186	84	102	157	54	103	106	48	58	168	84	83	147	68	80	101	36	65	88	46	41	62	24	38	51	23	28
80歳以上	146	41	105	163	45	118	168	55	113	235	68	167	312	96	216	379	128	251	409	129	279	393	126	266	426	150	276	436	155	281	409	136	273	378	129	248	335	109	226
総計	3580	1685	1895	3363	1592	1771	3104	1486	1618	2936	1399	1537	2710	1280	1430	2462	1159	1303	2142	993	1148	1841	839	1002	1564	699	865	1318	576	741	1107	474	633	924	386	539	768	312	456

2-10 北崎の3階級別将来人口予測（変化率大）

年齢群	1990			1995			2000			2005			2010			2015			2020 ここから推計値			2025	
-----	------	--	--	------	--	--	------	--	--	------	--	--	------	--	--	------	--	--	-----------------	--	--	------	--

2-3 考察

2-2において、北崎の将来人口の予測を行った。その結果北崎の人口は今後も減少していくことが明らかとなった。次に北崎の将来人口予測の結果から、北崎の人口構成の変化を読み解く。

2-3-1 北崎の人口推移と高齢化率

人口構成の指標の1つに高齢化率がある。高齢化率とは、ある集団の人口構成の内、65歳以上の人口の割合を示す。

大野は集落を次のように定義している。²⁾

存続集落：55歳未満の人口が過半数を越える時

跡継ぎが確保されており、共同体の機能を次世代に受け継いでいける状態

準限界集落：55歳以上人口が過半数を超える時

現在は共同体の機能を維持しているが、跡継ぎの確保が難しくなっている状態

限界集落：65歳以上人口が過半数を越える時

高齢化が進み、共同体の機能維持が限界に達している状態

(a) 北崎の将来人口予測（変化率小）の場合の高齢化率の推移

表2-11は北崎の将来人口予測（変化率小）の結果及び55歳以上人口の割合、高齢化率を計算したものである。また図2-5はその結果を示したものである。

2015年9月現在の北崎の総人口は2462人である。1990年の北崎の総人口は3580人であるため、25年で1118人（1990年の総人口の約31%）の人口が減少している。また2040年の総人口は1893人であり、現在の25年後には569人（現在の総人口の約23%）の人口が減少することが予想される。

2015年から北崎の55歳以上人口割合が過半数を超えていていることから、現在の北崎は準限界集落と定義される。2050年までの予測結果では北崎の高齢化率は50%未満であるため、35年後までは限界集落にはならないものの、北崎の高齢化率は上昇していることから、2050年以降に高齢化率が50%を越え、限界集落になる可能性は十分にあると考えられる。

今年から北崎は準限界集落の条件を満たしている。今後35年間は限界集落にはならないものの、高齢化率は上昇する一方である。現在の状況に対して何らかの対策を講じなければ、2050年以降の北崎は集落の消滅に近づいていくことになると考えられる。

表 2-11 北崎の将来人口予測の結果及び 55 歳以上人口の割合、高齢化率（変化率小）

変化率小	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020 ここから推計値	2025	2030	2035	2040	2045	2050
0-14歳	655	528	394	312	276	246	245	206	164	148	158	165	149
15-64歳	2301	2082	1890	1771	1618	1313	1162	1088	1016	956	882	795	693
65歳以上	624	753	820	853	816	903	973	980	966	911	853	817	819
55歳以上人口	1175	1221	1186	1249	1301	1295	1299	1267	1208	1158	1143	1080	1013
総計	3580	3363	3104	2936	2710	2462	2379	2274	2147	2014	1893	1776	1660
高齢化率	17.4%	22.4%	26.4%	29.1%	30.1%	36.7%	40.9%	43.1%	45.0%	45.2%	45.1%	46.0%	49.3%
55歳以上 人口比率	32.8%	36.3%	38.2%	42.5%	48.0%								

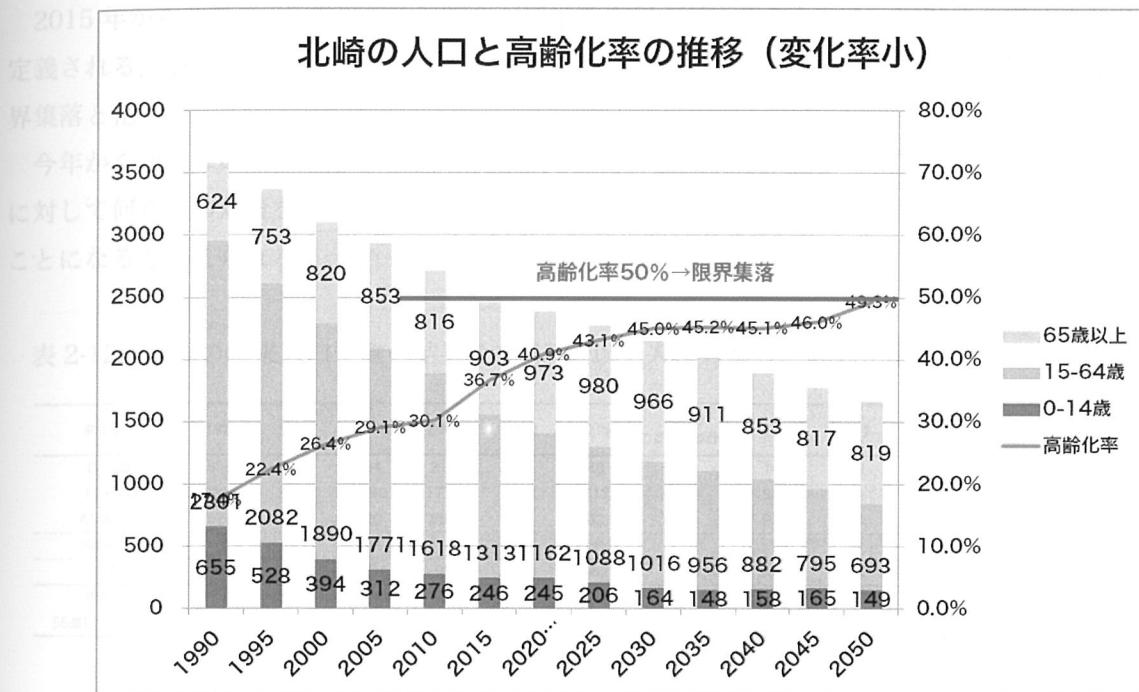


図 2-5 北崎の人口と高齢化率の推移（変化率小）

(b)北崎の将来人口予測（変化率中）の場合の高齢化率の推移

表 2-12 は北崎の将来人口予測(変化率中)の結果及び 55 歳以上人口の割合、高齢化率を計算したものである。また図 2-6 はその結果を示したものである。

2015 年 9 月現在の北崎の総人口は 2462 人である。1990 年の北崎の総人口は 3580 人であるため、25 年で 1118 人（1990 年の総人口の約 31%）の人口が減少している。また 2040 年の総人口は 1426 人であり、現在の 25 年後には 1036 人（現在の総人口の約 42%）の人口が減少することが予想される。

2015 年から北崎の 55 歳以上人口割合が過半数を超えていていることから、現在の北崎は準限界集落と定義される。予測結果では北崎の高齢化率は 2035 年に 50% を越える、つまり 20 年後には北崎は限界集落と化す。

今年から北崎は準限界集落となり、20 年後には限界集落になることが明らかになった。現在の状況に対して何らかの対策を講じなければ 20 年後には限界集落になり、北崎は集落の消滅に近づいていくことになると考えられる。

表 2-12 北崎の将来人口予測の結果及び 55 歳以上人口の割合、高齢化率（変化率中）

変化率中	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020 ここから推計値	2025	2030	2035	2040	2045	2050
0-14歳	655	528	394	312	276	246	220	164	119	97	95	89	72
15-64歳	2301	2082	1890	1771	1618	1313	1084	947	814	704	596	486	380
65歳以上	624	753	820	853	816	903	950	928	886	811	735	679	646
55歳以上人口	1175	1221	1186	1249	1301	1295	1262	1187	1094	1013	955	861	766
総計	3580	3363	3104	2936	2710	2462	2254	2038	1820	1613	1426	1254	1097
高齢化率	17.4%	22.4%	26.4%	29.1%	30.1%	36.7%	42.2%	45.5%	48.7%	50.3%	51.6%	54.2%	58.8%
55歳以上 人口比率	32.8%	36.3%	38.2%	42.5%	48.0%								

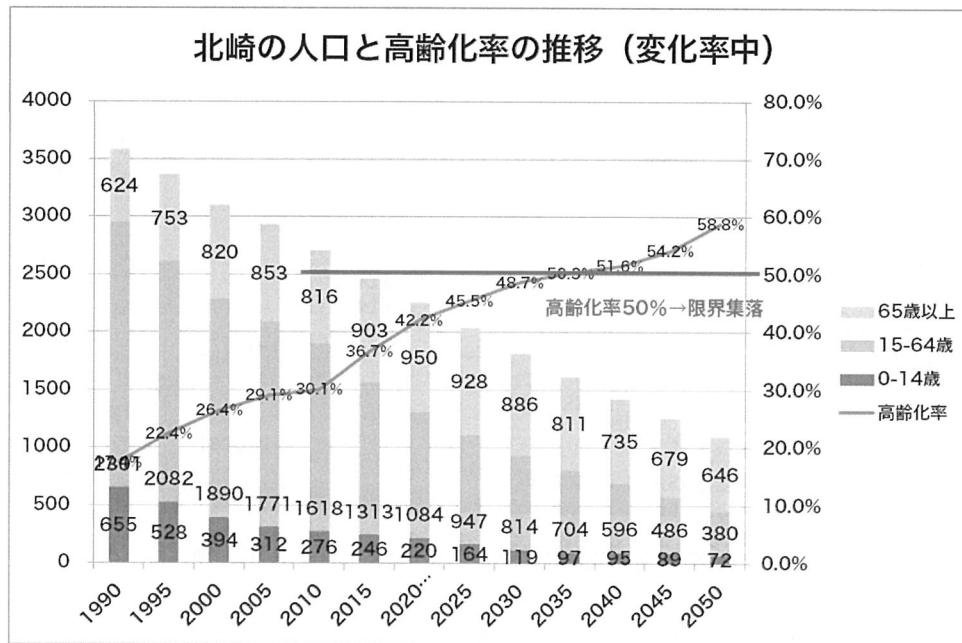


図 2-6 北崎の人口と高齢化率の推移（変化率中）

(c) 北崎の将来人口予測（変化率大）の場合の高齢化率の推移

2015年9月現在の北崎の総人口は2462人である。1990年の北崎の総人口は3580人であるため、25年で1118人（1990年の総人口の約31%）の人口が減少している。また2040年の総人口は1107人であり、これから25年後には1355人（現在の総人口の約55%）の人口が減少することが予想される。（表2-13、図2-7）

級の定義

2015年から北崎の55歳以上人口割合が過半数を超えていていることから、準限界集落と定義される。また15年後の2030年には、高齢化率が50%以上になるため限界集落と定義されるようになる。

今年から北崎は準限界集落となった。現在の状況に対して何らかの対策を講じなければ15年後には限界集落になり、北崎は集落の消滅に近づいていくことになると考えられる。

表2-13 北崎の将来人口予測(変化率大)の結果及び0～54歳人口の割合、高齢化率

変化率大	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020		2025	2030	2035	2040	2045	2050
							ここから推計値							
0-14歳	655	528	394	312	276	246	197	131	86	65	58	48	35	
15-64歳	2301	2082	1890	1771	1618	1313	1016	827	656	521	405	300	208	
65歳以上	624	753	820	853	816	903	929	883	822	732	645	576	526	
55歳以上人口	1175	1221	1166	1249	1301	1295	1231	1122	1002	897	814	707	601	
総計	3580	3363	3104	2936	2710	2462	2142	1841	1564	1318	1107	924	768	
高齢化率	17.4%	22.4%	26.4%	29.1%	30.1%	36.7%	43.4%	47.9%	52.6%	55.5%	58.3%	62.4%	68.5%	
55歳以上 人口比率	32.8%	36.3%	38.2%	42.5%	48.0%									

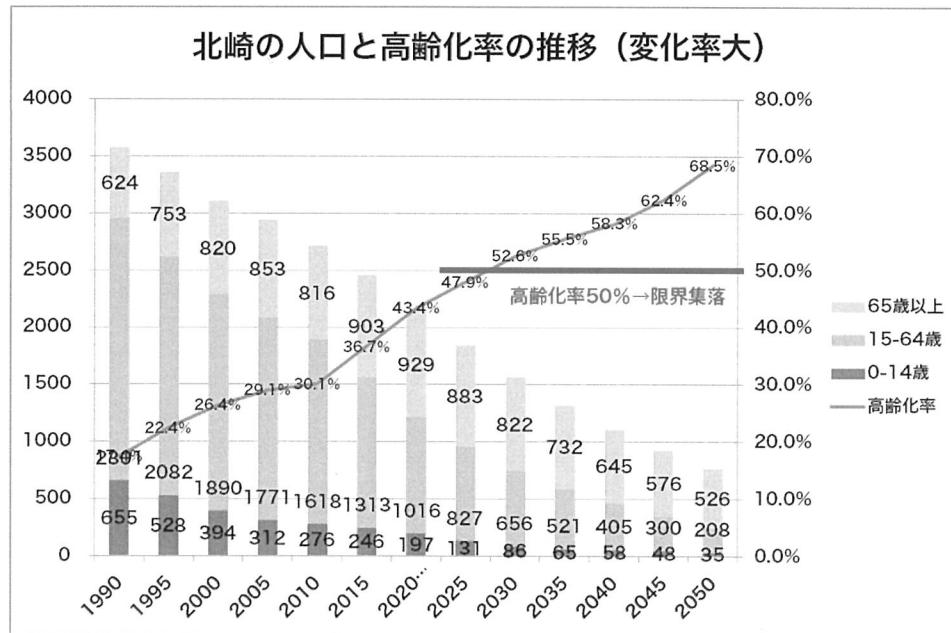


図2-7 北崎の人口と高齢化率の推移（変化率大）

2-3-2 北崎の小、中学校の統廃合の可能性

統廃合条件（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き³⁾より）

小学校で6学級以下、中学校で3学級以下の学校については、速やかに統廃合の適否を検討する必要がある。学級人数に関して（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律より）は小学校40人（第一学年の児童で編制する学級にあっては、35人）、中学校40人であり、一学級の生徒の数は上記の数値を標準とし、各都道府県の教育委員会が定める。ただし、各都道府県の教育委員会は必要に応じて、規定を下回る数を、1学級の生徒の数の基準として定めることができる。

校あわせ

福岡市教育委員会学校計画課においては、1学級の人数は以下のように定める⁴⁾。

小学校1~4年生：35人、5~6年生：40人、中学校1年生：35人、2~3年生：40人

つまり

5歳階級別人口推計から小学生、中学生の数を算出することはできない。そこで、小学生、中学生が推計の5-9歳および10-14歳とみなし、各年齢を各学年とみなして小学生、中学生の人数の算出を行った。

表2

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

(a) 北崎の将来人口予測（変化率小）の場合の児童数と1クラスの人数の推移

変化率小の将来人口予測における北崎校区の5-9歳人口、10-14歳人口を下表2-14、図2-8に示す。

1990-2015年は住民基本台帳による実測値、2020年以降はコーホート変化率法による変化率小の推計値である。小中学校1クラス人数は5-9歳人口と9-14歳人口の総和を10で割った数字である。

北崎の1クラス当たりの人数は、2000年から教育委員会の定める人数である35人には達していない。2035年には1クラスあたりの人数が約10人になる。2035年の1クラス当たりの児童数と現在の1クラスあたりの児童数を比較すると、1クラスあたり子どもが7人少ない、つまり小学校、中学校あわせて63人の子どもが不足していることになる。2014年の合計特殊出生率は1.42であるため、不足分の子どもを補うとすれば、子育て世代の女性は

子ども

$$63 \div 1.42 = 44.4(\text{人})$$

つまり、現在の北崎の子どもの数を維持するためには、44件の子育て世代の家庭が北崎内に新規移住してくる必要がある。2035年にこの目標を達成するためには、

$$44 \text{ 件} \div (2035 \text{ 年} - 2015 \text{ 年}) = 2.22 \text{ 件/年}$$

つまり、1年間に2、3世帯の新たな子育て世代が北崎に移住してくる必要がある。

表2-14 1990-2050年における5-9歳、10-14歳人口数と1学級の平均児童数（変化率小）

変化率小	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020 ここから推計値	2025	2030	2035	2040	2045	2050
5-9歳	227	186	120	94	88	91	87	70	49	46	58	60	50
10-14歳	246	227	194	127	87	81	98	94	76	53	50	62	64
計	473	413	314	221	175	172	185	164	125	99	107	122	115
1学級の平均児童数	47	41	31	22	18	17	19	16	13	10	11	12	11



図2-8 北崎校区の1学級の平均児童数の将来予測（変化率小）

(b) 北崎の将来人口予測（変化率中）の場合の児童数と1クラスの人数の推移

変化率中の将来人口推計における北崎校区の5-9歳人口、10-14歳人口を表2-15、図2-9に示す。

1990-2015年は住民基本台帳による実測値、2020年以降はコーホート変化率法による変化率中の推計値である。小中学校1クラス人数は5-9歳人口と9-14歳人口の総和を10で割った数字である。

北崎の1クラス当たりの人数は、2000年から教育委員会の定める人数である35人には達していない。2035年には1クラスあたりの人数が約6人になる。2010年3月に西浦分校が統廃合されたが、その時の1クラスの児童数は8人であった。このことから、北崎の1クラスあたりの児童数は西浦分校が統廃合された時の1クラスの児童数よりも少なくなる。

2035年の1クラス当たりの児童数と現在の1クラスあたりの児童数を比較すると、1クラスあたり子どもが約11人少ない、つまり小学校、中学校あわせて99人の子どもが不足していることになる。2014年の合計特殊出生率は1.42であるため、不足分の子どもを補うとすれば、子育て世代の女性は

$$99 \div 1.42 = 69.7(\text{人})$$

つまり、現在の北崎の子どもの数を維持するためには、70件の子育て世代の家庭が北崎内に新規移住する必要がある。2035年にこの目標を達成するためには、

$$70\text{件} \div (2035\text{年}-2015\text{年}) = 3.5\text{件/年}$$

つまり、1年間に3、4世帯の新たな子育て世代が北崎に移住する必要がある。

表2-15 1990-2050年における5-9歳、10-14歳人口数と1学級の平均児童数（変化率中）

変化率中	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020 ここから推計値	2025	2030	2035	2040	2045	2050
5-9歳	227	186	120	94	88	91	76	56	34	30	34	32	24
10-14歳	246	227	194	127	87	81	90	75	55	34	30	34	31
計	473	413	314	221	175	172	165	130	89	64	64	66	55
1学級の 平均児童数	47	41	31	22	18	17	17	13	9	6	6	7	6

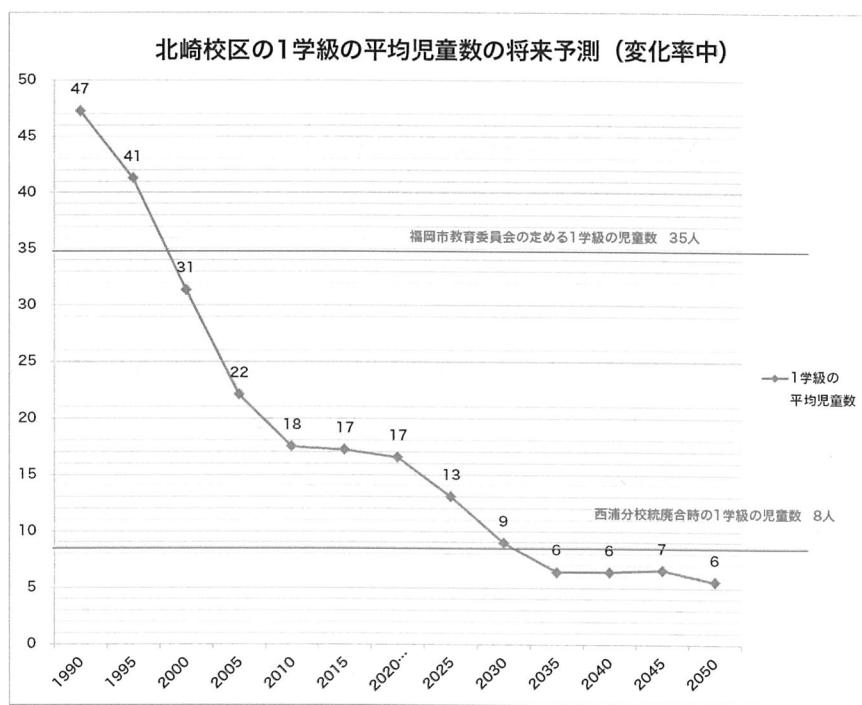


図2-9 北崎校区の1学級の平均児童数の将来予測（変化率中）

(c) 北崎の将来人口予測（変化率大）の場合の児童数と 1 クラスの人数の推移

変化率大の将来人口推計における北崎校区の 5-9 歳人口、10-14 歳人口を下表 2-16、図 2-10 に示す。

1990-2015 年は住民基本台帳による実測値、2020 年以降はコーホート変化率法による変化率大の推計値である。小中学校 1 クラス人数は 5-9 歳人口と 9-14 歳人口の総和を 10 で割った数字である。

北崎の 1 クラス当たりの人数は、2000 年から教育委員会の定める人数である 35 人には達していない。2030 年には 1 クラスあたりの人数が 6 人になる。2010 年 3 月に西浦分校が統廃合されたが、その時の 1 クラスの児童数は 8 人であった。このことから、北崎の 1 クラスあたりの児童数は西浦分校が統廃合された時の 1 クラスの児童数よりも少なくなる。

2030 年の 1 クラス当たりの児童数 6 人と現在の 1 クラスあたりの児童数 17 人を比較すると、1 クラスあたり子どもが約 11 人少ない、つまり小学校、中学校あわせて 99 人の子どもが不足していることになる。2014 年の合計特殊出生率は 1.42 であるため、不足分の子どもを補うとすれば、子育て世代の女性は

$$99 \div 1.42 = 69.7(\text{人})$$

つまり、現在の北崎の子どもの数を維持するためには、70 件の子育て世代の家庭が北崎内に新規移住する必要がある。2030 年にこの目標を達成するためには、

$$70 \text{ 件} \div (2030 \text{ 年}-2015 \text{ 年}) = 4.7 \text{ 件/年}$$

つまり、1 年間に 4, 5 世帯の新たな子育て世代が北崎に移住する必要がある。

表 2-16 1990-2050 年における 5-9 歳、10-14 歳人口数と 1 学級の平均児童数（変化率大）

変化率大	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020 ここから推計値	2025	2030	2035	2040	2045	2050
5-9歳	227	186	120	94	88	91	66	44	25	20	21	17	11
10-14歳	246	227	194	127	87	81	81	60	40	22	18	19	15
計	473	413	314	221	175	172	148	104	64	42	39	36	27
1 学級の 平均児童数	47	41	31	22	18	17	15	10	6	4	4	4	3



図 2-10 北崎校区の 1 学級の平均児童数の将来予測（変化率大）

2-4 小結

1 本章では、コーホート変化率法を利用することで北崎の将来人口予測を行った。その結果、北崎は人口の減少、高齢化率の上昇、少子化の進行が進む事が明らかになった。

2 高齢化の傾向を見ると、変化率中、大においては、早くも 15 年後に北崎の限界集落化の予測が受けられた。

また少子化に関しては、変化率中、大において早くも 15 年後に小学校、中学校の 1 クラスの児童数が 8 人を下回り、2010 年に統廃合された西浦分校と同じ規模のクラスになることが明らかになった。

<http://>

この将来人口予測の結果と考察は、今後北崎に大きな変化がない場合を前提としたものである。つまり何も対策を講じない場合を想定されている。北崎の限界集落化、北崎小学校と北崎中学校の統廃合の危機は、早くも今後 15 年で訪れる。この危機を回避するためにも、早期的な対策を講じる必要があると考えられる。

参考文献

- 1) 厚生労働省ホームページ「地域行動計画策定の手引き」,II 人口推計
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/syousika/030819/2b.html>
- 2) 「限界集落」化の歴史的プロセスに見る山村の未来～高知県旧物部村の事例から～, 2009, 楠瀬
- 3) 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（案）, 2015, 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/__icsFiles/afieldfile/2015/01/19/1354538_6.pdf
- 4) 福岡市小・中学校の学校規模適正化に関する実施方針～よりよい教育環境の実現に向けて～, 2009, 福岡市教育委員会
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/23860/1/jissihousin.pdf>

第3章

調査方法

第3章 調査方法

3-1 調査票の作成

調査に使用した調査票の作成経緯について説明する。

3-1-1 質問方法の決定

本研究は、九大生の北崎における居住可能性を明らかにする事を目的としている。そのため、調査対象となる九大生は北崎がどのような地域なのかという事について把握している必要がある。しかしながら多くの九大生が北崎について知らないために、調査時には調査対象者が事前に北崎を知る必要があると判断した。このことから、対象者が北崎での居住に対する意識を回答できるようになるために必要な情報を提供する時間を調査の中に設けることとした。

回答者に北崎について説明をした後、アンケート調査に移行する。アンケートは調査員が調査対象の学生と対話形式で行うこととした。これは、調査対象の学生の回答をより深く聞き出すためである。

3-1-2 北崎についての事前説明資料

図3-1は回答者に対して事前に北崎の説明をする際に使用する資料である。この資料を作成した際に留意した事項について説明する。

- ・この資料の目的：九大生の北崎での居住可能性を調査するにあたり、回答者が北崎での居住を考えることができるだけの情報を伝達する。
- ・内容：土地、交通、生活利便施設、日常生活のそれぞれについて、筆者らの実体験を元に紹介を行った。なお、調査対象者の回答を誘導しないように、「良い」や「悪い」、「世間では」等の言葉の使用を禁じた。

図3-2は事前説明資料の裏面である。調査後に資料を持ち帰ってもらうことで、回答者が筆者らにアンケートの内容に関して問い合わせできるようにする事、および北崎と北崎シェアハウスの宣伝効果を期待した。なお、左側の北崎シェアハウスの宣伝欄については本研究の調査と関係が無いため、アンケート終了までの閲覧を禁じた。

北崎の紹介

■北崎地区とは？

北崎地区は福岡市西区に属し、糸島半島の最北端に位置する農山漁村地域です。図1は糸島半島における北崎の位置と、北崎から九大や学研都市までの所要時間を表しています。写真1は灘山の山頂から二見ヶ浦、桜井を見て撮影した写真です。二見ヶ浦の一部は北崎地区に属しており、海沿いには写真2のようなお店が並んでいます。北崎の内陸部では農業が盛んで、特に花や大根、スイカ（写真3）の栽培が盛んです。北崎地区は少子高齢化が進行しており、地元住民の中には人口減少による北崎の産業、文化、賑わいが衰退していく事に危機感を抱いている人もいます。北崎はこの現状を打破するために、福岡市や九大と共に、九大生の移住や若い子育て世代の定住化促進に取り組んでいます。写真4は北崎の唐泊地区の様子です。

図1 糸島半島と北崎の位置と唐泊から九大・学研都市までの所要時間



写真1 灘山からの景色（桜井方面）



写真3 北崎の名産品「スイカ」



写真2 西浦地区のおしゃれなお店



写真4 東林寺から見た唐泊地区



■交通、生活利便施設

北崎から伊都キャンパスに通うためには自転車や車などが必要になります。北崎にはスーパーやドラッグストアはありませんが、常備薬や食料品を買うことのできる漁協ストアやヤマザキショップなどがあります。生活する上で必要となるものは北崎内でも揃えることができ、また自転車や車があれば学研都市エリアまで買い物に行くことも可能です。

■日常生活の様子

北崎には使われていない田畠や空き家などがあります。北崎の住民の方に相談することで畠を借りることが出来たり、家主さんの了承があれば日曜大工で家を改修することも可能です。何かやってみたいけれど方法がわからないときにも、近所の経験豊富な方達からアドバイスをもらったり、また仲良くなった住民の方から野菜や魚のおすそ分けが頂けます。まちづくりに関心のある人は、地域の人と一緒に北崎のまちづくりに取り組む事もできます。

■北崎に九大生が住む事の一例 一北崎シェアハウス

九大生3人で北崎の一軒家（築50年）を借りて、シェアハウス生活をしています。

いま住んでいる家は地元の方が見つけてくれました。写真9は入居時の歓迎会の集合写真です。

表1 北崎シェアハウスのまとめ（私たちの生活を振り返って）

生活費（一人あたり）	生活・活動	住んでみて分かった北崎の魅力（周船寺、姪浜エリアと比べて）
家賃 15,000円／月 (ネット、光熱費込み)	<ul style="list-style-type: none">・シェアハウス生活・夜にご飯と一緒に食べる・近所の海に遊びに行く（写真5）・家庭菜園作り（写真6）・地元の中高生向けの塾（写真7）・地元の方と共に家の改修（写真8）	<ul style="list-style-type: none">● 地元の方との交流が増える。● 豊かな海や山の自然を満喫できる● 自分の生活スタイルを自分で作れる事ができる。

写真5 近所の海で海水浴



写真6 家庭菜園作り



写真7 地元の中高生を対象に塾を開講



写真8 地元の協力による家の改修



写真9 入居時の顔合わせ会の様子



北崎の紹介は以上です。別紙のアンケート回答用紙に戻り、アンケートの回答を続けてください。

※この資料の裏面は、北崎シェアハウスの紹介になっています。（アンケートとは関係ありません）

図3-1 北崎の説明に用いた資料

※このページはアンケート内容とは直接関係ありません。



北崎シェアハウス 第3期メンバー募集中！



北崎シェアハウスの住まい方

(3F)	個人スペース 各々の自由	家賃：約¥15,000/月 (光熱費、ネット含む)
(2F (M2F))	共用スペース	
食事	風呂	
トイレ		
家庭菜園	庭	
洗濯		
(1F)	オープンスペース	
釣りの準備		
BBQ	お茶会	
買い物ってどうしてるの？		
→ 漁協ストアは目の前！ ヤマザキショップはチャリで5分 大量買い物時には軽トラで学研都市まで15分		
通学・買い物は任せろ！		



シェアハウスメンバーからのひとこと



M氏 (23) 工学府修士2年 シェアハウスのお父さん役
地域行事や消防団活動を通して、交友関係の幅が大きく広がりました。将来住む人にとってここで生活することは必ず人生の糧になると思います。ぜひぜひ一度見学に来てください！



N氏 (24) 工学府修士2年 キッチンと菜園担当
姪浜エリアから北崎に移り住み、やりたかった家庭菜園を実現できました。自分で出来ないことも仲間や近所の方に相談できる事が嬉しいです！自転車で伊都キャンパスに通っていますが、慣れてしまえば動きやすく便利です。



R氏 (22) 農学部4年 シェアハウスの顔担当
海を見て、釣りをして。猫を観察して、子供と遊んで。一人暮らしでは経験できないたくさんのことが、ここにはある。不便であるということもね。僕は案外便利だと思うんだけどね。

- 見学はいつでも大歓迎です！（送迎も可能）
- 九大祭（11/21,22）と同日にシェアハウス見学ツアーを実施します！
- Facebook でも情報発信中！————► 「北崎シェアハウス」で検索

連絡先

TEL: 080-2714-7389 (カジ)
アドレス: masao@doc.kyushu-u.ac.jp
住所: 福岡市西区大字宮浦328番地（唐泊漁協ストア近く）

入居、見学のご相談や
ツアーの参加希望など、
お気軽にお問い合わせください！

九大生が福岡市西区北崎地域に居住することに関する意識調査

調査にご協力して下さり、ありがとうございます。

この調査は、私たちの修士論文のテーマ「九大生の北崎における居住可能性」に関して、北崎に住む事にみなさんがどのような意識を持っているのかというデータ収集の為に調査しています。

このアンケートの構成は下記のようになっております。

- I. あなたの属性に関する質問
- II. あなたの嗜好に関する質問
- III. あなたの北崎地域での居住に対する意識に関する質問

最初に I、II に答えて頂いた後に、次ページの北崎の紹介資料を読んで、IIIにお答えください。

あなたに回答して頂きたい質問は全部で 17 項目あります。

質問にはあなた自身の率直な気持ちで回答してください。

みなさんから頂いた情報は、本研究以外の目的では使用せず、個人情報に関しては個人を特定される形での公表は致しません。また研究に関わらない第三者に情報を提供することもありません。

2015年10月

景観研究室
鍛治昌男 河津憲嗣

連絡先

工学府都市環境システム工学専攻
景観研究室（ウエスト3号館815号室）
092-802-3436
masao@doc.kyushu-u.ac.jp

次のページで北崎の紹介をしています。
アンケートに回答する前に読んでください。

図 3-2 説明資料の裏面

3-1-3 質問項目の選定

図 3-3, 図 3-4 は調査時に用いる回答用紙である。

調査対象者に回答してもらう項目は大きく分けて 3 項目あり、それぞれ

- I. あなたの属性に関する質問
- II. あなたの嗜好に関する質問
- III. あなたの北崎地域での居住に対する意識に関する質問

である。

I. あなたの属性に関する質問

質問 1～3 に関しては、調査結果の分析時に性別、学年別、学部（学府）別の傾向を読み取るために調査した。

II. あなたの嗜好に関する質問

質問 4～10 については、調査対象者の北崎地域での居住に対する意識とその調査対象者の地域に対する嗜好性、居住に対する嗜好性との関係性を読み取るために調査した。なお、質問 7 におけるそれぞれの選択項目は、糸島市が行った九大教員に対する居住アンケートを参考として、対象者が学生であることを考慮した上で選択項目を選定した。

III. あなたの北崎地域での居住に対する意識に関する質問

質問 11～17 までの調査方法のフローを図 3-5 で説明する。

質問開始前に、調査対象者には前提条件として「今のあなたが新しく住居を探すことになったと考えてください」と説明を行う。

#1 現在の北崎について事前に説明を行った上で、今の北崎に住んでみたいかを調査対象者に問う。この質問に対して、

→「住みたい」と回答した調査対象者に対してはその理由を詳しく聞き、何も課題が上がらなければその調査対象者が「今の北崎に住みたい」層として分類して調査を終了する。

→「住みたくない」と回答した調査対象者に対しては「魅力に感じる事」と「住む上で課題と思うこと」の 2 点を詳しく聞く。

#2 #1 で「住みたくない」と回答した調査対象者に、対象者が回答した「住む上で課題と思う事」の各課題項目がどのように改善されると良いかを問う。調査対象者が住む上で課題と思う項目それぞれについて課題が解消した場合、北崎に住みたくなるかを問う。

すべての課題項目がいずれかの提案で解消されて「住みたい」と回答した時点でその調査対象者が「条件が整えば住みたい」層として分類して調査を終了する。

#3 それでも「住む上で課題と思う」項目が解決されない場合は、その調査対象者が「北崎に住みたくない」層として分類して、その理由を聞いた後に調査を終了する。なお理由の中に解決出来そうな課題がある場合、#2 のステップをもう一度繰り返す。

アンケート回答用紙

I. あなたの属性に関する質問

質問1. あなたの性別を教えて下さい。

- 男性 女性

質問2. あなたの学年を教えて下さい。

- 学部1年 学部2年 学部3年 学部4年 修士1年 修士2年
 その他()

質問3. あなたの所属学部(学府)を教えて下さい。

→学部生の方はこちらから1つ選んでください。
 文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部
 藥学部 工学部 農学部 芸術工学部 21世紀プログラム

→大学院生の方はこちらから1つ選んでください。

- 工学府 人文科学府 地球社会統合科学府 人間環境学府 法学府 薬学府
 理学府 医学系学府 統合新領域学府 システム生命科学府 齢学府 芸術工学府
 経済学府 生物資源環境科学府 システム情報科学府 総合理工学府

II. あなたの嗜好に関する質問

質問4. あなたはアウトドア派ですか、それともインドア派ですか。

- アウトドア派 どちらかというとアウトドア派 どちらかというとインドア派 インドア派

質問5. 近くに海・山があるような自然環境豊かなところで住む事に興味はありますか。
 興味ある どちらかというと興味ある どちらかというと興味なし 興味なし

質問6. 地域活動(清掃活動、お祭り等の地域行事、自治会など)に参加する事に興味はありますか。
 興味ある どちらかというと興味ある どちらかというと興味なし 興味なし

質問7. 住むエリアを選ぶ際にあなたが考慮する項目を下記の項目から3つお選びください。

自然環境・住環境

- 自然災害の少なさ 治安の良さ
 自然環境の豊かさ 近所付き合いのしやすさ
 静けさ、落ち着き 歴史、伝統
 農地の有無
 食べ物が新鮮
 その他()

利便性・経済性

- 学校までの距離 娯楽施設の充実
 公共交通機関の利便性 都心部までの距離
 買い物の利便性 医療施設の利便性
 家賃 美味しいお店がある
 親の意向 友人、知人の存在

質問8. 現在あなたがお住まいの家は、どのような情報で見つけましたか。

()

質問9. もしもあなたが引っ越しをするとしたら、どのように情報を集めますか?

()

質問10-1. 北崎という地域名を知っていますか。

- 知っている 知らない スポット名(ざうお、二見ヶ浦など)は聞いた事、行った事がある

質問10-2. 質問10-1で「知っている」と答えた方にお聞きします。北崎を知ったきっかけを教えて下さい。

()

※以下の質問の回答を始める前に、別添の北崎の紹介資料をお読みください。

III. あなたの北崎地域での居住に対する意識に関する質問

質問11. あなたは今の北崎地区に住んでみたいと思いますか。

- 住みたい 住みたくない
 →質問12を聞いてからend →質問12以降も聞く

住みたいと思った理由 住みたくないが魅力に感じた事	住みたくないと思った理由
------------------------------	--------------

質問12. 北崎で住んでみたい家のタイプは次の項目の内どれですか。

- 戸建てで一人暮らし 戸建てに複数人で アパート一室で一人暮らし 下宿 その他()

質問13. 北崎に糸島市のような移住補助サービスがあるとしたら、居住可能性は上がりますか。

- 上がる 変わらない

質問14. 質問11で住みたくないと思った理由のそれそれについて、どのような条件に改善されると住みたくなりますか。

交通

買い物の利便性(スーパー・コンビニ)

周りに友人などがいること

2枚目に続く

1/2

図3-3 調査時に使用した回答用紙1枚目

質問11. 質問11で住みたくないと思った理由のそれについて、どのような条件に改善されると住みたくなりますか。

その他の項目（項目名と理由を記述する）

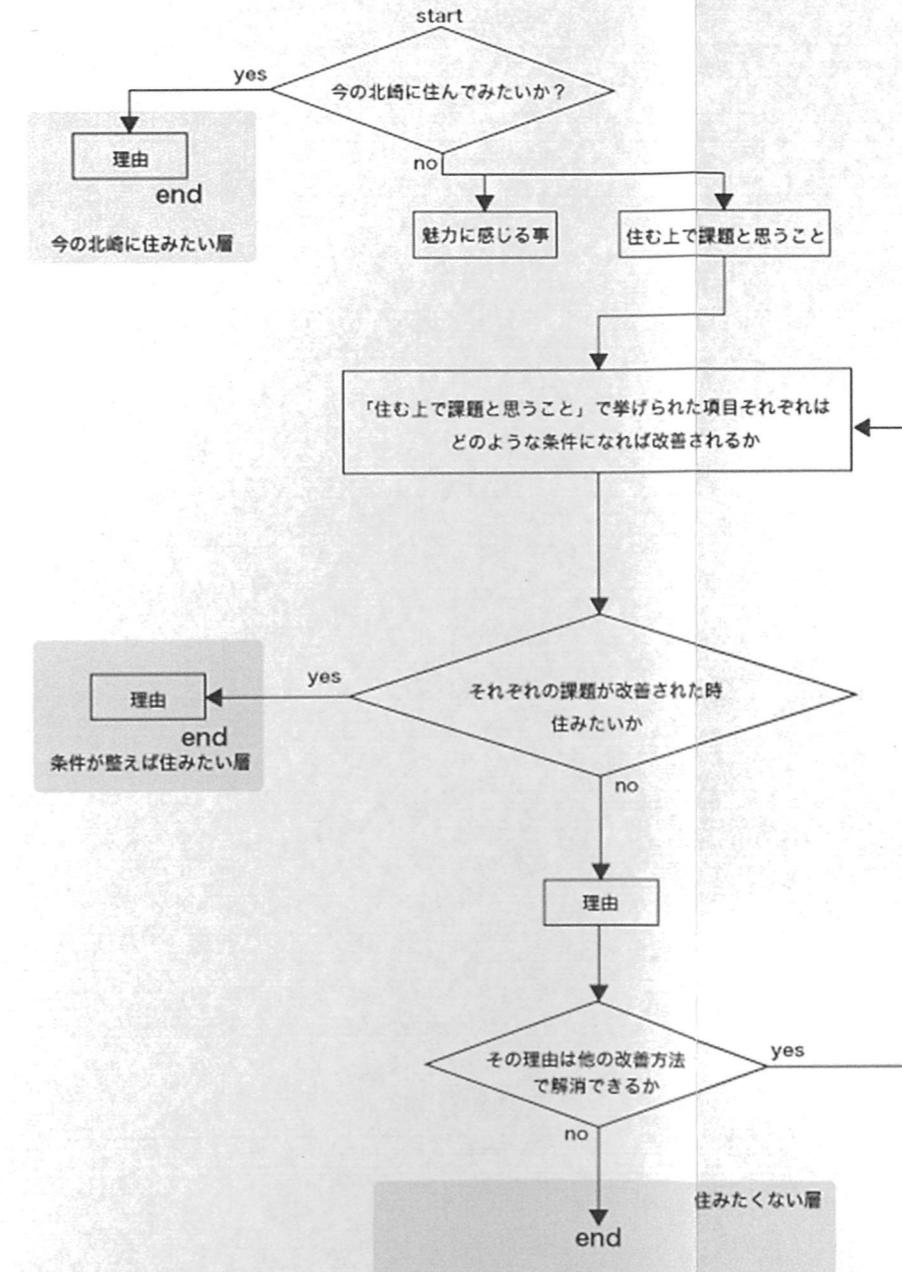
質問15. 質問14で条件が改善された場合、住みたくなりましたか。

はい → end いいえ → 質問16.に回答

質問16. 住みたくない理由を教えて下さい。end

自由記述欄

前提：今あなたが新しく住居を探すことになったと考えてください。



2/2

図3-4 調査時に使用した回答用紙2枚目

前提：今あなたが新しく住居を探すことになったと考えてください。

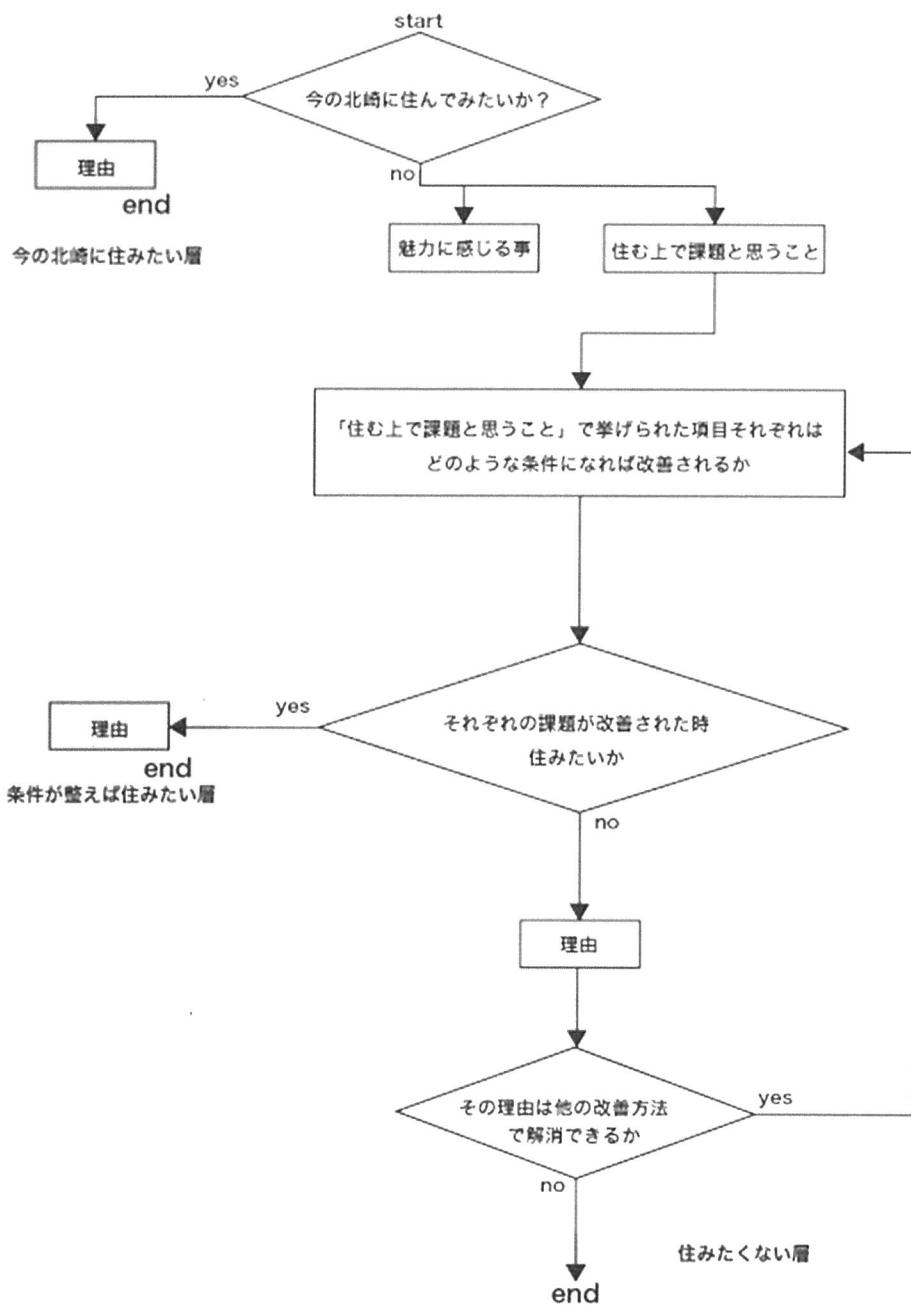


図 3-5 調査項目IIIのフロー

3-2 本調査

3-2-1 調査対象者

調査対象者は九州大学の学生を対象とした。学年や所属学府に関しては、概ね九州大学の学生の構成比に近くなるように試みた。

3-2-2 標本数の決定

2015年11月現在、対象となる九州大学の学生（学部生および修士過程の大学院生）は15648人である。

この母集団全てに調査することは極めて困難であるため、標本調査を行うことにした。

信頼水準を95%（ $\lambda=1.96$ ）、許容誤差を5%（ $d=0.05$ ）とする。また調査対象者が最大となるように、回答比率Pは0.5とする。このとき、必要となる標本数は次の式で表される。

$$\text{必要な標本数 } n = \frac{\lambda^2 \cdot P \cdot (1-P)}{d^2}$$

λ : 信頼水準 (95%時は 1.96)

P : 回答比率 (0.5)

d : 許容誤差 (5%なので 0.05)

この式により、標本数を計算すると、

$$\text{必要な標本数 } n = \frac{1.96^2 \times 0.5 \times 0.5}{0.05^2} = 384.16 \\ \approx 385 \text{ (人)}$$

よって、標本数は385人に決定した。

3-2-3 調査方法

回答してくださった1人あるいは1グループに対して、5分で北崎の紹介資料を用いて北崎の紹介を行った。その後、聞き取り調査を開始した。

調査は伊都キャンパスを中心に行い、大橋キャンパス、箱崎キャンパスでも同様に調査を行った。

3-3 調査結果の分析手法

質問11の「住みたい」「住みたくない」の回答と各質問項目をクロス集計することで、北崎での居住可能性を持つ学生の傾向を把握する。

また、質問12以降の回答を抽出して数え上げることで、今後九大生の北崎での居住可能性を向上させるための課題改善案要因を探る。

4-1 図

4-1-1

アンケ

回答者

アンケ

タ九

る。

回の

表4-1



第4章

一次調査結果

第4章 一次調査結果

2016年10月26日から2016年12月14日にかけて調査を行い、385件の回答を得た。

回答数

4-1 回答者の属性

4-1-1 回答者の性別

アンケート項目質問1「あなたの性別を教えて下さい」に対する回答を表4-1、図4-1に示す。回答数は385件である。

アンケート回答者の男女割合は男性71%、女性29%である。

九大ホームページによると、H27.11月九州大学全体での男女割合は男性が73%、女性27%である。

回答者の性別に関しては割合がほぼ一致している。

表4-1 九州大学の学生の性別と回答者の性別

	九州大学（学部・修士）		アンケート回答者	
	人数	割合	人数	割合
男性	11430	73.0%	273	70.9%
女性	4218	27.0%	112	29.1%
合計	15648	100.0%	385	100.0%

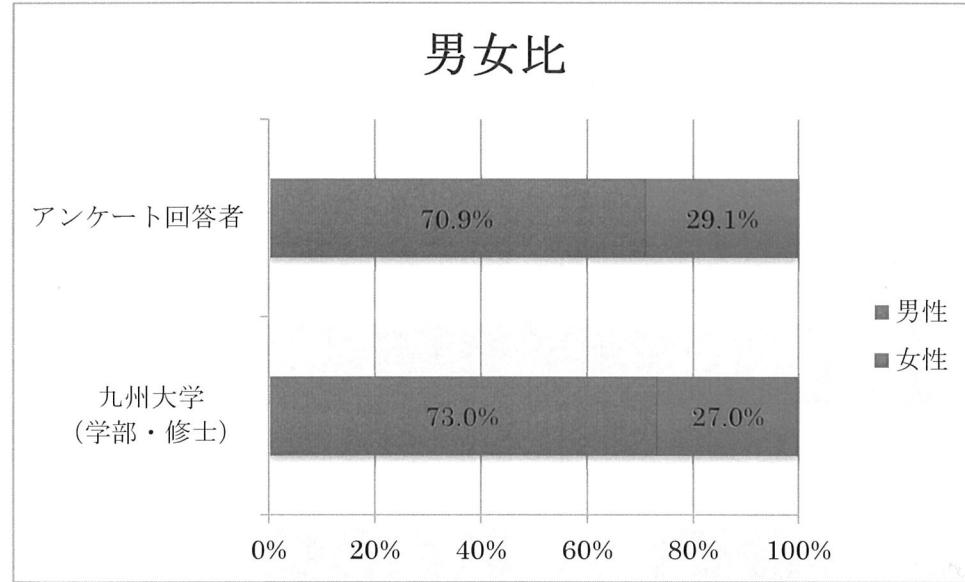


図4-1 九州大学の学生の性別と回答者の性別

4-1-2 回答者の学年

アンケート項目質問2「あなたの学年を教えて下さい」に対する回答を表4-2、図4-2に示す。

回答数は385件である。

アンケート回答者は1年生が全体の55%を占めている。

これに次いで学部2年(22%)、学部3年(11%)となっている。

回答者の学年に関しては、九州大学学生の構成比率に合うように試みたが、声をかけた学生に1年生が多かった為、母集団と標本集団には差がある。

学生を想定

表4-2 九州大学の学生の学年と回答者の学年

	九州大学(学部・修士)		アンケート回答者	
	人数	割合	人数	割合
学部1年	2716	17%	210	55%
学部2年	2723	17%	84	22%
学部3年	2740	18%	41	11%
学部4年	3196	20%	17	4%
修士1年	1925	12%	14	4%
修士2年	1964	13%	15	4%
その他	384	2%	4	1%
合計	15648	100%	385	100%

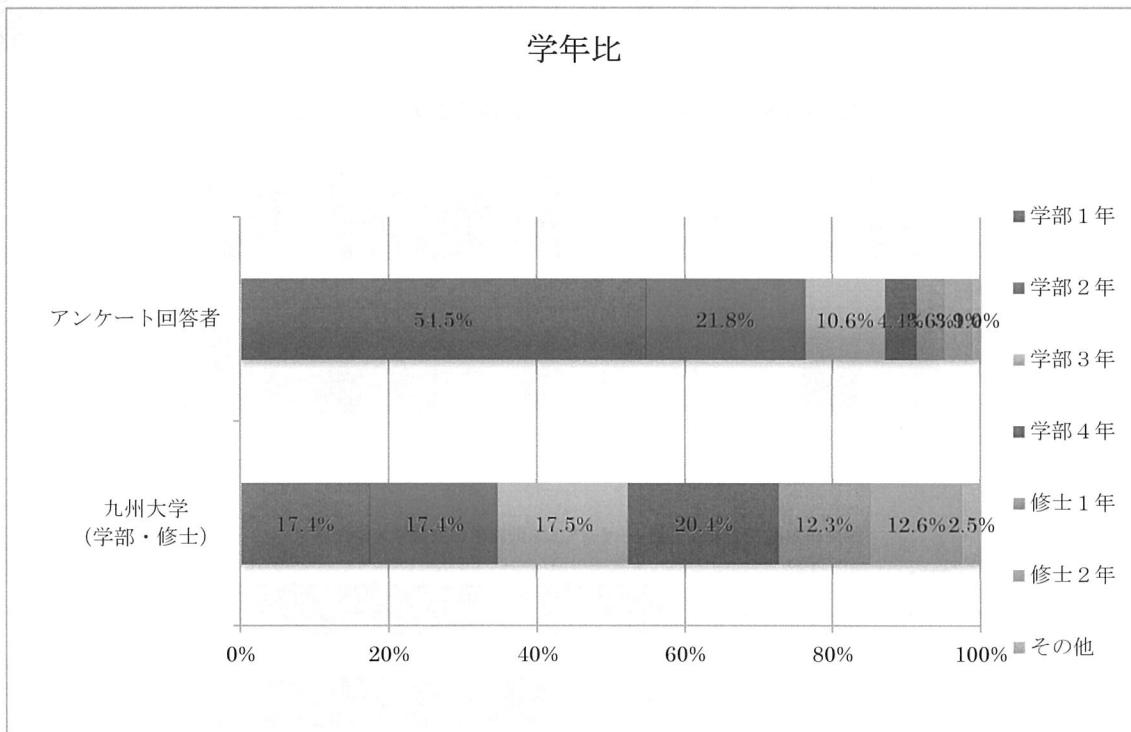


図4-2 九州大学の学生の学年と回答者の学年

4-1-3 回答者の所属学部（学府）

4 アンケート項目質問 3「あなたの所属学部（学府）を教えて下さい」に対する回答を表 4-3、図 4-3 示す。

回答数は 384 件である。

表 4-4

九州大学の学生の所属学部と、回答者の所属学部を示す。

回答者の所属学部、学府に関しては、九州大学学生の構成比率に合うように試みたが、声をかけた学生を意図的に操作出来なかつたため母集団と標本集団には差がある。

表 4-3 回答者の学部・学府

学部		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部	農学部	芸術工学	21世紀プログラム
九州大学		712	220	847	1084	1259	1302	334	394	3663	902	1007	120
割合		5%	1%	5%	7%	8%	8%	2%	2%	23%	6%	6%	1%
アンケート		30	24	20	29	47	19	5	8	144	23	6	0
割合		7.8%	6.3%	5.2%	7.6%	12.2%	4.9%	1.3%	2.1%	37.5%	6.0%	1.6%	0.0%

学府		人文学府	地球社会統合	人間環境	法学府	薬学府	理学府	医学系学府	統合新領域学府	比較社会文化学府	數理学府	芸術工学府	経済学府	物資源環境科学府	システム情報科学府	総合理工学府	
九州大学		968	81	127	217	87	95	287	103	161	5	109	284	105	474	362	474
割合		6%	1%	1%	1%	1%	1%	2%	1%	1%	0%	1%	2%	1%	3%	2%	3%
アンケート結果		12	0	2	2	0	0	3	1	0	0	0	0	0	8	1	0
割合		3.1%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.8%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.3%	0.0%

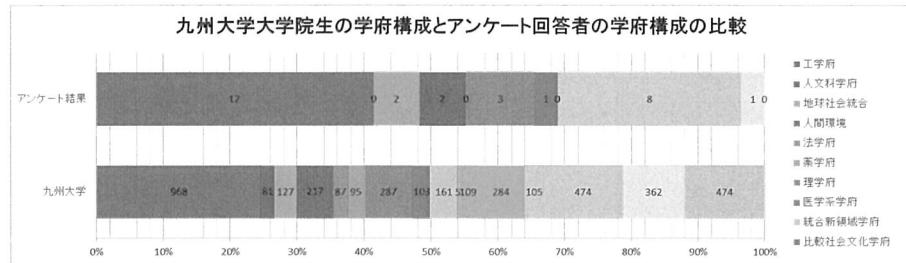
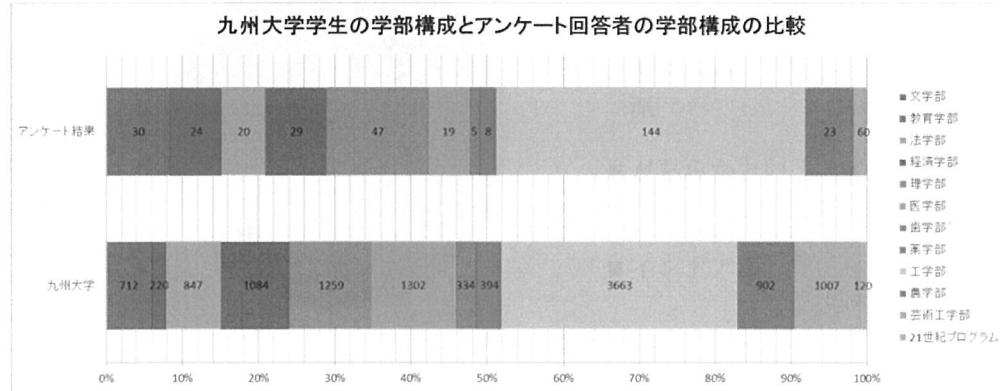


図 4-3 回答者の学部・学府

4-2 回答者の嗜好性

4-2-1 アウトドア派かインドア派か

アンケート項目質問4「あなたはアウトドア派ですか、それともインドア派ですか」に対する回答を表4-4、図4-4に示す。

回答数は385件である。

環境

アウトドア派またはどちらかと言うとアウトドア派であると回答したのは180人で回答者の内の47%であった。一方インドア派またはどちらかというとインドア派と回答したのは205人で回答者の内の53%であった。

表4-4 質問4に対する回答

	人数	割合
アウトドア派	85	22%
どちらかというとアウトドア派	95	25%
どちらかというとインドア派	103	27%
インドア派	102	26%
合計	385	100%

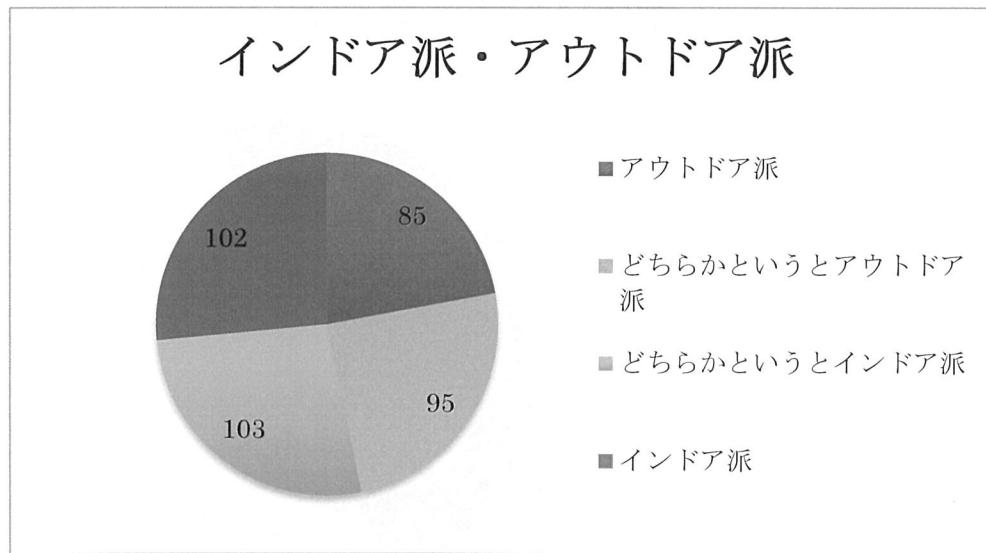


図4-4 質問4に対する回答

4-2-2 自然環境豊かなところで住むことへの興味

アンケート項目質問5「近くに海・山があるような自然環境豊かなところで住むことに興味はありますか」に対する回答を表4-5、図4-5に示す。

回答数は385件である。

興味があるまたはどちらかというと興味があると回答したのは305人であり、回答者の79%が自然環境の豊かなところに住む事に興味を持っている。一方興味なし又はどちらかというと興味なしと回答したのは79名であり、回答者の21%が自然環境の豊かな所に住む事に興味を持っていない。

149

表4-5 質問5に対する回答

	人数	割合
興味ある	161	42%
どちらかというと興味ある	145	38%
どちらかというと興味ない	64	17%
興味ない	15	4%
合計	385	100%

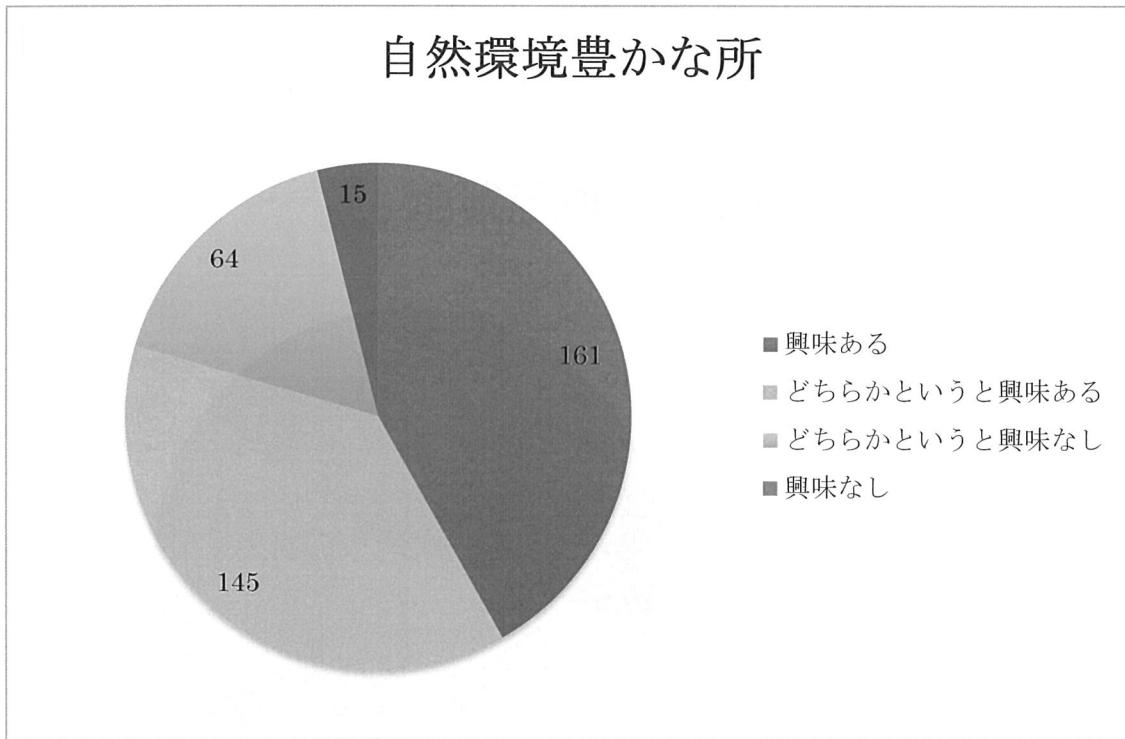


図4-5 質問5に対する回答

4-2-3 地域活動に参加することへの興味

アンケート項目質問6「地域活動（清掃活動、お祭り等の地域行事、自治会など）に参加することに興味はありますか」に対する回答を表4-6、図4-6に示す。

回答数は385件である。

興味あるまたはどちらかというと興味あると回答したのは236人であり、回答者の61%が地域活動に参加する事に興味を持っている。一方興味ないまたはどちらかというと興味ないと回答したのは149名であり、回答者の39%が地域活動に参加する事に興味を持っていない。

表4-6 質問6に対する回答

	人数	割合
興味ある	111	29%
どちらかというと興味ある	125	32%
どちらかというと興味ない	92	24%
興味ない	57	15%
合計	385	100%

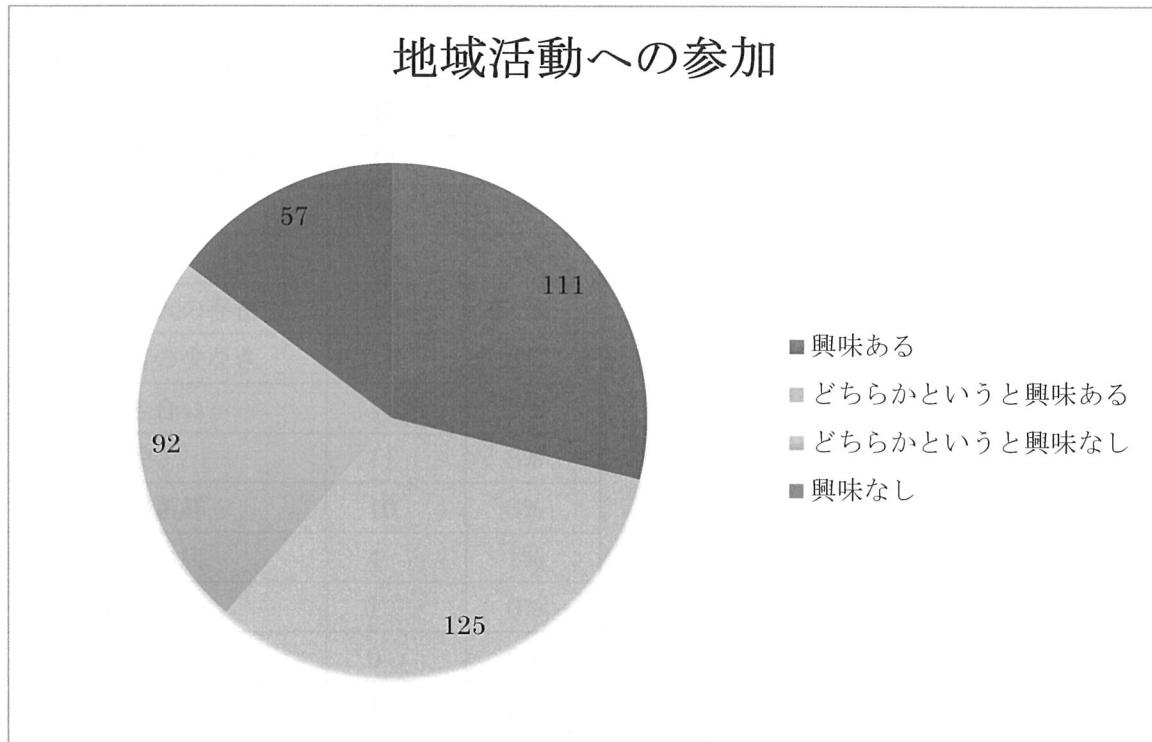


図4-6 質問6に対する回答

4-2-4 住むエリアを選ぶ際に考慮する事

アンケート項目質問 7 「住むエリアを選ぶ際にあなたが考慮する項目を下記の項目から 3 つお選びください」に対する回答を表 4-7、図 4-7 に示す。

回答者数は 385 人である。

回答者の 65% にあたる 249 人の学生が「公共交通機関の利便性」を考慮している。次いで 55% にあたる 211 人が「学校までの近さ」を考慮している。次に 47% にあたる 180 人の学生が「買い物の利便性」について考慮している。他に、「家賃帯」148 人 (38%)、「治安が良い」97 人 (25%)、「静けさ」56 人 (15%)、「都心部までの距離」47 人 (12%)、「自然環境の豊かさ」44 人 (11%)、「親の意向」28 人 (7%)、「娯楽施設の有無」19 人 (5%)、「友人、知人の存在」17 人 (4%)、「自然災害の少なさ」「近所付き合い」「医療施設の利便性」11 人 (3%)、「食べ物が新鮮」10 人 (3%)、「美味しいお店がある事」4 名 (1%)、「農地があること」1 人 (0%) となった。またその他の回答は 10 件あり、「家の設備が充実した場所」「部屋が広いこと」など家の状態に関する回答が 6 件、「DIY ができるところ」「郊外」「気候が良い所」「留学生に近いところ」が 1 件ずつあった。

表 4-7 質問 7 に対する回答

	人数	割合
公共交通機関の利便性	249	65%
学校までの近さ	211	55%
買い物の利便性	180	47%
家賃帯	148	38%
治安が良い	97	25%
静けさ・落ち着き	56	15%
都心部までの距離	47	12%
自然環境の豊かさ	44	11%
親の意向	28	7%
娯楽施設	19	5%
友人・知人の存在	17	4%
自然災害の少なさ	11	3%
近所付き合い	11	3%
医療施設	11	3%
食べ物が新鮮	10	3%
美味しいお店	4	1%
農地の有無	1	0%
歴史・伝統がある	0	0%
その他	10	0%

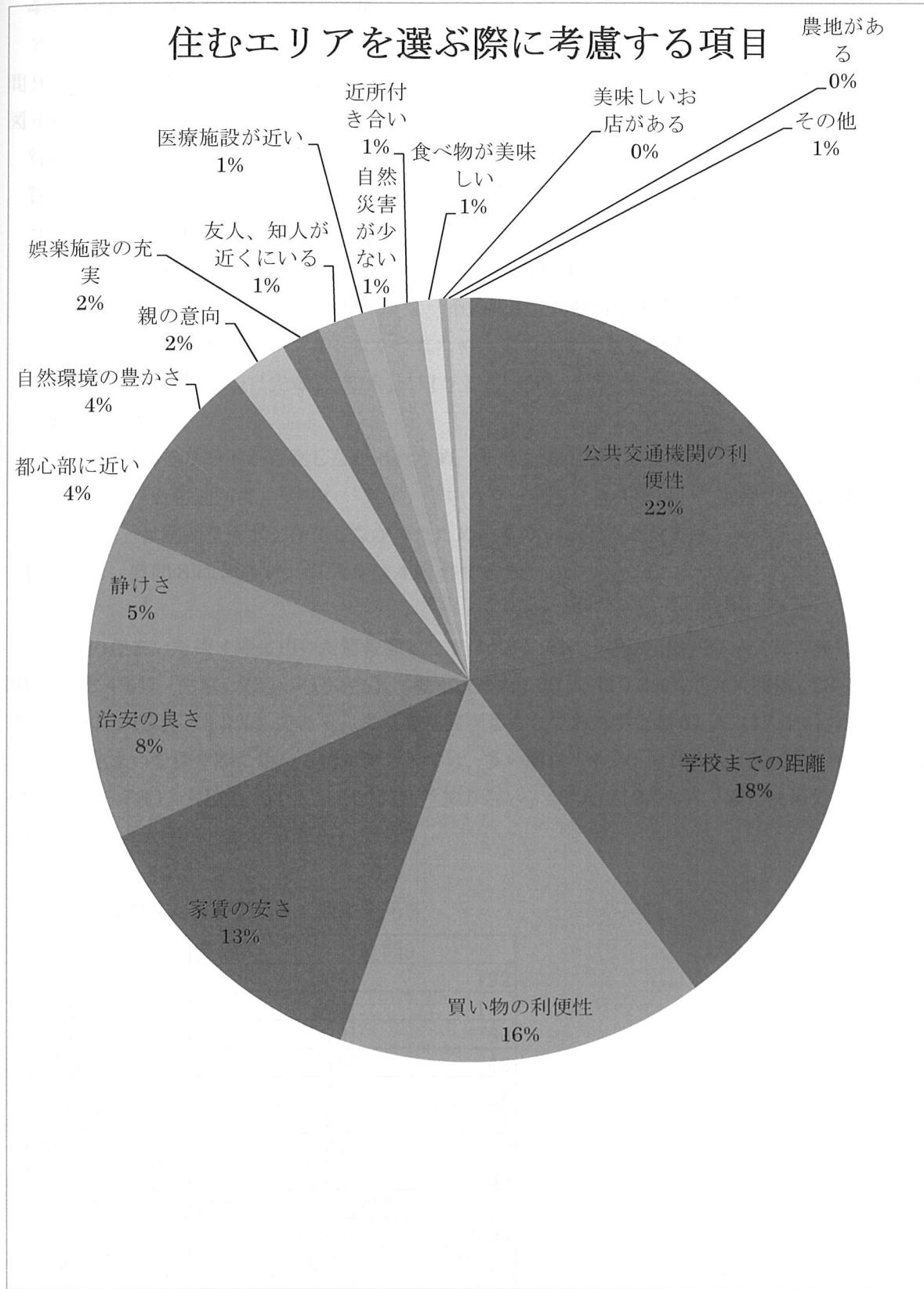


図 4-7 質問 7 に対する回答

4-2-5 住まい探しの際に使う情報源

アンケート項目質問8「現在あなたがお住まいの家は、どのような情報で見つけましたか」および質問9「もしもあなたが引っ越しをするとしたら、どのように情報を集めますか」に対する回答を表4-8、図4-8に示す。

質問8および質問9の回答者は384人であった。

質問8及び質問9は自由に回答してもらう形式であるため、データをコーディングした。

コーディング方法は以下のとおりである。

- ・「ネット」「HP」というワードを「ネット」に統合し1票と数えた
- ・「不動産」「不動産屋」というワードを「不動産屋」に統合し1票と数えた
- ・「生協」は関連ワードが存在しなかったため、そのまま1票と数えた
- ・「知り合い」「友人」「先輩」「知人」「口コミ」「友達」というワードを「知り合い」に統合し1票と数えた
- ・「親」は関連ワードが存在しなかったため、そのまま1票と数えた
- ・「九大」「合格通知書」「学校」「大学」というワードを「九大関係」に統合し1票と数えた
- ・「実家」は関連ワードが存在しなかったため、そのまま1票と数えた。

回答数は、質問8は394件、質問9は439件である。

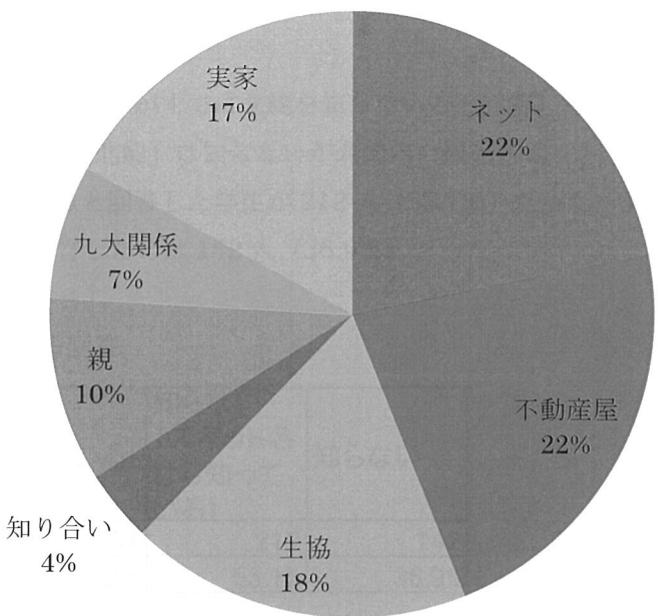
現在の住まいを探す際に用いた情報源としては、多い順に「不動産屋」87人(22.7%)、「ネット」86人(22.4%)、「生協」72人(18.8%)、「親が決めた」39人(10.2%)、「九大関係」28人(7.3%)、「知り合い」15人(3.9%)である。また現在実家暮らしである学生が67人(17.4%)だった。

次の住まいを探す際に用いる情報源としては、多い順に「ネット」192人(50.0%)、「不動産屋」141人(36.7%)、「生協」54人(14.1%)、「知り合い」48人(12.5%)、「親に決めてもらう」2人(0.5%)、「九大関係」2人(0.5%)である。

表4-8 質問8および質問9に対する回答

情報源(票)	質問8	質問9
ネット	86	192
不動産屋	87	141
生協	72	54
知り合い	15	48
親	39	2
九大関係	28	2
実家	67	0
計	394	439
情報源(%)	質問8	質問9
ネット	22.4%	50.0%
不動産屋	22.7%	36.7%
生協	18.8%	14.1%
知り合い	3.9%	12.5%
親	10.2%	0.5%
九大関係	7.3%	0.5%
実家	17.4%	0.0%

現在の住まいをどう探したか



次の住まいをどう探すか

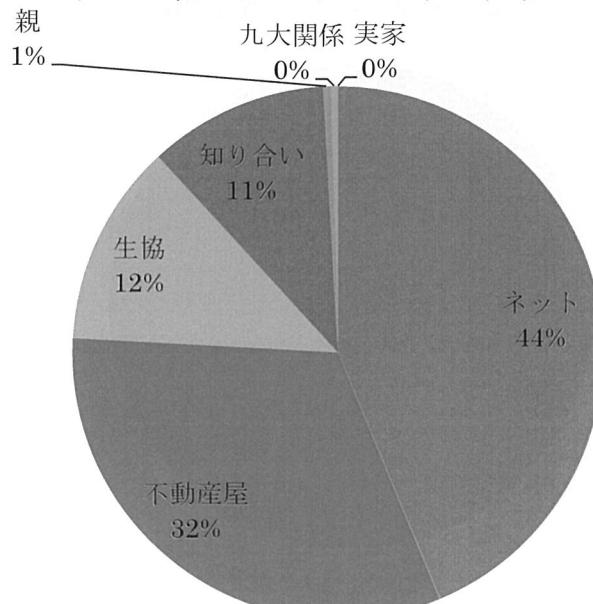


図 4-8 質問 8 および質問 9 に対する回答

4-2-6 北崎の知名度

アンケート項目質問 10 「北崎という地域名を知っていますか」に対する回答を表 4-9、図 4-9 に示す。

回答者数は 385 人である。

回答者の内、31 人（8.1%）がすでに北崎を知っていると回答した。「知らない」と回答したのは 354 人（91.9%）であるが、「北崎」は知らないが北崎内の観光スポットである「二見ヶ浦」「ざうお」「海釣り公園」を知っていると回答した学生が 212 人（55.1%）だった。また、「北崎」および北崎内のスポットを知らないと回答したのは 142 人（36.9%）だった。

表 4-10

表 4-9 質問 10 に対する回答

	知っている	知らない (スポット名 なら知って いる)	知らない
回答者(人)	31	212	142
回答者(%)	8.1%	55.1%	36.9%

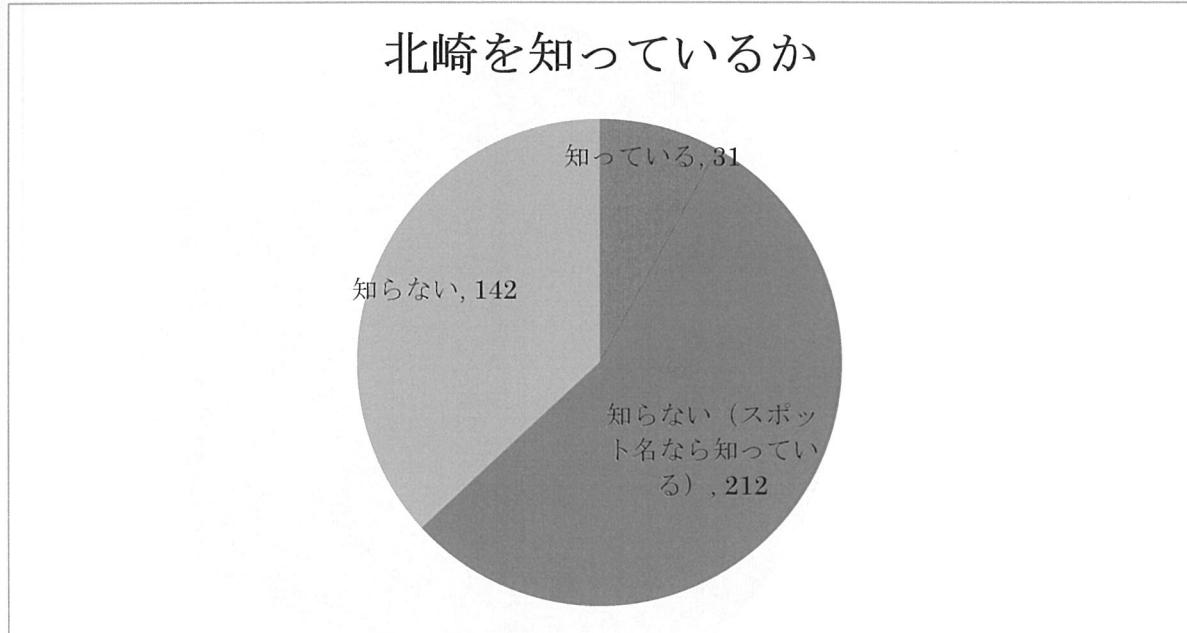


図 4-9 質問 10 に対する回答

4-3-1 現在の北崎に住んでみたいか

アンケート項目質問 11「あなたは今の北崎地区に住んでみたいと思いますか」に対する回答を表 4-10、図 4-10 に示す。

回答者数は 385 人である。

回答者の内、40 人（10.4%）が現状の北崎に住みたいと回答した。一方で 345 人（89.6%）が現状の北崎には住みたくないと回答した。

表 4-10 質問 11 に対する回答

	人数	割合
住みたい	40	10.4%
住みたくない	345	89.6%
合計	385	100%

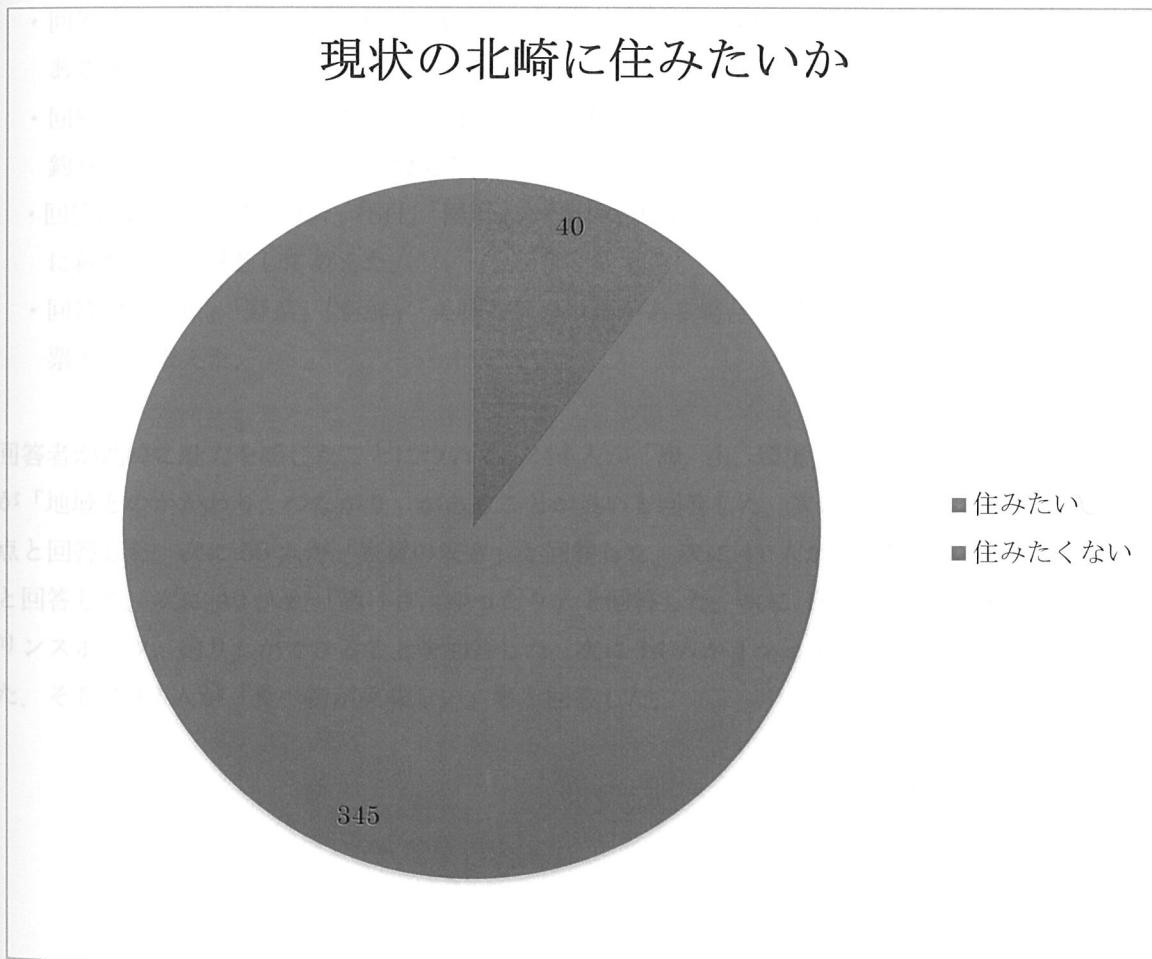


図 4-10 質問 11 に対する回答

4-3-2 北崎の何が魅力に感じるか

アンケート項目質問 11 の自由記述「なぜ住みたいと思ったか」「住みたくないが魅力に感じたことは何か」に対する回答を表 4-11、図 4-11 に示す。

回答者数は 385 人である。

この質問項目は自由記述であるため、以下の方法でデータをコーディングした。

- 山
境
244
- 回答内に「地域」「かかわり」「つながり」「温（もり）」「近所」「交流」の単語がある場合、「地域とのかかわり、つながりがあること」に統合し、1 票と数えた。
 - 回答内に「海」「環境」「山」「自然」「景色」の単語がある場合、「海、山、自然環境」に統合し、1 票と数えた。
 - 回答内に「経験」「成長」「活動」の単語がある場合、「経験、成長」に統合し、1 票として数えた。
 - 回答内に「安い」「家賃」「お金」の単語がある場合、「家賃の安さ」に統合し、1 票として数えた。
 - 回答内に「リノベ」「DIY」「家庭菜園」の単語がある場合、「DIY,家庭菜園」に統合し、1 票として数えた。
 - 回答内に「静か」「ゆったり」「落ち着」「うるさくな」「スロー」「ゆっくり」「田舎」の単語がある場合、「静か、ゆったり」に統合し、1 票として数えた。
 - 回答内に「マリン」「釣り」「アウトドア」の単語がある場合、「アウトドア、マリンスポーツ、釣り」に統合し、1 票として数えた。
 - 回答内に「シェアハウス」「SH」「同居人」「わいわい」の単語がある場合、「シェアハウス生活」に統合し、1 票として数えた。
 - 回答内に「魚」「野菜」「新鮮」「美味し」の単語がある場合、「食べ物が美味しい」に統合し、1 票として数えた。

回答者が北崎に魅力を感じたことについて、244人が「海、山、環境」が良いと回答した。次に 119 人が「地域とのかかわり、つながり」があることが良いと回答した。次に 76 人が「経験、成長」できる点と回答した。次に 55 人が「家賃の安さ」と回答した。次に 41 人が「DIY,家庭菜園」ができることと回答した。次に 40 人が「静けさ、ゆったり」と回答した。次に 19 人が「アウトドアスポーツ、マリンスポーツ、釣り」ができることを回答した。次に 14 人が「シェアハウス生活」できる事と回答した。そして 12 人が「食べ物が美味しい」事と回答した。

表 4-11 質問 11 自由回答項目に対する回答

アンケート 海、山、環境 の回答数	地域 かかわり つながり	経験 成長	家賃 の安さ	DIY 家庭菜園	静か ゆったり	アウトドア マリンスポーツ 釣り	シェアハウス生活	食べ物が美味しい	計
244	119	76	55	41	40	19	14	12	620

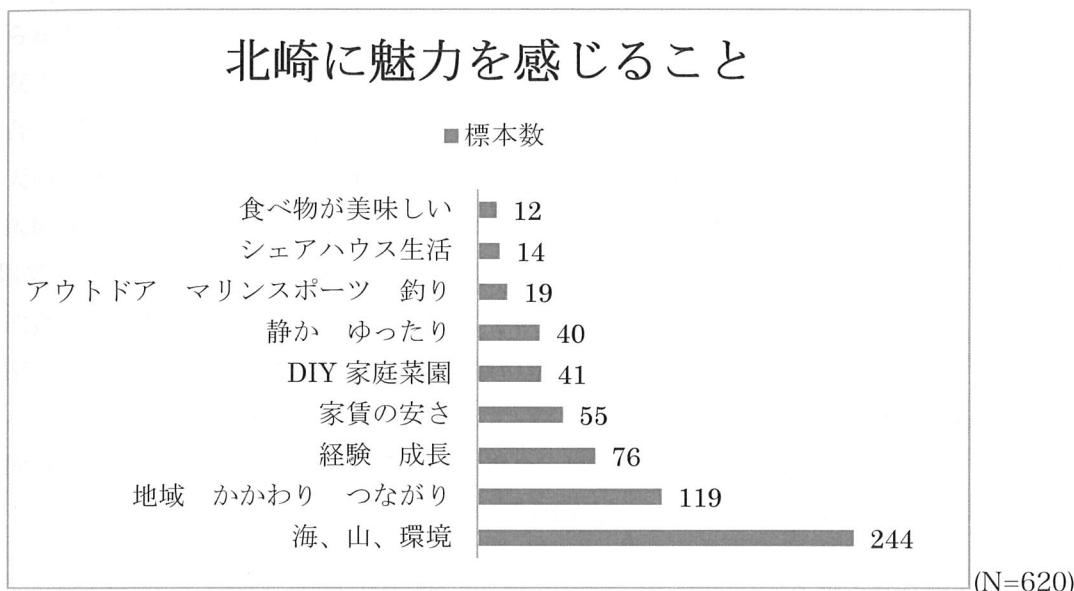


図 4-11 質問 11 自由回答項目に対する回答

表4-12

4-3-3 北崎に住む上で課題となる事項

アンケート項目質問 11 「あなたは今の北崎地区に住んでみたいと思いますか」に対し、「住みたくない」と回答した学生に対し、その理由を伺った。表4-12、図4-12にその結果を示す。

回答者は、4-3-1で示した現状の北崎に住みたくないと回答した345人である。

この回答形式は自由回答であるが、パターン化していたためデータ入力時に予めコーディングを行った。

コーディングは以下のとおり行った。

- ・バス、地下鉄、電車等の公共交通機関の便について言及している場合、「交通」として数える。
- ・買い物の便について言及している場合、「コンビニ」「スーパー」のどちらかを聞き、そのどちらかとして数え上げる。
- ・友人や同年代が近くに居ないこと、遊び相手に会いづらいということについて言及している場合、「友人」として数え上げる。
- ・天神、博多までの所要時間や距離について言及している場合、「天神」として数え上げる。
- ・医療施設が近くに無いことに関して言及している場合、「医療施設」として数え上げる。
- ・娯楽施設、レンタルショップの有無に関して言及している場合、「娯楽施設」として数え上げる。
- ・飲食店が近くに無いことに関して言及している場合、「外食」として数え上げる。
- ・家の状態について言及している場合、「家の状態」として数え上げる。
- ・バイト先が近くに無い事について言及している場合、「バイト」として数え上げる。
- ・飲み会の帰りの事について言及している場合、「飲み会」として数え上げる。
- ・上記以外の事について言及している場合、「その他」として数え上げる。

調査の結果、現状の北崎に「住みたくない」と回答した学生345人のうち、「交通の便」を挙げたのが276人(80%)、次に「スーパーが近くに無いこと」を挙げたのが149人(43.2%)、次に「友人が近くに居ないこと」を挙げたのが58人(16.8%)、「天神、博多まで遠い」が35人(10.1%)、「コンビニが近くに無いこと」が26人(7.5%)、「飲食店が近くに無いこと」が6人(1.7%)、「医療施設が近くに無いこと」が4人(1.2%)、「飲み会の帰り大変」が4人(1.2%)、「家の状態が不安」が2人(0.6%)、「バイト先が近くに無い」が2人(0.6%)だった。

また、他の回答をした人が68人(19.7%)で、内訳として、「キャンパスが箱崎、大橋、馬出」が29人、「伊都キャンパスまで遠い」が8人、「治安が悪そう」が5人、「海に近い」または「自然が近い」が5人、「虫、動物がでそう」が4人、「知名度が低い」が3人、「地元の人との交流に不安、抵抗がある」が3人、「今の生活を維持したい、今に満足している」が3人、他に各1人ずつから「電波が飛んでなさそう」「外に出たくない」「物価が高そう」「忙しいから日常生活を楽しむ暇がない」「都市のほうが良い」「旅行では良いが住みたいとは思わない」「田舎すぎる」「シェアハウスに抵抗がある」という意見がでた。

表 4-12 現状の北崎に住みたくない理由

	交通	スーパー	コンビニ	友人	天神	医療	娯楽	外食	家	バイト	飲み会	その他	総計
回答数(人)	276	149	26	58	35	4	18	6	2	2	4	68	648
回答割合(%)	80.0%	43.2%	7.5%	16.8%	10.1%	1.2%	5.2%	1.7%	0.6%	0.6%	1.2%	19.7%	-

を表 4-12

回答者

調査の

が123人。

その他

「その他」

表 4-12

回答数(人)

回答割合(%)

回答者

回答数(人)

回答割合(%)

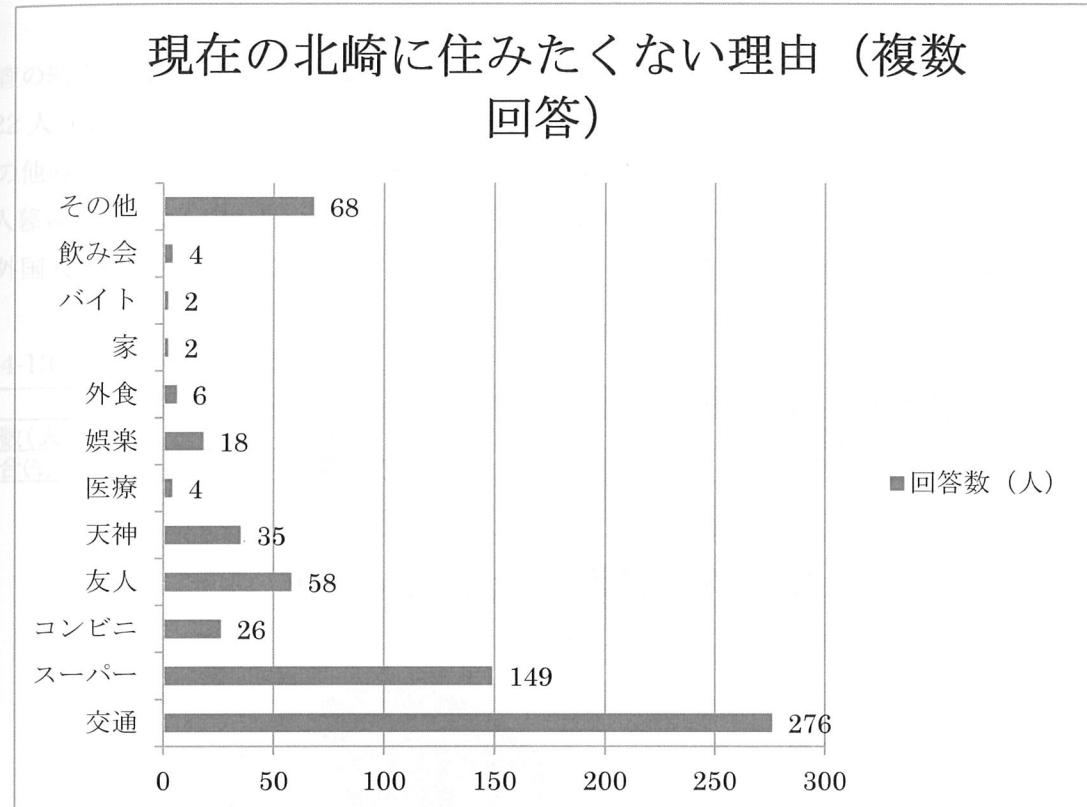


図 4-12 現状の北崎に住みたくない理由

4-3-4 居住形態の希望

アンケート項目質問12「北崎で住んでみたい家のタイプは次の項目の内どれですか」に対する回答を表4-13、図4-13に示す。

回答者数は385人である。

調査の結果

調査の結果、149人(38.9%)が「アパートで1人暮らしを希望」し、次いで「一戸建てに複数人」が122人(31.6%)、「一戸建てに1人暮らし」が91人(23.3%)となった。

その他の回答をした学生は27人おり、内訳としては「下宿、地域の人の家に間借りしたい」が9人、「1人暮らしならなんでも良い」が7人、「安さを優先する、特に希望がない」が5人、他に各1人ずつ「外国人と複数人で住みたい」「セキュリティが心配」「数人でホームステイしたい」が含まれる。

表4-13 質問12に対する回答

	一戸建てで1人暮らし	一戸建てに複数人	アパート一室で1人暮らし	その他
人数(人)	90	122	150	24
割合(%)	23.3%	31.6%	38.9%	6.2%

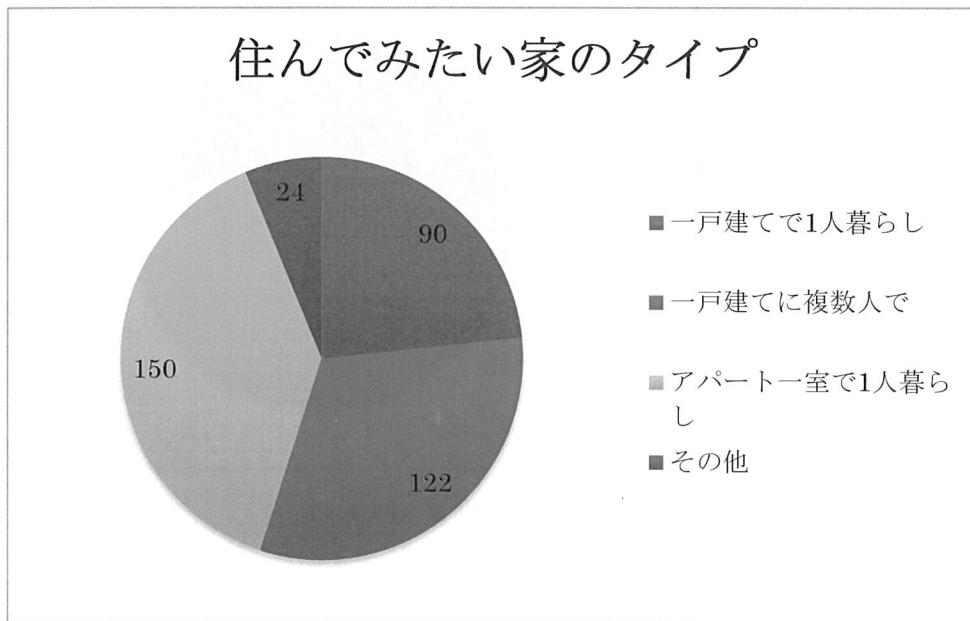


図4-13 質問12に対する回答

4-3-5 糸島市が行うサービスがあった場合の居住可能性

アンケート項目質問13「北崎に糸島市のような移住補助サービスがあるとしたら、居住可能性は上がりりますか」に対する回答を表4-14、図4-14に示す。

回答者数は質問11で「住みたくない」と答えた345人である

調査の結果、現在の北崎に住みたくないと回答した345人の内、129人（37.4%）糸島市のような移住補助サービスがあれば住みたくなると回答し、226人（65.5%）が変わらないと回答した。

回

表4-14 質問13に対する回答

	住みたい	住みたくない(変わらない)
人数(人)	129	226
割合(%)	37.4%	65.5%

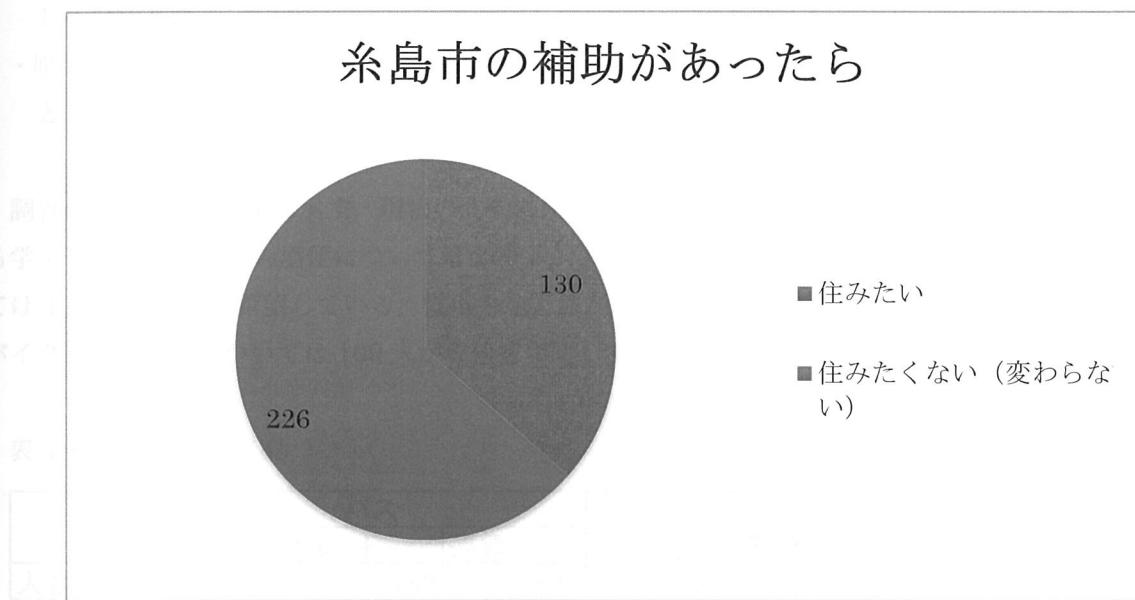


図4-14 質問13に対する回答

4-3-6 北崎に住む上で課題となる事項に対する改善案

アンケート項目質問 14 「質問 11 で住みたくないと思った理由のそれぞれについて、どのような条件に改善されると住みたくなりますか」に対する回答を示す。

(a)交通について

回答者は質問 11 で交通の便を理由に挙げた 276 名である。

回答方法は自由形式であったため、以下の分類をした。

- ・バスについて述べている回答は、バスの増便や終バスの時間の延長、バスの頻度について述べているものは「バスの増便」として、北崎から九大伊都キャンパスまでバスが通ることや北崎から姪浜までのバスが通ることについて述べている回答は「バスのルート」として、バスの運賃の減額について述べているものは「バスの運賃」として分類した。
- ・電車又は地下鉄を北崎まで通す、あるいは北崎に駅をつくるといった回答は「電車、地下鉄」として分類した。
- ・原付や車の支給又は購入補助、カーシェアリングについて述べている回答は「車、バイクの補助」として分類した。

調査の結果を表 4-15 に示す。現状の北崎に住みたくない学生 345 名のうち交通に課題を感じている学生 276 名で、バスの増便については 249 人、バスのルートについては 183 人、バスの運賃に関しては 107 人が改善を希望している。電車や地下鉄が北崎に通ることは 20 人が改善を希望している。バイクや車の補助については 109 人が改善を希望している。

表 4-15 交通の改善案

人数(人)	バス			電車	バイク
	増便	ルート	運賃	地下鉄	車の補助
276	249	183	107	20	109

(b)買い物の便について

回答者は質問 11 で買い物の便（スーパー、コンビニ）を理由に挙げた 175 名である。

回答方法は自由形式であったため、以下の分類をした。

- ・地場産品を買いたいという理由を述べている場合、「地場産品」に分類して、1 票と数えた。
- ・交通の便の解消で買い物の便も解消されるといった理由を述べている場合、「移動手段」に分類し、1 票と数えた。
- ・スーパー、コンビニについては、開店時間、品揃え、安さの何を求めているかを聞き、現在北崎に存在する「漁協ストア」や「ヤマザキショップ」でも良い場合はそれぞれ「現在の店の開店時間の改善」「現在の店の品揃えの改善」「現在の店の安さの改善」と分類した。また新規にスーパーを建設して欲しいといった理由や、コンビニの新規建設についてはそれぞれ「スーパーの新規建設」「コンビニ」に分類した。

(d) そ

調査の結果を表 4-16 に示す。現在の北崎に住みたくない学生の内買い物の便を理由に挙げた 175人の学生で、35 人が地場産品を購入したいという希望を回答した。20 人は移動手段が改善されることで買い物の便も解消されると回答した。また現在の店の「開店時間」の改善には 106 人、「品揃え」には 60 人、「安さ」には 39 人が回答した。また新規にスーパーの建設希望したのは 8 人、新規にコンビニの設置を希望したのは 12 人だった。

・ 買い物

表 4-16 買い物の改善案

	地場産品	移動手段	現在の店の改善			スーパーの 新規建設	コンビニ
			開店時間	品揃え	安さ		
人数(人)	35	20	106	60	39	8	12

(c) 周りの友人、知人の存在

回答者は質問 11 で「近くの友人、知人の存在」を理由に挙げた 58 名である。

回答方法は自由形式であったため、以下の分類をした。

- ・近くに友人が居て欲しいなど北崎内の同年代の増加に関する回答は「北崎内の同年代の増加」に分類し、1 票として数えた。
- ・移動手段の改善で友人、知人の存在の課題が解消されるという回答は「交通手段の改善」として分類した。

調査の結果を表 4-17 に示す。現在の北崎に住みたくない学生の内買い物の便を理由に挙げた 58 人の学生のうち、53 人が北崎内に住む同年代の増加を希望するという回答をした。また、3 人が交通手段の改善によって課題が解消されると回答した。

表 4-17 周りの友人、知人の存在の改善案

	北崎内に住む同 年代の増加	交通手段の改善
人数(人)	53	3

(d) その他の改善案

上記(a)~(c)以外で回答された課題の改善案を表 4-18 に示す。

- ・ 娯楽施設に関しては、近くに新設を希望する学生が 4 人、交通が改善されることで解消する学生が 8 人だった。
- ・ 地元の関わりに関しては、事前にどのような住民がいるかを確認したいという回答が 5 人だった。
- ・ 医療に関しては、新たに医療施設の新設を希望する学生が 1 人、交通が解消されることで課題も解消されるという回答が 2 人、緊急時のマニュアル冊子の作成という回答が 1 人だった。
- ・ 飲食店に関しては、新たに新設して欲しいという回答が 3 人だった。
- ・ 虫、動物に関しては、現状で妥協するという回答が 1 人、事前クリーニングを希望する学生が 1 人だった。
- ・ 家の状態に関しては、すぐに住める家が準備されていることを希望する学生が 1 人だった。
- ・ 暗い事に関しては、街灯の設置を希望する学生が 1 人だった。
- ・ バイトについては、北崎内でバイト先をつくるという回答が 1 人だった。
- ・ 知名度について、知名度の向上を希望する学生が 1 人だった。

表 4-18 その他の改善案

娯楽施設		地元との関わり		医療			飲食店		虫、動物	
近くに新設	交通解消	事前の確認	新設	交通解消	緊急時の冊子作り	新設	妥協	クリーニング		
4	8	5	1	2	1	3	1	1		
家の状態 すぐに入れる家 がある	暗い 街灯の設置	バイト 近くにバイト先が ある	知名度 知名度の向上							
1	1	1	1							

4-3-7 課題が改善された場合の北崎の居住可能性

アンケート項目質問 15 「質問 14 で条件が改善された場合、住みたくなりましたか」に対する回答を表 4-19、図 4-15 に示す。

回答者数は質問 11 で「住みたくない」と答えた 345 人である

スケール

調査の結果、現在の北崎に住みたくない学生 345 人中 218 人 (63.2%) が「条件が改善されたら住みたい」と回答した。また 127 人 (36.8%) が「条件が改善されても住みたくない」と回答した。

・利便性

表 4-19 質問 15 に対する回答

	住みたい	住みたくない
人数(人)	218	127
割合(%)	63.2%	36.8%

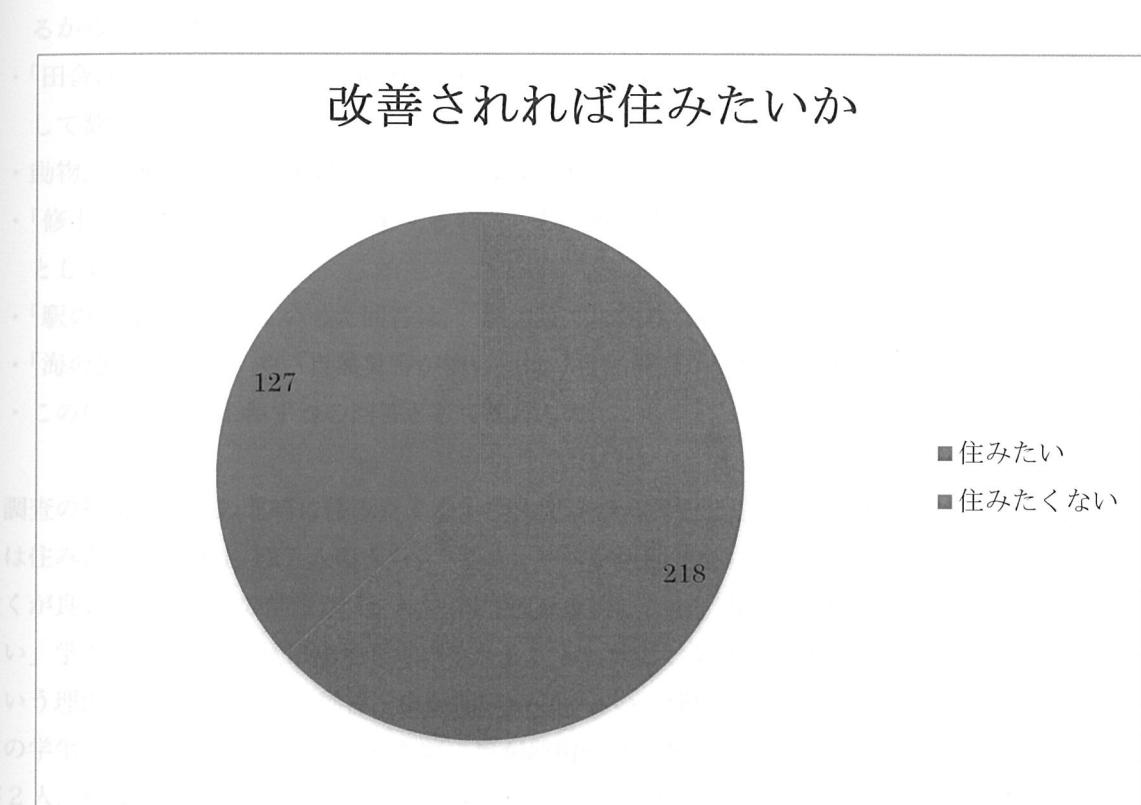


図 4-15 質問 15 に対する回答

表 4-19

回答内容	回答数	割合(%)
主に田舎	110	32.1%
都市の近郊	135	39.4%
利便性がいい	100	29.5%
基础设施整備	100	29.5%
環境がいい	100	29.5%
田舎っぽい	100	29.5%
動物、自然	100	29.5%

4-3-8 北崎に住みたくない理由

アンケート項目質問 16 「住みたくない理由を教えて下さい。」に対する回答を表 4-20 に示す。

回答者数は質問 15 で「住みたくない」と答えた 127 人である

回答方法は自由形式であったため、以下の分類をした。

- ・回答者自身が所属する学部のキャンパスが伊都ではないことを理由に上げている場合、「キャンパスが伊都でない」に分類し、1 票として数えた。
- ・博多、天神エリアに住みたい又はすぐに行きたいという回答の場合、「都市の近くが良い」に分類し、1 票として数えた。
- ・利便性が良い所に住みたいといった理由の場合は、「利便性を重視したい」に分類し、1 票として数えた。
- ・「通学に時間をかけたくない」や「学校まで近い場所がいい」という理由の場合、「学校近くが良い」に分類し、1 票として数えた。
- ・「現在の生活を変えたくない」や「現状に満足している」という理由の場合、「現状に満足しているから」に分類し、1 票として数えた。
- ・「田舎は暗い」や「都市部が明るいから」という理由の場合、「田舎は暗いから」に分類し、1 票として数えた。
- ・動物、虫が怖いからに関しては、そのまま「動物、虫が怖いから」に分類した。
- ・「修士 2 年生だから」や「卒業するので」といった理由の場合、「卒業するから」に分類し、1 票として数えた。
- ・「駅の近くが良い」といった回答は、「駅の近くに住みたい」に分類し、1 票として数えた。
- ・「海の近くが怖い」や「自然災害が怖い」は「自然災害が怖い」に分類し、1 票として数えた。
- ・この他の回答は 1 件ずつの回答として処理した。

調査の結果、現状の北崎に住みたくない学生で、かつ課題と思われる条件が解消したとしても北崎には住みたくない学生 127 人のうち、「キャンパスが伊都でない」事が理由の学生は 70 人、「都市の近くが良い」事が理由の学生が 18 人、「利便性を重視したい」事が理由の学生が 9 人、「学校の近くが良い」学生が 7 人、「現状に満足しているから」ということが理由の学生が 7 人、「田舎は暗いから」という理由の学生が 5 人、「動物、虫が怖いから」という理由の学生が 5 人、「もう卒業する」事が理由の学生が 5 人、「駅の近くに住みたい」事が理由の学生が 4 人、「自然災害が怖い」事が理由の学生が 2 人、その他「すぐ友達の所に行けない」「娯楽施設がない」「ドミトリーに居なければならない」「近所付き合いが面倒」「他にいいところがありそう」という理由が各 1 人いた。

表 4-20 質問 16 に対する回答

回答内容	回答数(人)		
キャンパスが伊都でない	70	卒業するから	5
都市の近くが良い	18	駅の近くに住みたい	4
利便性を重視したい	9	自然災害が怖い	2
学校近くが良い	7	すぐ友達の所に行けない	1
現状に満足しているから	7	娯楽施設が無い	1
田舎は暗いから	5	ドミトリーに居なければならない	1
動物、虫が怖いから	5	近所付き合いが面倒	1
		他にいいところがありそう	1

第5章

5-1 現状の

5-1-1 企

表5-1

この集

る。

表5-2

断

こ

エク

帰社

う。

表5-

Pの

う。

えら

第5章

一次調査結果の分析

表5-

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280</p

第5章 一次調査結果の分析

5-1 現状の北崎に住みたい学生の傾向

5-1-1 性別による傾向

表5-1は質問1「性別」と質問11「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計したものである。この集計結果から χ^2 二乗検定を用いて性別が「住みたい」回答に影響しているかを検定する。

P=0.2542

表5-2は表5-1より各項目の期待値を算出したものである。期待値は次の式で計算される。

$$\text{期待値} = \frac{\text{列計} \times \text{行計}}{n}$$

ここで、帰無仮説「性別と住みたい回答は独立している」を立てる。

エクセル関数「CHITEST」により、カイ二乗分布確率Pを求める。

帰無仮説の棄却域を5%とした時、P<0.05ならば帰無仮説は棄却される。

学部

表5-1、表5-2よりカイ二乗分布確率Pを求めると、

P=0.1811 (>0.05)

よって帰無仮説は棄却されず、性別と現在の北崎に住みたいかの間には統計上有意差があるとは言えない。

表5-1 質問1と質問11におけるクロス集計の結果

	住みたい	住みたくない	計
男	32	241	273
女	8	104	112
計	40	345	385

表5-2 質問1と質問11におけるクロス集計の期待値

	住みたい	住みたくない
男	28.36	244.64
女	11.64	100.36

5-1-2 学年による傾向

表5-3は質問2「学年」と質問11「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計したものである。

表5-3は実測値、表5-4は期待値をそれぞれ表している。

計した。

計算の結果、

$$P=0.2542 (>0.05)$$

計算の結果

よって帰無仮説は棄却されず、学年と現在の北崎に住みたいかの間には統計上優位差があるとは言えない。

よって帰無

表5-3 質問2と質問11におけるクロス集計の結果

	住みたい	住みたくない	計
学部1年	19	191	210
学部2年	9	75	84
学部3年	5	36	41
学部4年	2	15	17
修士1年	2	12	14
修士2年	1	14	15
その他	2	2	4
計	40	345	385

表5-4 質問2と質問11におけるクロス集計の期待値

学年	住みたい	住みたくない
学部1年	21.82	188.18
学部2年	8.73	75.27
学部3年	4.26	36.74
学部4年	1.77	15.23
修士1年	1.45	12.55
修士2年	1.56	13.44
その他	0.42	3.58

5-1-3 主要キャンパスによる傾向

5-1-1 と同様に質問3「所属学部、学府」と質問11「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

表5-5は実測値、表5-6は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.294(>0.05)$$

よって帰無仮説は棄却されず、通うキャンパスと「現在の北崎に住みたい」回答の間には統計上有意差があるとは言えない。

表5-5 質問3と質問11のクロス集計結果

主要キャンパス別居住意識	住みたい	住みたくない	計
伊都	25	185	210
箱崎	13	115	128
馬出	1	31	32
大橋	1	13	14
計	40	344	384

表5-6 質問3と質問11のクロス集計の期待値

主要キャンパス別居住意識	住みたい	住みたくない
伊都	21.875	188.1
箱崎	13.333	114.7
馬出	3.3333	28.67
大橋	1.4583	12.54

5-1-4 アウトドア派かインドア派かによる傾向

5-1-1 と同様に質問4「アウトドア派かインドア派か」と質問11「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

表5-7は実測値、表5-8は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.0146(<0.05)$$

よって帰無仮説は棄却され、アウトドア派かインドア派かと「現在の北崎に住みたい」回答の間に統計上相関がある。

表5-7：質問4と質問11のクロス集計結果

自然	住みたい	住みたくない	計
アウトドア派	26	154	180
インドア派	14	191	205
計	40	345	385

表5-8：質問4と質問11のクロス集計の期待値

	住みたい	住みたくない
アウトドア派	18.7	161.3
インドア派	21.3	183.7

5-1-5 自然環境が豊かなところで住む事への興味による傾向

5-1-1 と同様に質問5「自然環境が豊かなところで住む事への興味」と質問11「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

表5-9は実測値、表5-10は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.0646(>0.05)$$

よって帰無仮説は棄却されず、自然環境が豊かなところで住む事への興味と「現在の北崎に住みたい」回答の間には統計上有意差があるとは言えない。

表5-9：質問5と質問11のクロス集計結果

自然	住みたい	住みたくない	計
興味ある	22	139	161
どちらかというと興味ある	13	131	144
どちらかというと興味ない	2	62	64
興味ない	3	12	15
計	40	344	384

表5-10：質問5と質問11のクロス集計の期待値

自然	住みたい	住みたくない
興味ある	16.77	144.2
どちらかというと興味ある	15	129
どちらかというと興味ない	6.667	57.33
興味ない	1.563	13.44

5-1-6 地域活動への参加に対する興味による傾向

5-1-1 と同様に質問 6 「地域活動への参加に対する興味」と質問 11 「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

表 5-11 は実測値、表 5-12 は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.0207(<0.05)$$

よって帰無仮説は棄却され、地域活動への参加に対する興味と「現在の北崎に住みたい」回答の間には統計上有意差があると言える。

表 5-11：質問 6 と質問 11 のクロス集計結果

地域行事	住み たい	住みた くない	計
興味ある	20	91	111
どちらかというと興味ある	9	116	125
どちらかというと興味ない	7	85	92
興味ない	4	53	57
計	40	345	385

表 5-12：質問 6 と質問 11 のクロス集計期待値

地域行事	住みたい	住みたく ない
興味ある	11.532	99.47
どちらかというと興味ある	12.987	112
どちらかというと興味ない	9.5584	82.44
興味ない	5.9221	51.08

5-1-7 住むエリアを選ぶ際に考慮する項目による傾向

5-1-1 と同様に質問 7「住むエリアを選ぶ際に考慮する 3 つの項目」と質問 11「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

表 5-13 は実測値、表 5-14 は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.037(<0.05)$$

この結果より、住むエリアを選ぶ際に考慮する項目と「現在の北崎に住みたい」回答の間には統計上の有意差があると言える。

更に、質問 7 の各項目について残差分析を行う。

表 5-15 は、実測値と期待値との差（残差）を示したものである。

さらにこの残差から各項目の有意差を求めるために、調整残差を計算する
この計算は次の式で行われる。

$$\text{調整残差} = \frac{\text{実測値} - \text{期待値}}{\sqrt{\text{期待値} \times \left(1 - \frac{\text{実測値}}{\text{期待値}}\right) \times \left(1 - \frac{\text{期待値}}{\text{実測値}}\right)}}$$

求められた調整残差を表 5-16 および図 5-1 に示す。

「各項目と住みたい回答に関連性がない」という帰無仮説を立てると、調整残差の絶対値が 1.96 を上回った時、5% の棄却域に達する。

この結果より、住むエリアに自然環境が豊かという条件または買い物の利便性を希望する人は北崎に「住みたい」回答と相関があり、前者は「住みたい」に肯定的な関連性が、後者には否定的な関連性がある。なお、「農地の有無」の項目に関しては、回答者が 1 名だったため関連性があるとは考えない。

表5-13：質問7と質問11のクロス集計結果

	住みたい	住みたくない	計
自然災害	1	10	11
自然環境	9	35	44
静けさ	10	46	56
農地	1	0	1
食べ物	1	9	10
治安	13	84	97
近所付き合い	3	8	11
歴史・伝統	0	0	0
学校までの距離	18	193	211
公共交通	23	226	249
買い物	10	170	180
家賃	18	130	148
親の意向	4	24	28
娯楽施設	1	18	19
都心部	3	44	47
医療施設	1	10	11
美味しいお店	1	3	4
友人	2	15	17
その他	1	9	10
計	120	1034	1154

表5-14：質問7と質問11のクロス集計の期待値

	住みたい	住みたくない
自然災害	1.14	9.86
自然環境	4.58	39.42
静けさ	5.82	50.18
農地	0.10	0.90
食べ物	1.04	8.96
治安	10.09	86.91
近所付き合い	1.14	9.86
歴史・伝統	-	-
学校	21.94	189.06
公共交通	25.89	223.11
買い物	18.72	161.28
家賃	15.39	132.61
親の意向	2.91	25.09
娯楽施設	1.98	17.02
都心部	4.89	42.11
医療施設	1.14	9.86
美味しいお店	0.42	3.58
友人	1.77	15.23
その他	1.04	8.96

都心部

医療施設

美味しいお店

友人

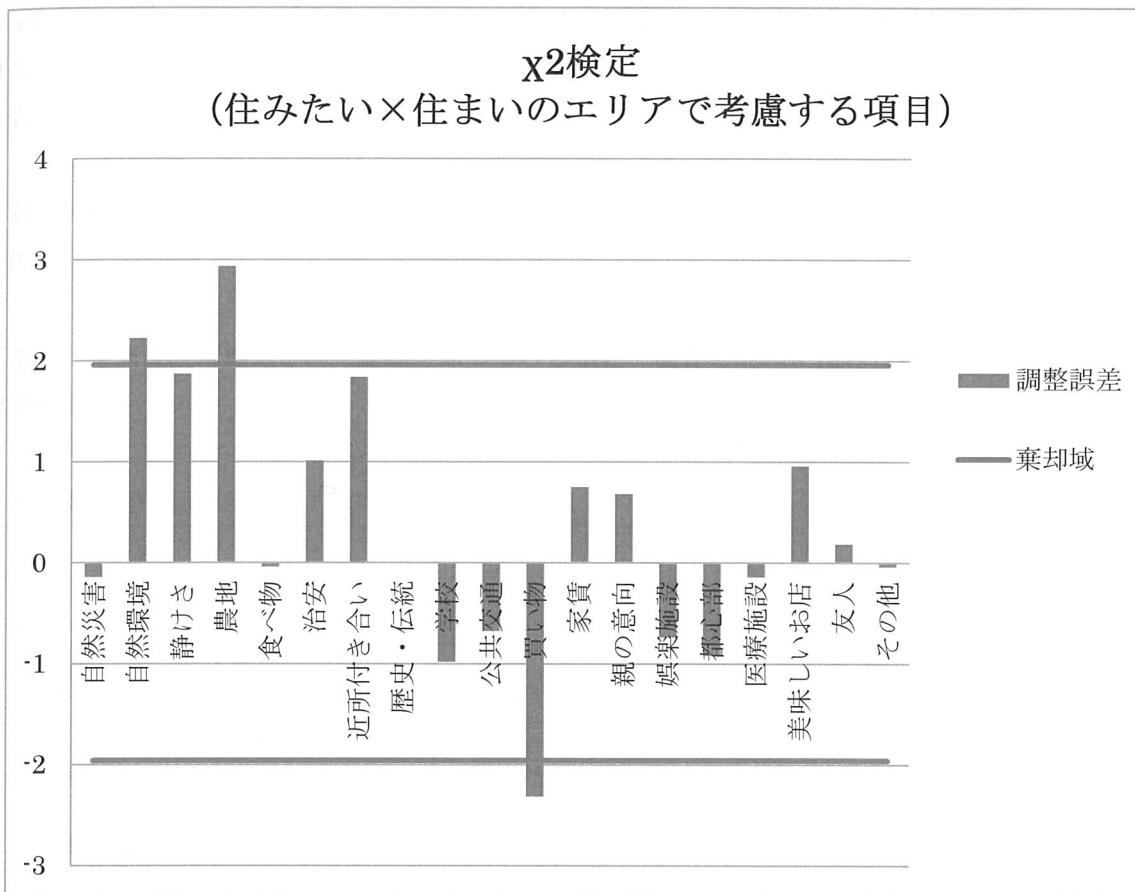
表 5-15：質問 7 のクロス集計の残差

自然災害	-0.1 4	0.14
自然環境	4.42	-4.42
静けさ	4.18	-4.18
農地	0.90	-0.90
食べ物	-0.0 4	0.04
治安	2.91	-2.91
近所付き合い	1.86	-1.86
歴史・伝統		
学校	-3.9 4	3.94
公共交通	-2.8 9	2.89
買い物	-8.7 2	8.72
家賃	2.61	-2.61
親の意向	1.09	-1.09
娯楽施設	-0.9 8	0.98
都心部	-1.8 9	1.89
医療施設	-0.1 4	0.14
美味しいお店	0.58	-0.58
友人	0.23	-0.23

表 5-16：質問 7 のクロス集計の調整残差

自然災害	-0.14	0.143
自然環境	2.228	-2.23
静けさ	1.875	-1.87
農地	2.937	-2.94
食べ物	-0.04	0.041
治安	1.013	-1.01
近所付き合い	1.842	-1.84
歴史・伝統	-	-
学校	-0.98	0.983
公共交通	-0.68	0.678
買い物	-2.32	2.317
家賃	0.753	-0.75
親の意向	0.682	-0.68
娯楽施設	-0.74	0.739
都心部	-0.92	0.921
医療施設	-0.14	0.143
美味しいお店	0.958	-0.96
友人	0.186	-0.19
その他	-0.04	0.041

図 5-1 「住みたい」回答に影響を与える各項目の調整残差



5-1-8 北崎を知っているか知らないかによる傾向

5-1-1 と同様に質問 10 「北崎を知っていますか」と質問 11 「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

表 5-17 は実測値、表 5-18 は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.021(<0.05)$$

よって帰無仮説は棄却され、北崎を知っている事と「現在の北崎に住みたい」回答の間には統計上相関があると言える。

表 5-17：質問 10 と質問 11 のクロス集計結果

	知っている	知らない	計
住みたい	7	33	40
住みたくない	24	320	344
計	31	353	384

表 5-18：質問 10 と質問 11 のクロス集計の期待値

	知っている	知らない
住みたい	3.23	36.77
住みたくない	27.77	316.23

5-1-9 北崎の何に魅力を感じるかによる傾向

5-1-1 と同様に質問 11 の自由回答「なぜ北崎に魅力を感じたのか」と質問 11 「現在の北崎に住みたいか」の回答をクロス集計した。

自由回答はコーディングし、「地域とのかかわり」、「海、山などの自然環境」、「静か、ゆったりしている」、「DIY、家庭菜園」、「アウトドア、マリンスポーツ」、「経験、成長」、「シェアハウス」、「家賃」、「食べ物」に分類した。

表 5-19 は実測値、表 5-20 は期待値をそれぞれ表している。

計算の結果、

$$P=0.947(>0.05)$$

よって帰無仮説は棄却されず、北崎を知っている事と「現在の北崎に住みたい」回答の間には統計上相関があるとは言えない。

表 5-19 質問 11 の自由回答と質問 11 「住みたい」回答のクロス集計結果

	地域 かかわり つながり	海、山、環境	静か ゆっ	DIY 家庭菜園	アウトドア	経験 成長	シェアハウ	家賃	食べ物	計
住みたい	15	25	6	6	1	10	1	6	1	71
住みたくない	104	219	34	35	18	65	13	49	11	548
計	119	244	40	41	19	75	14	55	12	619

表 5-20 質問 11 の自由回答と質問 11 「住みたい」回答のクロス集計の期待値

	地域 かかわり つながり	海、山、環境	静か ゆっ	DIY 家庭菜園	アウトドア	経験 成長	シェアハウ	家賃	食べ物
住みたい	13.65	27.99	4.59	4.70	2.18	8.60	1.61	6.31	1.38
住みたくない	105.35	216.01	35.41	36.30	16.82	66.40	12.39	48.69	10.62

5-2 現在の北崎に住みたい学生の北崎への期待

表 5-21 は質問 11において現在の北崎に「住みたい」と回答した学生を伊都キャンパスへの通学期間で分類し、住みたい理由を抽出したものである。

回答者の伊都キャンパスへの通学期間での分類は、以下の通りで行った。

- ・伊都に通い続ける学生 → 回答者が現時点で工学部、理学部、工学府、地球社会統合化学府、理学府、システム生命科学府、システム情報科学府に所属している全学年を対象とした。
- ・途中まで伊都に通う学生 → 回答者の内、学部 1 年または学部 2 年で、文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、農学部、芸術工学部に所属している学生を対象とした。
- ・伊都には通わない学生 → 上記 2 分類以外の学生を対象とした。

この結果から、現在の北崎に住みたい学生が北崎に期待している事を把握する。

1. 自然について

自然については 3 パターンの回答を得られた。1 つが「自然が多い」「海に近い」など、北崎の自然の存在を評価している回答である。次に「自然が好き」「海が好き」など回答者の自然への好感を表した回答である。最後に「釣りをしてみたい」「海や山で遊べる」など、北崎の自然を使った活動ができる事を評価している回答である。

これらの結果から、「住みたい」と回答した学生は北崎の自然環境とそこで活動を行うことができる点を評価している。

2. 経験・活動について

経験・活動については、3 パターンの回答が得られた。1 つが「DIY ができる（したい）」「家庭菜園ができる」「農業をやりたい」「塾をすることができる」「面白い経験がいろいろできそう」「都市に近い田舎なので無理のない田舎くらしができる」などの意見である。この意見から回答者は学研都市エリアや周船寺エリアではできない経験について評価していると考えられる。

次に「これまでと全く違う生活をおくれそう」「自分でできることが増えそう」「地域といろいろな経験を通して、自分により良い影響を与えてくれそう」という、自分自身への変化の期待を表した回答である。最後に「就職したら田舎に住めなくなりそう」「色々な経験を積んで社会に出れそう」「学生だから経験できそう」という学生としての経験への期待を表した回答である。

これらの結果から、「住みたい」と回答した学生は、都市部では経験できない活動や田舎くらしができるという点で北崎を評価している。

7. まとめ

3. 地域との交流について

地域との交流については、回答者から「地域との交流がある」「現在近所付き合いがない」「交流があるから寂しくない」といった回答が得られた。

これらの結果から、「住みたい」と回答した学生は、北崎の地域交流が活発な点を評価している。

4. 北崎の雰囲気

北崎の雰囲気については、「田舎が落ち着く」「のんびりしている」「落ち着いた雰囲気」といった回答のように北崎の“のどかさ”を評価している回答と、「暮らししが楽しそう」「北崎ならではのできることが多いそう」の回答のように北崎の暮らしに楽しさや期待感を感じている回答が得られた。

5. その他

「食べ物が美味しい」という北崎の生産地の性質を評価している回答が得られた。

「買い物ができる」「生活もある程度困らない」という北崎内での消費行動が可能である点を評価している回答があった。一方で「地域のものを買うことができる」という意見が見られたが、現在の北崎では恵比寿牡蠣やひものなどの一部を除き地場産品の購入は難しい状態であるため、これは回答者の理想的回答されている。

「シェアハウスが面白そう」「リノベ物件に興味がある」「1人暮らしは寂しいから」「家賃が安い」等の現在の北崎シェアハウスへの評価を表す回答が得られた。

立地に関する回答としては、「今津運動公園が近い」という回答の様に回答者が使用する施設に近いという点を評価している回答と、「都心から離れていること」という回答者の“まち”に対する嗜好性から北崎を評価している回答が得られた。

また「インドア派なので外の活動に憧れる」という回答の様に自身の憧れから北崎を評価している回答も得た。

6. 要望等

「住みたい」と回答をした40名の中でも、交通に関してはいくつか改善の希望を表す回答を得た。具体的には「交通の便が解消されるとより良い」「バスは1時間に1本欲しい」「車があればより良い」「バスがあればいいが、自転車でも妥協できる」のように交通の改善でより良くなるという回答である。

一方で、「足があるので立地は気にならない」「自転車に慣れているので買い物は苦にならない」など自身の交通手段で課題を感じないという回答も得た。

7.まとめ

以上の考察から、現在の北崎に住みたい学生が北崎に期待している項目には以下の項目があることが明らかになった。

- ・北崎の自然環境、およびその自然環境を使った活動ができる点
- ・都市部では経験できない活動や田舎暮らしができるという点
- ・北崎の地域交流が活発な点
- ・北崎の暮らしに楽しさ期待感を感じている点
- ・北崎が食の生産地であるという点
- ・北崎内でも消費行動が可能である点
- ・北崎シェアハウスへの期待
- ・使用する施設に近い点
- ・回答者のまちに対する嗜好性
- ・活動に対する自身の憧れ

また現在の北崎に住みたい学生が現在の北崎には無いが想像で期待している点としては以下の項目の存在が明らかになった。

- ・北崎の地場産品を購入できる点

また現在の北崎に住みたい学生が北崎に改善を期待するものとしては以下の項目の存在が明らかになった。

- ・交通の改善

表 5-21 現在の北崎に住みたい理由に対する回答（伊都キャンパスへの通学期間別）

	伊都に通い続ける学生	途中まで伊都に通う学生	伊都には通わない学生
自然	自然が多い 海に近い 自然を満喫できる	自然が多い 自然が好き 海が好き	自然が多い 海に近い
	自然への愛着		
	自然が好き 海沿いが良い 海が好き		
	釣りをしてみたい		
	自然を活かした遊び・活動	海や山で遊べる	
経験・活動	DIYができる DIYをしてみたい 家庭菜園ができる 今まで都市に住んでいたので田舎暮ら しをしてみたい テレビで田舎の様子などをみて、1回住 んでみたい 塾をすることができる 普通ではできない経験ができる 面白い経験がいろいろできそう 自分なりの生活スタイルを作りたい	家庭菜園や農業に興味がある 農業をやりたい 生活をアレンジできる	DIY等をサポートしてくれる環境がある 都市に近い田舎なので無理のない田舎 くらしが出来そう 生活をアレンジできる
	自身への変化の期待	これまでと全く違う生活をおくれそう	自分でできることが増えそう 地域と色々な経験を通して、自分により 良い影響を与えてくれそう
	学生としての経験	就職したら田舎に住めなくなりそう 学生だから経験できそう	色々な経験を積んで社会に出れそう
地域との交流	地域との交流がある 地域との交流が楽しそう 現在近所付き合いが少ないから 地域の活力がある 交流があるから寂しくない	地域との交流がある 人とつながり	地域との交流がある 学生と地域の接する環境
北崎の雰囲気	田舎が落ち着く 暮らしが楽しそう 歴史がある のんびりしている (出身が田舎で)なじみがある	北崎ならではのできことが多そう 落ち着いた雰囲気 のんびりしている	
その他	食に関して 消費行動に関して 居住等に関して 立地と周辺施設等に関して その他	食べ物が美味しい 生活もある程度困らない 1人暮らしは寂しいから 家賃が安い 都心から離れていること インドア派なので外の活動に憧れる	地域のものを買うことができる 家賃が安い 交通の便が改善されるとより良い バスは1時間に1本欲しい
要望等	車があればより良い 交通の便が改善されるとより良い バスがあればいいが、自転車でも妥協 できる 足があるので立地は気にならない	交通の便が改善されるとより良い 箱崎までの交通は課題だが、バイク等 の支給等あれば良い 自転車に慣れているので買い物は苦に ならない	

N=40

5-3 現在の北崎に住みたくない学生が持つ課題と改善案

表5-22は、質問14「質問11で住みたくないと思った理由のそれぞれについて、どのような条件に改善されると住みたくなりますか」の回答を、回答者の伊都キャンパスへの通学期間で分類し比較したものである。回答者は質問11「あなたは今の北崎地区に住んでみたいと思いますか」において「住みたくない」と回答した345人である。

回答者の伊都キャンパスへの通学期間での分類は、以下の通りで行った。

- ・伊都に通い続ける学生 → 回答者が現時点で工学部、理学部、工学府、地球社会統合化学府、理学府、システム生命科学府、システム情報科学府に所属している全学年を対象とした。
- ・途中まで伊都に通う学生 → 回答者の内、学部1年または学部2年で、文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、農学部、芸術工学部に所属している学生を対象とした。
- ・伊都には通わない学生 → 上記2分類以外の学生を対象とした。

5-3-1 交通の改善

北崎に住みたくない理由として交通を挙げているのは、345人中276名である。

1. バスについて

運行ルートについては、昭和バス九大線の運行ルートに北崎を追加する案が多く見られた。また、都心部までのアクセスの利便性の向上を目的とする北崎-姪浜間または北崎-天神(博多)間の運行ルートの追加という回答も得られた。分類「途中まで伊都に通う学生」の中には箱崎までのアクセスの改善を求める回答が存在した。

バスの本数については、現在の昭和バス西の浦線の頻度（およそ1時間間に1本）よりも多くして欲しいという回答が多く見られた。特に3分類共通で見られたものとして「終電後にもバスが有る」という回答である。平成28年2月現在の昭和バス西の浦線の終バス発車時刻（九大学研都市駅）は、平日21:32、休日20:02である。天神・博多方面からくるJRの終電到着時刻（九大学研都市）は、平日、休日ともに0:36である。このため、0:36以降でも北崎方面に向かうバスに乗車できることが改善案として多く回答されている。その他の回答としては、授業に合わせてバスが有る、朝と夕方に増便して欲しいなどが挙げられる。

バスの運賃に関しては、3分類全てにおいて値下げの回答が見られた。具体的には、北崎-九大間を100円～500円の運賃にしてほしいという回答が見受けられた。また、北崎-天神間にバスが通ったとして、その間の運賃を500円にしてほしいという回答があった。途中まで伊都に通う学生の中には、バスの運賃を無料にして欲しいという回答も受けた。

他の回答として、伊都に通い続ける学生からは「飲んだ後にも（北崎に）帰ることができる」「北崎-九大間のシャトルバスがある」「北崎に住んだら、伊都キャンパス-学研都市間のバスが無料になる」、途中まで伊都に通う学生からは「乗車マナーの向上」「バスと電車の接続が良い」、伊都には通わない学生からは「西新まで無料の送迎バスがある」「（病院や郵便局を通る）コミュニティバスがある」と

いう回答が得られた。

2. バイク、車について

移動手段の貸出サービスについての回答が 3 分類すべてにおいて得られ、バイク、車、電動自転車（または自転車）、ロードサイクルの貸出サービスを希望する回答があった。貸出の値段についてもいくつか言及が見られ、バイクや電動自転車は月 1000 円、車は月 10000 円という回答があった。

カーシェアリングのサービスを希望する回答についても 3 分類すべてで見受けられた。値段についての言及は月 2000-4000 円の範囲で回答があった。

その他の回答として、伊都に通い続ける学生からは「車を持っていない人へのサポート」、途中まで伊都に通う学生については「いつもはバイクで通い、雨の日はバス通いが良い」、伊都には通わない学生からは「都市高に安く乗れる（定期券がある）」、「15 分で学研都市に到着する」という回答が得られた。

3. 地下鉄、電車について

3 分類それぞれで北崎に駅をつくるという回答が得られた。また伊都に通い続ける学生からは「伊都キャンパスに駅をつくる」という回答も得られた。

4. その他の回答

伊都に通い続ける学生からは「道の数を増やす」、途中まで伊都に通う学生からは「道路の拡幅」「通学費の補助」、伊都には通わない学生からは「都市部へのアクセスが良くなる」という回答がそれぞれ得られた。また、途中まで伊都に通う学生と伊都には通わない学生からは「馬出には行けない」や「たとえ車があっても大橋までは遠い」という回答が得られた。

5-3-2 買い物の改善

北崎に住みたくない理由として買い物の便を挙げているのは、345 人中 175 名である。

175 名のうち、スーパーを課題に挙げているのは 149 名、コンビニを課題にあげているのは 26 名である。

1. 交通の改善

現在の北崎に住みたくない理由に買い物の便を挙げている学生の中に、交通の便が改善されることで買い物の便は改善されると答えた学生が 3 分類すべてで見受けられた。

2. スーパーについて

スーパーについては、「家からの距離」「開店時間」「品揃え」の現在の北崎内の商店を改善することで対応できる回答と、現在の北崎内の商店を改善するだけでは対応できない「新規スーパーの建設」の回答があった。

家からの距離については、伊都に通い続ける学生及び途中まで伊都に通う学生から「歩いていくける距離にある」「自転車で 5-10 分の所にある」という回答が得られた。唐泊、西浦については漁協が

運営する購買店があり、二見ヶ浦には Market23 がある。日用品の買い物ができる場所に関しては自転車 10 分以内であれば現在北崎内にある商店で対応できると考えられる。

5 開店時間に関する回答として、3 分類すべてにおいて 21-25 時まで開店していることを希望する回答が見られた。また伊都に通い続ける学生と途中まで伊都に通う学生からは 24 時間営業していることを希望する回答が見られた。なお現在北崎内で買い物ができる場所の大半が 20 時以降は閉店している。

品揃えについては、3 分類すべてにおいて地場産品を買いたいという回答が得られた。また伊都に通い続ける学生からは「食料品が買えると良い」「マックスバリュー並の品揃えがある」、途中まで伊都に通う学生からは「シャンプーなど銘柄を選ぶことができる」、伊都には通わない学生からは「品揃えが良い店がある」という回答を得た。

その他の回答として、「イオンの様な大型ショッピングセンターを近くに建設する」「サニーの様な 24 時間営業のスーパーがある」「魚などを安く買いたい」という回答を得た。

活

スーパーに関して、北崎は市街化調整区域の為、新規店舗の建設は原則できない。しかし、伊都キャンパス周辺であれば開発ができる。仮に大学近くに新たなスーパーが建設されると、学生は学校帰りにスーパーに寄ることが容易になるのではないだろうか。

3. コンビニについて

コンビニについては、伊都に通い続ける学生からは「24 時間営業のコンビニをつくる」、途中まで伊都に通う学生からは「24 時間営業のコンビニをつくる」「夜にちょっと寄れるお店をつくる」、伊都に通わない学生からは「セブン-イレブンのようなコンビニが徒歩、自転車で行けるところにある」という回答が得られた。

現在、北崎内にはヤマザキショップ（寺田商店）がある、コンビニに近い品揃えがあるが営業時間が 20 時まで各種支払サービス等は取り扱っていない。

回答者がコンビニを求める理由には、夜中に買い物ができる事の他に各種支払サービスや ATM、荷物の受取ができる点にある。

4. その他

伊都に通い続ける学生からは「ドラッグストアがある」「本屋、CD ショップが近くにある」、途中まで伊都に通う学生からは「宅配サービスがある」の回答を得た。

5-3-3 近くに住んでいる友人の数

北崎に住みたくない理由として近くに友人や知人が居ないことを挙げているのは、345 人中 58 名である。

3 分類すべてにおいて、近くに友人や知人が居ないことを北崎に住みたくない理由として挙げられている。その改善案として、近くに 1-6 人の友人または同世代が居て欲しいという回答が得られた。

その他の回答としては、「学研都市くらいの学生がいれば」「交通が改善されると友人も（北崎に）

来やすい」「シェアハウスなら良い」「学生マンションがあれば良い」が挙げられる。

期

5-3-3 その他の改善

伊都に通い続ける学生からは、「飲食店をつくる」「みんなでご飯を作れる環境を作る」「新たに医療施設をつくる」「緊急時に病院に連れて行ってくれる人がいる」「田舎は治安が悪いイメージがあるので事前に地域を知る機会が欲しい」「近くに TSUTAYA が欲しい、バスに乗ってまで行きたくない」「家の改修が手間なのですが住める家が準備されている」「地域内でバイトができる」という回答を得た。

途中まで伊都に通う学生からは、「知名度を上げる」「物件の古さが気になる」「暗い所に街灯をつける」「虫が怖い」という回答を得た。

伊都には通わない学生からは「10-15 分で TSUTAYA に行ける」「災害時に孤立しない」「事前に地域を知る機会が欲しい」「緊急時に使用する病院等の情報がまとまった冊子をつくる」「自然環境を活かすことができれば良い」という回答を得た。

5-3-4 現在の北崎の居住可能性を上げるための改善案に関する考察

3 分類での課題改善案を比較したところ、それぞれの間に大きな違いは見られなかった。現在の北崎に住みたくないと答えた 345 人の学生は、交通、買い物、北崎に知人や友人が居ないこと等を課題としている。特に交通の改善は買い物や友人の課題の一部も解消されることがわかった。買い物に関しては、北崎は市街化調整区域であるという特徴から新規に商業施設等の建設は難しい。しかしこれから学生の居住が進めば、地場産品を販売する市などを学生が主体で地域とともに運営することで買い物の便を向上させることができることや、複数の九大生が住むことになれば「友人知人の存在」の課題も解消されていく。

表5-22 現在の北崎に住みたくない学生の回答から得られた課題改善案（伊都キャンパスへの通学期間別）

			伊都に通い続ける学生	途中まで伊都に通う学生	伊都には通わない学生
交通	バス	運行ルートの変更 または追加	北崎-伊都キャンバス-学研都市	北崎-伊都キャンバス-学研都市	北崎-伊都キャンバス-学研都市
			北崎-姪浜	北崎-姪浜一箱崎	北崎-天神(博多)
			北崎-天神(博多)	北崎-天神(博多)	
		バスの本数の増便	終電後にもバスがある	終電後にもバスがある	終電後にもバスがある
			授業に合わせてバスがある	増便	
		朝、夕の時間の増便			
		バスの運賃の値下げ	片道●円にしてほしい	片道●円にしてほしい	
				バスの運賃を無料にして欲しい	
		その他	飲んだ後に帰れる	乗車マナーの向上	西新まで無料の送迎バスがある
			北崎-九大間のシャトルバスがある	バスと電車の接続が良い	コミュニティバスがある(病院や郵便局などを通るもの)
			北崎に住んだら九大-学研都市間のバスが無料になる		
バイク、車	貸出	バイクの貸出	バイクの貸出	バイクの貸出	
		車の貸し出し	車の貸し出し	車の貸し出し	
		ロードサイクルや電動自転車の貸出	電動自転車の貸出	自転車の貸出	
		カーシェア	カーシェアができる	カーシェアができる	
	その他	車を持っていない人へのサポート	いつもはバイク通い、雨の日はバス通いがいい	都市高に安く乗れる(定期券がある)	
				15分で学研都市に到着する	
	地下鉄、電車	北崎に駅がある	北崎に駅がある	北崎に駅がある	
		学校付近に駅をつくる			
	その他	道の敷を増やす	道路の拡幅	都市部へのアクセスがよくなる	
			通学費の補助	たとえ車があっても大橋までは遠い	
			馬出にはに行かない		
買い物	交通の改善		交通が改善したら買いたい物も改善する(学研で済ませられる)	交通が改善したら買いたい物も改善する(学研で済ませられる)	交通が改善したら買いたい物も改善する(学研で済ませられる)
	スーパー	家からの距離	歩いて行ける距離にある	自転車で10分の所にある	
			自転車で5-10分の所にある		
	開店時間	21-25時まで開店している	23時まで開店している	23-24時まで開店	
		24時間営業	24時間営業		
	品揃え	地場産のものがある	地場産のものがある	地場産のものがある	
		食料品が買えると良い	シャンプーなど銘柄を選ぶ事ができる	品揃えが良い店がある	
		マックスバリュ並の品揃えがある			
	コンビニ	大型ショッピングセンターを近くにつくる	大型ショッピングセンターを近くにつくる	サニーのような24時間営業のスーパーがある	
			魚などを安く買いたい		
	その他	24時間営業のコンビニをつくる	24時間営業のコンビニをつくる	セブン-イレブンのようなコンビニが徒歩、自転車で行ける所にあ	
			夜にちょっと寄れるお店がある		
		ドラッグストアがある	宅配サービスがある		
近くの友人や知人の存在	本屋、CDショップが近くにある				
	近くに住んでいる友人の数		1-5人	2-6人	2-3人
	その他	学研都市くらいの学生がいれば			
		交通が改善されれば友人も来やすい	シェアハウスなら良い	学生マンションがあれば良い	
		シェアハウスなら良い			
その他	飲食店をつくる		知名度を上げる	10-15分でTSUTAYAに行く	
	みんなでご飯を作れる環境をつくる		物件の古さが気になる	自然災害時に孤立しない	
	新たに医療施設をつくる		暗い所に街灯をつける	事前に地域を知る機会が欲しい	
	緊急時に病院まで連れて行ってくれる人がいる		虫が怖い	緊急時に使用する病院等の情報がまとった冊子をつくる	
	田舎は治安が悪いイメージがあるので、事前に地域を知る機会が欲しい			自然環境を活かすことができれば良い	
	近くにTSUTAYAが欲しい、バスに乗ってまで行きたくない				
	家の改修が手間なので、すぐに住める家が準備されている				
	地域内でバイトができる				

5-4 小結

調査の結果、全九大生のうち 10%に現在の北崎への居住可能性があることが明らかになった。

5-1 から居住可能性のある学生には「アウトドア派である」、「地域活動への参加に対し興味がある」、「住むエリアを選ぶ際に自然環境の豊かさを重要視する」、「北崎を知っている」という傾向があることが明らかになった。

また 5-2 より、現在の北崎に住みたい学生が北崎への居住に期待をしていることが明らかになった。

さらに 5-3 において、現在の北崎に住みたくない学生の北崎の課題改善案をまとめることで、九大生の北崎への居住可能性を上げる為に必要な改善内容が明らかになった。

そして 5-4 では 5-3 で明らかになった回答者の考える課題とその改善案から 4 パターンのモデルを設定して、課題が解消されたら住みたいと回答した学生を分析した結果、短期的、長期的に実現可能な改善を施すことできさらに九大生の北崎への居住可能性を上げることができることが明らかになった。

本章では一次調査の結果を分析することで、現在の北崎での居住可能性を持つ学生の傾向と現在の北崎への居住可能性を上げる為に必要な改善を明らかにすることができた。

次章では、現在の北崎に居住可能性のある傾向を持つ九大生に対して検証を行う。

第6章

第4回

は以下の如

く、彼の

は、彼の

は、彼の

この作業

なれば、

調査す

る。

6-1)

1人目

学年

航空

は、彼

森が

仕事

居る

は、彼

なか

良い

う。

為

て、彼

際に

現

る。

彼

は、彼

か

起

と

第6章

二次調査結果

第6章 二次調査結果

第4章で得られた調査結果を第5章で分析することで、現状の北崎への居住可能性のある学生には以下の傾向があることが明らかになった。

- ・アウトドア派である
- ・地域活動への参加に対し興味がある
- ・住むエリアを選ぶ際に自然環境の豊かさを重要視する
- ・北崎を知っている

この傾向を検証するためにヒアリング調査を行った。

なおヒアリングした学生は、一次調査では回答していない21世紀プログラム所属の学生5名と一次調査で回答して頂いた学生3名である。

6-1 ヒアリング結果

1人目 A氏

学部3年生、21世紀プログラムに所属する女性である。彼女は広島の農村部出身である。

航空宇宙工学の専攻を希望しているため、今後も伊都に通う。

彼女の嗜好性を聞いたところ、アウトドア派で、自然環境が豊かな場所に住むことに興味があり、森が近い、河川が近い所に住みたいという回答を得た。

住む場所に求めるものは、普段活動する場所までの交通の便、家賃の安さ、治安の良さ（変な人が居ない）ことである。

彼女は入学後、初めにドミトリーハウスに住んでいた。ドミトリーハウスを選んだ理由としては、ネットで調べながら九大の先輩に寮の話を聞いていたからである。セトル伊都も候補だったが、「学校の近くの方が良いのではないか」という母親の意向でドミトリーハウスを選んだ。

その後先輩の口コミを聞き、箱崎キャンパス近くの名島の寮に転居したが、周辺の治安が悪かった為にすぐに再度家探しを行った。

そして現在居住している貝塚寮を選んだ。貝塚寮を選ぶ際には、九大のホームページを見た後で実際に貝塚寮に見学をしに行き、さらにネット（Twitter）で内部の様子等を探った。彼女は入学後から現在まで寮を優先的に希望しているが、その理由は人と交流できるからである。

彼女は北崎を知らないが、二見ヶ浦は知っている。

現在の北崎には「住んでみたい」と回答した。その理由は3つある。

1つ目は「空き家の改修がしたい」からである。彼女の夢に「空き家を改修して家族と暮らす事」があるからである。2つ目は「自然が多いから」である。山登りに興味があり、脊振山などを登る事が趣味である。3つ目は「多世代の交流ができる」事である。これまでの彼女の家探しの傾向から、「人との交流」を重視するからである。

これらの理由から彼女は現在の北崎に「住みたい」のだが、移動手段には不安を抱えている。

2人目 B氏

学部2年性、21世紀プログラムに所属する男性である。彼は京都出身である。

教育学の専攻を志望しているため、今後は箱崎キャンパスがメインになる。

彼は対馬で古民家改修を行った経験がある。対馬に1ヶ月住み、朝イカを5匹くらい釣って近所におすそ分けをする代わりに野菜をもらう、という生活の経験がある。

入学試験に合格して家を探す段階では、住むなら糸島が良いと決めていた。その理由は、学研都市に住むと人との交流が生まれなさそう、だから面白みが無いと感じたからである。

彼は田舎暮らしが好きで、現在「糸島空き家プロジェクト」が改修したシェアハウスに住んでいる。この物件は、家賃は安いことと糸島であるいう条件を元に探し当てた。その他にも友人の口コミや九大HPの寮の情報も閲覧した。現在、彼はこの家で近所付き合いや同居人との交流を楽しんでいる。

彼は北崎を知っている。現在北崎シェアハウスに住む知り合いから話を聞いた。

現在の北崎には「住みたくない」と回答した。その理由は箱崎に通うからである。なお、伊都に通うなら確実に住んでいるという回答も得た。その理由は、田舎暮らしができるから、またすぐに釣りに行く事ができて、その日獲った食材で晩ごはんをつくる（海鮮鍋ができるのが最高）生活ができる事である。

彼はシェアハウスに住むことには抵抗を感じておらず、むしろシェアハウス生活を望んでいる。また彼は「あまり他人の行動を気にしないため逆に迷惑をかけるかもしれない」と回答した。

3人目 C氏

学部2年生、21世紀プログラムに所属する女性である。出身は北九州である。

農学部を志望しているため、今後は箱崎キャンパスに通う予定である。

彼女はアウトドア派、自然環境豊かな所に住むことは興味がある。また地域活動も好きと回答した。

彼女は「九州大学自然環境研究会 Q-NERS」に所属しており、今津干潟を活動対象地としている。その活動の中で、今津住民及び九州大学生態工学研究室と協働で今津の空き家を改修し、水族館を作っている。改修した空き家は住むよりも使う事を重視している。子どもを対象とする生態系を学ぶ教室等のイベント以外では、空き家を部室のような使い方をしている。

宮松の物件は生協の冊子より検討。

彼女が合格後に住居探しに用いた情報媒体は、合格発表時に送付される資料に入っている住居のパンフレットである。そのパンフレットで波多江の物件を見つけ、そこに居住した。その物件に決定をした理由は、親が住む場所を指定したからである。セトル伊都も検討したが、パンフレットに素行の

悪そうな男が写っていたため親が反対した。

現在は波多江から宮松へと移住している。この時に用いた情報媒体は生協の冊子で、親と相談して決めた。しかし、逆に治安が悪い処に住むことになった。

選んだ

彼女は北崎を知っている。現在北崎シェアハウスに住む友人から話を聞いたからである。

彼女は、現在の北崎には「住みたくない」と回答した。理由は箱崎キャンパスが遠くなるからである。^北しかし伊都キャンパスに通うなら「住みたい」と回答した。

また、セカンドハウスとして使いたいとも回答した。彼女はシェアハウスに憧れがある。

住む

物が

4人目 D氏

学部2年生、21世紀プログラムに所属している女性である。彼女は対馬出身である。

希望専攻は教育学部である。そのため箱崎キャンパスがメインキャンパスとなる。

彼女はアウトドア派で、狩り部と離島研究会に所属している。自然環境の良い所に住む事に興味がある。地域行事への参加にも興味があり、姪浜の地域行事である餅つき大会に自ら参加することがある。

現在は姪浜に居住している。住む上で考慮するのは、「家賃¥40000まで」「学校までの距離」、「治安の良さ」である。またシェアハウスやルームシェアも希望している。その理由は「ひとり暮らしが寂しい、せつかくだからやってみたい」からである。

選んだ

彼女は北崎については知らないが、授業「地域づくりまちづくり概論」で聞いたことある。

現在の北崎には「住みたくない」と回答した。その理由はキャンパスが遠いからである

免許がないので駅が近いか、バスがあるかなどは気になると回答した。

もしも伊都だったら「住みたい」と回答した。理由はシェアハウスに住めば友達や地域と交流できるから。またシェアハウスに住めば自分の事をしっかりできるようになりそうだから。さらに北崎なら自然が多いから夜散歩できることも理由に挙げた。

5人目 E氏

学部3年生、21世紀プログラムに所属している男性である。彼は宮崎日南の農山漁村出身である。

理学部の地球惑星科を希望しているため、伊都に通い続ける学生である。

彼はアウトドア派で、川や海で遊ぶのが好きである。また自然豊かな環境で住むことにも興味がある。地域行事への参加にも興味がある。しかし彼の実家の地域には、行事に不参加の場合に罰金制などがあったようで、やり過ぎでなければ興味があると回答した。

現在小戸で暮らしており、妹とルームシェアをしている。なお妹は箱崎キャンパスに通う学生である。

家探しは、「学校までの距離（伊都と箱崎の中間）」、「家賃」「部屋がある程度広いこと」を重視して選んだ。不動産情報はネットの不動産情報で探した。

彼は北崎を知らないが、二見ヶ浦には行ったことがある。

北崎には「住みたくない」と回答した。その理由は、妹と一緒に暮らすから伊都と箱崎の間に住みたいからである。

住む場所には交通の便や買い物の便を重視したい。昔セトルに住んでいたがバスがないことと買い物ができないことが大変だった。なお、「田舎出身だから懐かしさがある」とも回答した。

また、彼は星を眺める事が好きなのだが、北崎は都市が近いから星が見えなさそうと回答した。

糸島市の行う補助があってもあまり住みたくはない。

6人目 F氏

研究生で政治を学んでいる男性である。彼はタイのバンコクから来た留学生である。

また一次調査で回答者 157 番として調査済みである。

彼はアウトドア派で、ハイキングやサーフィン等の野外で行う運動が趣味である。また毎日ジムで体を動かしている。

現在はドミトリに住んでいるが、年度末には引っ越しをする必要がある。

一次調査において、北崎に「住みたい」と回答をしているが、その理由は「海や山で遊べる事」、「今津運動公園が近い事」、「家賃が安い事」、「人との交流があるから寂しくない事」と回答していた。さらにこれらの理由を詳しく聞いた。

海や山で遊べることについては、彼の趣味であるマリンスポーツやハイキング等の運動ができる自然環境が近くにある事が良いと回答した。

人との交流については、彼が地域のコミュニティに関する学問に興味があることに由来している。

家賃が安い事に関して聞くと、それ以上に日本の家に住める事のほうが魅力的だと回答した。留学生は一般的に生協で引っ越し手続きをするが、アパートを勧められることが多い。しかし、アパートは母国にあるため、日本らしい住居に住めることに興味があると回答した。

また、留学生をターゲットに情報を流す場合はどうすればよいかを聞いたところ、伊都協奏館には賑やかな掲示板があるからそこを使うと良いという提案を頂いた。

7人目 G 氏

8人目 H 氏

このヒアリングは2人同時に行つた。

G 氏：工学部電気情報、福岡市内早良区育ち、イオンでバイトをしている、原付を持っている

H 氏：工学部機械航空、大阪府堺市育ち、イオンでバイトをしている。

彼らは「九州大学国際親善会 KUIFA」に所属している。

また一次調査で回答者 179, 180 として回答済みである。

KUIFA は北崎で国際交流のイベントを行つておる、北崎と関わりのあるサークルである。そこで、北崎の事を知つてゐるサークルのメンバーは多いのかどうかを聞いたところ、「KUIFA 内での北崎の認知度は高い。みんなが知つてゐるわけではないが。」との回答を得た。KUIFA 内の北崎での活動の運営は6人が中心でやつておる KUIFA のリーダーや幹事は2年生が行つてゐる。

KUIFA のメンバー構成は、伊都のメンバーが多いが他のキャンパスのメンバーも居る。週に1度のコーヒーアワーが伊都で行つてゐる。

2人に、もしも北崎を知らなかつたとしても「住みたい」と回答していたかについて聞いた。

その結果、両者から「仮に北崎に行つたことがなかつたにしても、田舎暮らしには興味があつた（経験したことがなかつた）ので『住みたい』と回答していた。」との回答を得られた。

G 氏は現在周船寺に住んでゐる。周船寺での生活には利便性を感じてゐる。一方北崎に住みたい理由としては、「北崎は便利ではないが、釣りや海辺で遊ぶのも好きだし、眺めるのも好きだから。サバイバル精神を付けたい。」と回答した。

H 氏はドミトリーに居住してゐる。北崎に住みたい理由としては、「散歩するのが好き、北崎は環境が良いからリフレッシュできそう。周船寺などだと便利なことに埋もれてしまいそう。」と回答した。

一次調査において H 氏はホームステイをしたいと回答してゐたので、その理由を聞くと、「ホームステイはメリットがありそう。ご飯が美味しいとか、地元の人しか知らないことを知れるから。ホームステイするなら小学校の子どもがいる家やおじいさんおばあさんのところにホームステイしたい。一人暮らしのおばあちゃんにはプレッシャーが大きいかなと思う。」と回答した。

次に、両者に対して「もしも北崎にすぐに住めるとしたらどうか」を聞いた。G 氏からは「すぐに住める。今はすき家をよく使うが、自炊等できるようにならないといけない。」と回答した。また H 氏は「住みたいけど、今は現状でも良いかなと思う。試験等があると学校に近いほうが良い。」と回答した。

今後 KUIFA に対して直接北崎暮らしの情報を発信するにはどうすればよいかを聞いた。その結果、メールングリストがあるので、リーダー経由で各学年にいる北崎班に情報を回して、そこから口コミで広めていくことが可能であるという回答を得た。

最後に、他のメンバーにも北崎に住みたいと言ひそうな人はいるかを聞いたところ、直接的な回答は得られなかつたが、「知らないことを知りたい人が集まるサークルなので、冒険心を持っている人は多い。」という回答を得た。

に傾く

なお、G 氏は西浦の物件をネットで調べたことがあるが、その際になかなか情報が出てこなかつた、と述べた。

環境

も経験

6-2 結果の分析

表 6-1 にヒアリングの結果の比較を示す。現在の北崎に「住みたい」と回答したのは A,F,G,H 氏の 4 人であった。一方で「住みたくない」と回答した 4 人のうち、B,C,D 氏はキャンパスが伊都なら住みたいと回答している。アウトドア派であるかという問い合わせに対しては全員がアウトドア派であると回答した。自然環境が豊かなところに住むことに対する興味、地域活動への参加に対する興味についても全員が興味ありと回答した。北崎を知っているのは B,C,G,H 氏の 4 人であった。

現在の「北崎に住みたい」または「伊都なら住みたい」と回答した学生の北崎に住みたい理由を比較した。

A,B,D,F,G,H 氏が海、山の自然環境の存在と、山登り、釣り、散歩、サーフィン等その自然を使った活動ができる点を評価している。

また A,B,D,F,H 氏は人との交流ができる点を評価している。交流の対象としては、地域住民、友達が回答された。

次に各々の特徴を述べると、

A 氏は自身の夢である空き家の改修を経験できる点で北崎を評価している。

B 氏は学研都市の暮らしに退屈さを感じていて、田舎暮らしを実際に実践している。そのため北崎暮らしにも興味を持っている。

C 氏はシェアハウスに憧れを持っている。また今津で住民と協働で古民家の改修を行った経験がある。

D 氏は所属しているサークルは自然をつかったアクティビティをするものであり、地域行事に積極的に参加する特徴がある。北崎暮らしに対しては、交通の便を気にするものの地域や友達と交流ができる点とシェアハウスに住むことで得られる経験などを評価している。

E 氏は出身地域が農山漁村であり、北崎には懐かしさを感じるが、通うキャンパスが違う妹と住んでいることで住むエリアを選ぶ際に伊都・箱崎キャンパスとの距離を重要視している。

F 氏は留学生で、運動することが好きで北崎の自然環境を使った活動ができる点と日本らしい住居に住める事を評価している。

G 氏は北崎で国際交流活動をしており、周船寺の生活の利便性を評価する一方で経験したことのない釣りや海沿いで遊ぶことなどの自然を使った活動と田舎暮らしができる点に興味を持っている。

H 氏も北崎で国際交流活動をしており、北崎の環境の良さでリフレッシュできる点を評価している。

「住みたい」回答をする学生の傾向である「アウトドア派であること」、「地域活動に参加することへの興味が有ること」、「自然環境豊かな所に住むことを重視する事」の傾向がA,B,C,D,F,G,Hの7人に確認された。またB,C,G,Hは北崎を知っていた。

また、A氏、B氏、D氏、F氏、G氏、H氏は利便性よりも経験、人との交流、運動や遊びができる環境がある事を評価している。このように、北崎に「住みたい」と回答する学生は生活の利便性よりも経験、人との交流、運動や遊びができる環境がある事を重視することが明らかになった。

表6-1 ヒアリング結果の比較

	A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	F氏	G氏	H氏
1次調査への回答	×	×	×	×	○(157票)	○(179票)	○(180票)	○(180票)
マイクキャンバス	伊都	箱崎	箱崎	伊都	伊都	伊都	伊都	伊都
出身地	広島の農村部	京都	北九州市	対馬	日南の農山漁村	タイ パンコク	福岡市早良区	大阪 神戸
アウトドア派かインドア派か	アウトドア派	アウトドア派	アウトドア派	アウトドア派	アウトドア派	アウトドア派	アウトドア派	アウトドア派
自然環境豊かなところに住む事への興味	興味あり	興味あり	興味あり	興味あり	興味あり	興味あり	興味あり	興味あり
地域活動への興味への興味	○	○	○	○	○	○	○	○
北崎を知っているか	×	○	○	×	×	×	○	○
現在の北崎に住みたいか	○	△	△	△	○	○	○	○
住みたい理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「空き家の收容がしたい」 …夢が空き家を改修して家族と住むこと ・自然が多い事。山登りに興味がある ・多世代交流ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(伊都に違うなら住みたい) ・田舎暮らしができる ・すぐに割りにいけて、獲った食材で勘定を作る生活ができる 	<ul style="list-style-type: none"> (伊都に違うなら住みたい) ・地域、友達と交流ができる ・シェアハウスに住めば自分のことをしきりができるようになりそう ・自然が多いから夜に散歩できる 			<ul style="list-style-type: none"> ・海や山で遊べる ・今津運動公園が近い ・富貴が安い ・人と交流があるから寂しくない ・自然が多いから夜に散歩できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・家賃が安い ・自然が豊か ・歴史がある ・釣り、海辺で遊ぶことが好き。 ・海を眺めるのも好き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりしている ・地域の人との交流 ・散歩するのが好き ・リフレッシュできそう
住みたくない理由	-	-	-	-	妹と2人で住んでいる。妹が箱崎、E氏が伊都なので伊都と箱崎の中間に住みたい。	-	-	-

6-3 小結

本章では、一次調査の結果を分析することで得られた学生の傾向をヒアリングによって検証し、現在の北崎に住みたい学生の傾向を確認した。また、生活する地域の生活の利便性を重視するよりも、経験、人との交流、運動や遊びができる環境がある事をより重視する学生がいる事が明らかになった。

第 7 章

考察

第7章 考察

7-1 北崎の大学生人口比率を福岡市と同程度にするために必要な九大生の移住人数

調査の結果、全九大生のうち 10%に現在の北崎への居住可能性があることが明らかになった。また 5-1 から居住可能性のある学生には「アウトドア派である」、「地域活動への参加に対し興味がある」、「住むエリアを選ぶ際に自然環境の豊かさを重視する」、「北崎を知っている」という傾向があることが明らかになった。

そこで、北崎への九大生の移住による人口問題の解決を考察する。

23

大学1年生から修士2年生を19歳から24歳と仮定して計算を行った。

住民基本台帳に登録されている平成27年9月の北崎の19歳から24歳人口は112人で、総人口は2462人であるため、19歳から24歳人口の割合は4.55%である（表7-1）。

一方、平成27年9月の福岡市の19歳から24歳人口の割合は6.70%である。

北崎の総人口は2462人であるため、6.70%は165人である。現在の北崎の大学生世代人口は112人である。そのため、福岡市の大学生世代人口に近づけるためには、あと53人である。（図7-1）

ここで、北崎に不足している19-24歳人口2.15%分を伊都キャンパスに通う九州大学の学生で補う方法を考える。

仮に、毎年10人ずつ九大生が北崎に住むことになり6年間定住するとすれば、6年後には北崎の19歳から24歳人口の割合は福岡市と同等になる。（図7-2）

ここで、平成27年11月に伊都キャンパスに通う学生は9511人である。調査結果より10%の学生が現状の北崎に「住みたい」と回答していることから、伊都キャンパス内に951人に居住可能性がある。

この951人から毎年10人の北崎への移住希望者を探せば良い。

なお毎年10人というのは、伊都キャンパスに通う学生9511人の内0.1%，さらに居住可能性のあると考えられる951人中1%である。

また、居住可能性のある九大生950人を学部1年生から修士2年生までの6学年で割ると、1学年当たり150人である。つまり、1年生を新規で北崎に移住させるとしても、

150人>10人

である。（図7-3）

この事から、現在の北崎への居住可能性があると考えられる学生の数は、北崎の大学生世代人口比率を福岡市と同じにする為には十分であることが明らかになった。

表 7-1：北崎と福岡市の 19-24 歳人口割合の比較

年齢	現在の北崎の人 口(人)	北 崎 の 19-24 年齢人 口割合(%)	福 岡 市 の 19-24 年齢人 口割合(%)	何人入れると福岡 市の比率に等しくな るか(人)
19 歳	15	0.51	0.98	9
20 歳	20	0.81	1.04	6
21 歳	17	0.69	1.10	10
22 歳	20	0.81	1.14	8
23 歳	22	0.89	1.23	8
24 歳	18	0.73	1.21	12
計	112	4.55	6.70	53

(北崎および福岡市の人口データは平成 27 年住民基本台帳を参照した)

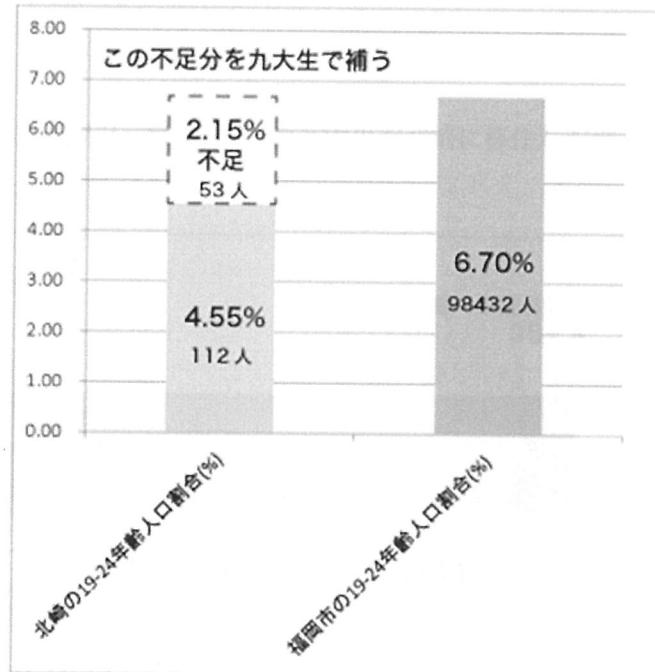


図 7-1 北崎と福岡市の 19-24 歳人口割合の比較

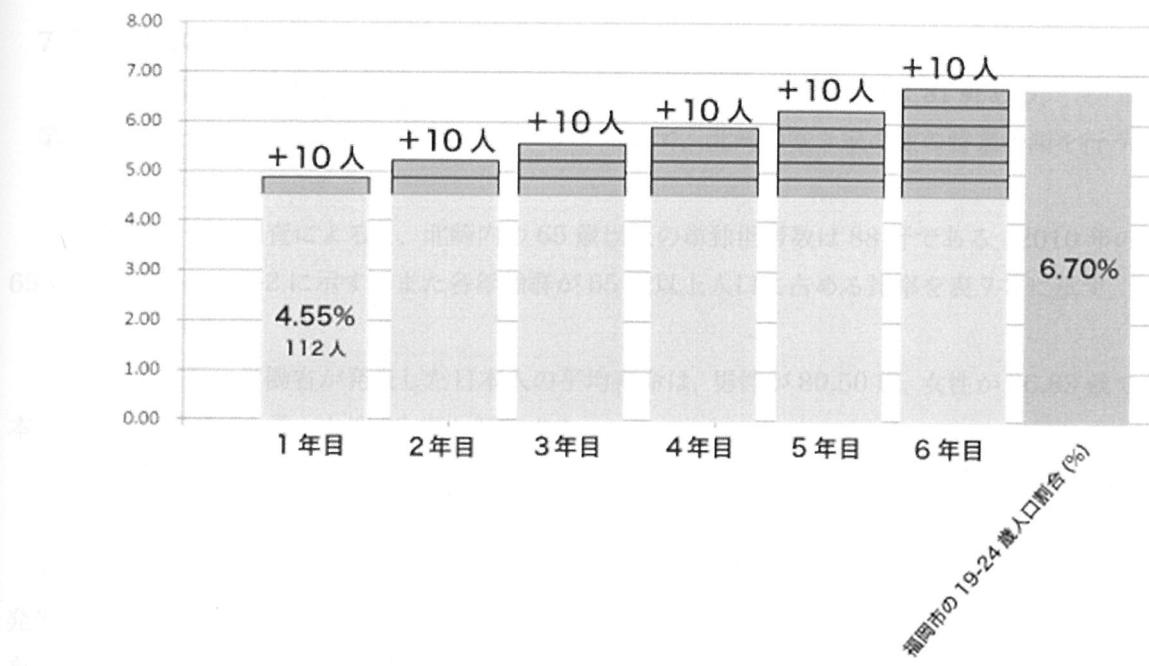


図 7-2 毎年 10 人の九大生が北崎に移住した場合

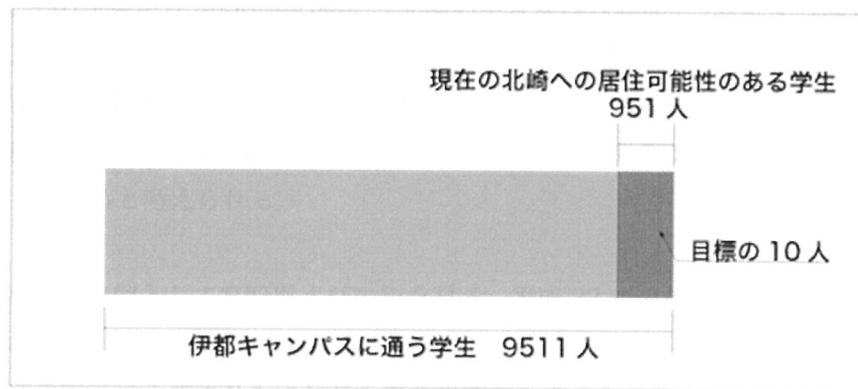


図 7-3 伊都キャンパスに通う学生数と移住対象の 10 人の比較

7-2 北崎内の空き家数の将来予測

北崎自治協議会が2014年に行った空き家調査によると、空き家の数は31軒ある。

第2章で行った北崎の将来人口予測のデータを用いて、北崎の空き家の数の将来予測を行う。

2010年の国勢調査によると、北崎内の65歳以上の単独世帯数は88軒である。2010年の北崎の65歳以上人口を表7-2に示す。また各年齢群が65歳以上人口に占める比率を表7-3に示す。

2014年に厚生労働省が発表した日本人の平均寿命は、男性が80.50歳、女性が86.83歳である。本考察では、男性80歳、女性85歳と仮定する。

65歳以上の単独世帯数を各年齢群が占める比率に合わせて分配した。その結果を表7-4に示す。このデータを用いて、北崎の空き家数を予測した。図7-4に予測の考え方を示す。

平均寿命に達するとその年齢群の人口が全て自然減少すると仮定する。1人の減少で空き家が1軒発生する。2015年の北崎の空き家を31軒とし、この方法を用いる事で2025年まで空き家の増加数を計算した。表7-5にその結果を示す。

2015年から2020年にかけて18軒の空き家が増えて、北崎の空き家は49軒になった。さらに2020年から2025年にかけて20軒の空き家が増えて、北崎の空き家は69軒になった。

この結果から、2015年から2030年の間に、北崎の空き家は5年間で20軒ずつ増えていくことが明らかになった。平均すると、毎年4軒ずつの空き家が増えることになる。

しかし、この考察では65歳以上の単独世帯数のみを対象としているが、実際は2人以上の世帯も存在する。2010年の北崎内の65歳以上の世帯数は154軒であるため、実際の空き家の増加数はこの結果よりも多くなると考えられる。

ここで、過疎地域の例として宮崎県えびの市を見る。平成27年の住民基本台帳から、えびの市の高齢化率は39%であり、空き家率は19.3%である。現在の北崎の高齢化率は36.7%である。この比較から、北崎の空き家率は予測よりもより高くなる可能性も考えられる。

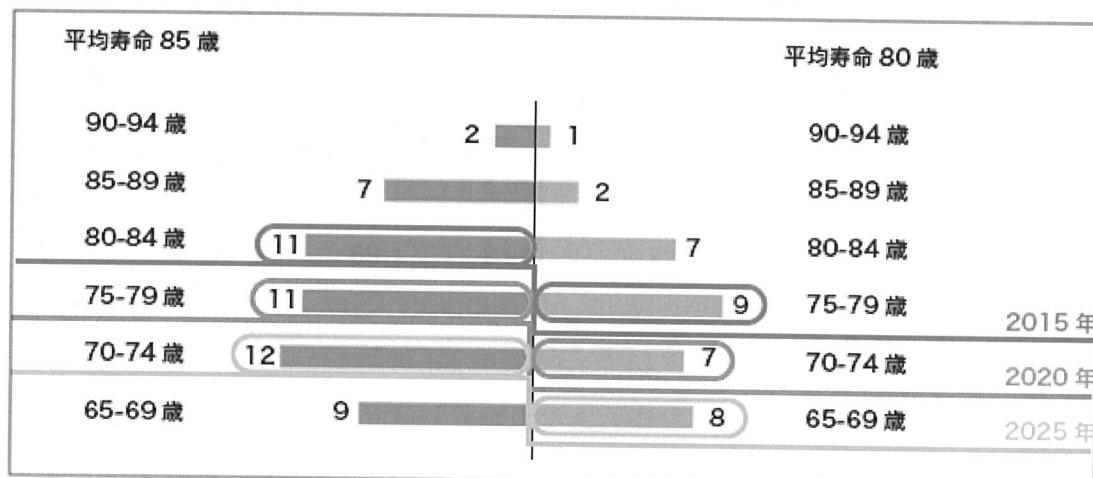


図7-4 5年間で増加する空き家数

表 7-2 2010 年の北崎の 65 歳以上人口 (国勢調査)

	総数	男	女
65～69歳	140	67	73
70～74歳	169	63	106
75～79歳	176	79	97
80～84歳	155	59	96
85～89歳	81	18	63
90～94歳	23	6	17
95～99歳	5	2	3
100歳以上	1	0	1
計	750	294	456

表 7-3 2010 年の北崎の 65 歳以上人口比率 (国勢調査)

	総数	男	女
65～69歳	0.187	0.089	0.097
70～74歳	0.225	0.084	0.141
75～79歳	0.235	0.105	0.129
80～84歳	0.207	0.079	0.128
85～89歳	0.108	0.024	0.084
90～94歳	0.031	0.008	0.023
95～99歳	0.007	0.003	0.004
100歳以上	0.001	0.000	0.001
計	1.000	0.392	0.608

表 7-4 各年齢群の比率で分配した 65 歳以上の単独世帯数

	男	女
65～69歳	8	9
70～74歳	7	12
75～79歳	9	11
80～84歳	7	11
85～89歳	2	7
90～94歳	1	2
95～99歳	0	0
100歳以上	0	0
計	34	54

表 7-5 2015 年から 2025 年の 5 年毎の空き家の増加数と空き家の総数及び空き家率

年	増減数	空き家数	空き家率
2015	-	31	4.0%
2020	18	49	6.3%
2025	20	69	8.9%

7-3 空き家問題に対する居住可能性があると考えられる九大生の影響

前項の結果、2015-2025年には、1年で4件の空き家が発生すると考えられる。空き家は管理されない事により雑草の乱立、老朽化による倒壊などの問題がある。そこで、発生した空き家に居住可能性があると考えられる九大生が住むことで、空き家問題を解決することを考える。

空き家は1軒家なので、筆者らのように1軒に3人ずつ住むと仮定する。

1年で4軒の空き家が発生することから、それぞれの空き家に九大生が入居するとした場合、

$$4\text{軒} \times 3\text{人} = 12\text{人/年}$$

の九大生が北崎に移住する必要がある。

ここで、伊都キャンパス内に現在の北崎に住んでも良いと考える学生は950人存在し、各学年に150人存在すると考えられる。この150人は、毎年12人という目標には十分である。

よって、現在の九大生の居住可能性は北崎の空き家問題の対策をする上でも十分であると考えられる。

7-4 小結

本章では、現在の九大生の北崎への居住可能性は、北崎の大学生世代の人口比率を福岡市と同じ6.5%にすることや、九大生が北崎に住むことで北崎の空き家問題を解決することも十分可能であることが明らかになった。

第8章

結論

第8章 結論

8-1 結論

本研究は、九大生の北崎への居住可能性を対面聞き取り調査によって明らかにすることを目的とした。

第2章において北崎の将来人口推計を行い、北崎に大きな変化がない限り人口減少と少子高齢化が進み、限界集落化や小中学校の統廃合の可能性があることが明らかになった。

調査の結果、現在の北崎への居住可能性がある学生は、全九大生のうち10%であることが明らかになった。

更に一次調査、二次調査結果を分析することで、現在の北崎への居住可能性のある九大生には以下の傾向があることが明らかになった。

- ・アウトドア派である
- ・地域活動への参加に対し興味がある
- ・住むエリアを選ぶ際に「自然環境の豊かさ」を重視する
- ・北崎を知っている

そして、第7章にて、現在の九大生の北崎への居住可能性は、北崎の大学生世代の人口比率を福岡市と同じ6.5%にすることや、九大生が住むことで北崎の空き家問題を解決することも十分に可能であることが明らかになった。

8-2 今後の課題

本研究では、現在の九大生への居住可能性が明らかになった。また学生が持つ課題を改善していくことで、居住可能性が向上することも明らかになった。

北崎は人口減少、少子高齢化が進行していくため、生産年齢人口の増加を推進する必要がある。本研究においての対象は大学生世代であるが、北崎の少子化に歯止めを掛けるためには、子育て世代の定住が必要である。そのため、生産年齢人口である子育て世代に対しても居住可能性を向上させる必要がある。

また、北崎への九大生の居住可能性は明らかになったが、実際の九大生居住を推進させるには、九大生に北崎での居住の情報を届ける必要がある。

謝辞

謝辞

本論文の執筆にあたり、本当に多くの方々にご協力いただきましたことを、心より感謝申し上げます。

指導教官である樋口明彦准教授には、研究そしてプロジェクトにおいて、熱いご指導をしていただきました。まだまだ未熟な私の行動や言動に対して、大人としての対応とは何なのかをご教授頂きました。社会人としての常識を知らない私が社会の一員になる為にその訓練の機会を頂けた事は、景観研究室でのかけがえのない思い出です。先生からの的確な指導は、自分自身の見て見ぬふりをしている部分を見つめなおす事ができる機会でもありました。修士1年の時、私のプロジェクトマネジメント能力に対し厳しいご指導を頂きました。その時は己と向き合う辛い時期もありました。しかし、先生からの明快な指導があったからこそ、己の弱点とも向き合うことが出来ました。九州大学での経験の中で、景観研究室で学べたことは私の人生を大きく変える要因となりました。濃厚な3年間を送ることができたことに、厚くお礼を申し上げます。

そして、私達の論文執筆を共に進めて下さった榎本碧特任助教には沢山のご迷惑をおかけしました。私の拙い言葉と整理されない論調に対して丁寧な説明で返答をしていただきました。論文の構成や情報の伝え方など、お忙しい中で数多くのアドバイスを頂けたことに感謝の意を表します。

北崎校区の皆さんからは温かい応援を頂きました。突然北崎に住むことになり当初は困惑も有りましたが、北崎を考える会の皆さんのおかげで普通の学生生活では経験できないような生活を送ることができました。そして北崎に住む九州大学生という立場でこの研究を進めることができました。この研究が少しでも北崎の元気に繋がることを願っています。

北崎シェアハウスでは、景観研究室同期の鍛治昌男氏、高崎竜太朗氏と生活を共有出来たことはとても貴重な経験でした。塾生の子ども達には北崎の事を沢山教えてもらいました。唐泊の皆さんからも温かく見守って頂きました。特に鍛治昌男氏とは研究室生活の3年の時間をほとんど共に過ごしたことになりますね。チームとしてなかなか機能することができなかつたことも有りましたが、これまでの努力を共有し、一つは鍛治君の論文に、そしてもう一つは私の論文として共に形にすることができました。ありがとうございます。北崎シェアハウスでの出会いは僕の宝物です。

研究室の同期である、鍛治昌男氏、ジョン・サンミン氏、胡依格氏、後輩の鮫島翔太氏、松浦裕大氏、高楊春子氏、大瀬花梨氏、工士くるみ氏、スティーブン氏には研究や他の場面でも協力していただきました。お世話になりました。みんなで頑張った事は大切な思い出です。

父へ。私の学生生活を6年も見守ってくれて、本当にありがとうございます。体調が悪くなった時くらいにしか連絡もしませんでしたが、なぜか今やっているのかを知っていて、ブログで私の生存確認をしてくれていましたね。自分の道を選ぶための時間と、とても多くの経験を詰む機会を与えてくれたことで、この論文を書き上げることができました。これからは私が恩を返す番です。

祖母へ。私の母代わりとなって、6年の大学生活をサポートしてくれて、ありがとうございます。なかなか実家に帰れない私を気遣ってくれましたね。忙しい時にはなかなか手伝いに行くことも出来ませんでしたが

これからも健康に暮らしてください。

母へ。私を産んでくれて、ありがとう。大学生活は楽しいことも辛いことも一杯で、本当に沢山の思い出が詰まった6年でした。今こうして論文を書き上げられたことも、母と父からいっぱい愛情を頂きながらここまで育つことが出来たからです。私はこれからも前に進みます。どうか天国から見守っていてください。

2015年2月19日

河津 憲嗣